

紀要

創刊号
2018年12月

目次

I	論文	
	初級文法クラスにおける授業引継ぎ ―授業記録の分析を通して― ……………	田中 信之 1
	日本人大学生のグローバル志向育成強化 ―実践的かつ挑戦的アプローチとして「留学のための教養講座」と 「国際交流活動論」講座を活用して― ……………	バハウ サイモン ピーター 副島 健治 12
	<研究資料> 漢字教材開発のための基礎資料 ―中・上級日本語学習者の漢字読みテストにおける誤答― ……………	濱田 美和 19
	<実践・調査報告> 留学生と日本人学生の合同授業におけるディスカッションの試み ―学生アンケート結果からの考察― ……………	小木曾 左枝子 大西 吉之 34
II	年報（2017年4月～2018年3月）	
	1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 ……………	45
	2. 日本語プログラム報告 ……………	51
	日本語課外補講報告 ……………	52
	ライデン大学短期日本語研修プログラム報告 ……………	59
	総合日本語コース報告 ……………	66
	日本語プログラム授業アンケート 初級クラス ……………	73
	日本語プログラム授業アンケート 中級クラス ……………	77
	日本語プログラム授業アンケート 上級クラス ……………	83
	日本語学習支援サイトRAICHO報告 ……………	91
	3. 国際交流センター関連行事 ……………	92
	4. 国際交流センター教員等担当業務 ……………	96
III	資料 ……………	99

富山大学国際機構

紀要

創刊号
2018年12月



I 論文

初級文法クラスにおける授業引継ぎ —授業記録の分析を通して—

田中 信之

Analysis of Teaching Records' Representations of Elementary Japanese Grammar Class Contents

TANAKA Nobuyuki

要 約

本研究では初級文法クラスにおける授業引継ぎの授業記録の分析により、教師が共有しようとする中身を明らかにした。テキストマイニングにより授業記録を分析した結果、「授業の様子」では日本語学習や体調や態度について、どのような学生が多かったかを記述していた。また、文型や会話の練習に関する記述があり、そこには教師の振り返りも見られた。「学生の様子」では、理解と形の頻度が高かった。理解は文法や文型と共起し、形は活用形として使用される場合や、変換や間違えるなどの語と共起していた。これには文法積み上げ型の授業の実施が背景にあると考えられる。授業記録と講師ミーティング議事録と比較した結果、語の一致率が低く、両者は異なる役割があることが確認された。その一方で、どちらにも教師の内省があまり見られなかった。今後、授業引継ぎや講師ミーティングは教師が振り返り、それを教師間で共有していく場としていく必要がある。

【キーワード】 初級文法クラス 授業引継ぎ 授業記録 チーム・ティーチング テキストマイニング

1 はじめに

初級の文法クラスはチーム・ティーチング¹⁾で実施されることが多い(峯・長野 2010, 杉本・山本・小松 2013 など)。チーム・ティーチング(TT)とは「複数の教師がティームを組んで、授業の計画・実施・評価を協力的に行うこと(横山 2005: 811)」である。また、横山(2005)は同僚の日本語教師同士のTTの形態では、「複数の教師が協力体制を組織することにより、多面的、弾力的な指導が可能になる。また、ティームの構成員である教師間の打ち合わせを通して、学習者観察の結果や指導方法のアイデアなどさまざまな情報や意見の交換が行われ、結果として相互の力量の向上につながる効果があると思われる。」と述べている。このように、チーム・ティーチングは教師間の協働であり、それは授業の質の向上に加えて、教師自身の力量形成にもかかわっている。丸山(2005: 49)は「複数担当制にした場合に重要なことは、毎回の授業後の引き継ぎ連絡である。」としているが、「授業引継ぎ」は教師をつなぐ一つの手段と言える。本研究では、教師間協働において重要であるにもかかわらず、これまであまり注目されてこなかった「授業引継ぎ」に焦点を当てる。

2 先行研究

「授業引継ぎ」において、何を引き継ぐのか(内容)、どうやって引き継ぐのか(方法)、引き継ぎをどう活かすのか(評価・改善)の三つの観点から先行研究を見てみる。引継ぎの内容について、丸山(2005: 49)は「授業が終わったら即座に、進捗・定着状況、使用した教材、出した宿題、遅刻・欠席者などを伝えるとともに次回の指導の範囲などを確認し合う。コーディネーターは、そのための連絡先リストを作成・配布しておく。また、クラスごとの「授業連絡ノート」を用意しておくとうい。」と述べている。つまり、授業は教科書のどこまで進み、学習者は文型を身につけたかどうか引継ぎの重要項目であると捉えられている。

一方、河野・小河原（2006：231）は「この引き継ぎは、チームでコースを運営していく上では不可欠ですが、それが単に引き継ぎノートとして、教科書のどこからどこまで進んだとか、やった練習問題の番号を書くだけになっていたら、そんなことは学習者に聞けばわかりますし、引継ぎの意味がありません。例えば、自分はどのように考えて文型を導入したのか、このように導入したから恐らく学習者はこのように考えているはずだ、学習者からこんな質問が出た、だからこのように回答したといった、次の授業に教師が入るときに引き継いでおくことで、学習者が混乱してしまうことがないようにするのが、そもそもの引継ぎのはずです。」と述べている。つまり、学習者に焦点を当てただけではなく、教師自身がどのように考えたかなど、教師が自身を振り返った内容を記録し、それを引き継ぐことだと主張している。

次に、授業を引き継ぐ方法として、近年では連絡ノートにかわり、メールが一般的となっているが、Web上に記録し、閲覧する方法もとられている。脇田・越智（2006）は「教師のチームティーチングの授業連携をより円滑に、経費の負担を軽くすることを目的に」、学習管理システムである Moodle を使用した。同様に、深川・山本（2012）は「授業の引継ぎや授業の様子などは口頭や紙による申し送りで行っていたが、その連絡方法の煩雑さが問題であった」ことが一つの問題点として、履修登録・授業記録システムを構築した。このように授業引継ぎを Web 上で行うことはチーム・ティーチングにおいてメリットは大きいと言えよう。

最後に、「授業引継ぎ」をただの連絡で終わらせないために、どのように授業記録を活かすべきであろうか。林・西川（2005：783）は「日常の学習活動の観察記録、学習者一人一人について記録した学習者カルテ、授業記録、教師間の引き継ぎノートなども、学習状況の把握や授業改善を目的とした評価のための情報であり、出席状況、課題の提出状況もこれらの一部として記録されることにより重要な情報となる。」と述べており、授業記録が授業改善を目的とした形成的評価に役立つとしている。また、杉本・山本・小松（2013）は教室文脈を活用した授業実践を行い、教員間で授業記録を共有した結果、「詳細な授業記録は、自らの授業を内省するきっかけにもなった。（中略）筆者らの互いの授業記録は、次の授業展開のヒントになると同時に、教師自身に新たな気づきを与える刺激でもあった。そして、思いの詰まった授業記録を共有することで、教師間の連携が保たれ、信頼も強固になっていった。」と述べている。つまり、授業記録を書くこと自体が内省のきっかけになり、さらには、それを共有することが教師間協働につながるということである。これは河野・小河原（2006）の指摘する教師である自身を主語とした授業引継ぎの実践例だと言えるだろう。

授業記録を評価に結び付けた先行研究に鎌田他（2008）、趙・長谷川（2011）がある。鎌田他（2008）は「面接や質問票調査により新たなデータを取ることなく、蓄積されたデータからでも評価を始めることができるのではないだろうか。」と述べ、授業記録を分析することにより、プログラム評価を試みている。授業記録において肯定的なコメントと否定的なコメントの割合を調べた結果、学習者の最終到達点の高かったクラスほど肯定的なコメントの割合が高いことがわかった。また、趙・長谷川（2011）は、日本語教育の現場で教えた経験の有無による授業報告の形式と内容の違いと、学期を通じたその変化を調査した。分析の結果、形式の面では経験者と未経験者の間に特徴はなく、内容において特徴が見られた。また、経験者は内容に変化が見られた一方で、未経験者は形式の面で多少変化が見られたが、定着しなかった。これらのことから、授業報告の書き方に関する指導の必要性を主張している。このように、授業引継ぎにおける授業記録は評価や改善に向けた有用なデータだと言えるだろう。

3 研究目的

本研究の目的は初級文法クラスにおける授業引継ぎのための授業記録を分析することにより、教師が共有しようとする中身を明らかにすることである。また、学期末に行われる初級クラス講師ミーティングの議事録（以下、講師ミーティング議事録）と比較分析する。これらの分析から初級文法クラス

の改善に向けた検討を行いたい。

4 研究方法

4.1 対象科目と学習者

富山大学国際交流センター²⁾日本語プログラムの初級文法クラスを対象とする。本文法クラスは1日に2コマ(1コマは90分)で月曜日から金曜日まで毎日開講されている(1学期は15週)。文法クラスの教師は1日2コマを担当し、5名(学期によっては2日担当する教師がおり、4名)でチーム・ティーチングを行う。教科書は『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』(スリーエーネットワーク)を使用した。

文法クラスの学習者は、文部科学省から配置される国費研究留学生、教員研修留学生、大学に在籍する大学院生・研究生・研究員などである。学習者の国籍は中国をはじめとしたアジアが大多数を占めている。学習者の人数は学期によって異なるが、5名から15名程度と幅があった。

対象の授業期間は2013年度～2015年度の3年間(6学期)である。なお、授業記録を執筆した教師に対し、①研究の趣旨、②授業記録のデータとしての利用、③教員を特定した分析は行わないこと、以上の3点を口頭あるいは文書で説明し、全員から許諾を得た。

4.2 授業記録システム

富山大学国際交流センターでは、2005年度に授業記録システムを構築し、2006年度から稼働している。2005年の授業記録システム立ち上げの際に記された「授業記録システムの概要」の一部を掲載する³⁾。

富山大学留学生センターでは、現在、本学で学ぶ留学生を対象として、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラムの4種類の日本語プログラムを開講している。これらのプログラムでは、留学生センターの専任教員および非常勤講師が授業を担当しているが、半期で約50の授業が開講され、しかも通常の大学の授業と多少異なり、プログラムごとに授業同士が進度や内容において緊密に関係を持ちながら進むという特徴がある。また、日本語研修コースや日韓プログラムは、集中プログラムであるため、学生の変化などに注意を払い、常にきめ細かな指導を行っていく必要がある。コースコーディネーターや授業担当者は、授業の内容、受講者の様子などについて、最も新しい情報をもとにして、授業を実施しなければならない。

そのために、留学生センターでは、授業の内容や進度、個々の学生の出欠状況や理解度などの詳細な授業の記録をすべての授業ごとにつけるようにしてきた。これは、前述したように、日々の授業改善のためでもあり、また、コース全体の改善のためでもある。

このように本授業記録システムは、脇田・越智(2006)、深川・山本(2012)と同様に、授業引継ぎを円滑に行うという目的もあるが、それに加えて、授業改善、コース全体の改善が大きな目的として強調されている。

本授業記録システムには、図1のとおり、「内容」、「授業の様子」、「連絡事項」、「学生⁴⁾の様子」などを記入することができる。「内容」は授業の内容で、どのような活動をどのような順で行ったかなどを記入する。「授業の様子」は、授業全体について気づいたことなどを記入する。「連絡事項」は、会話DVDが視聴できなかったことや、宿題返却ができなかったことなど、次の担当教師に連絡したいことを記入する。「学生の様子」は学習者一人一人の欄があり、授業中の様子などを記入する。なお、図1はレイアウトの関係上、出欠の入力欄は削除し、「学生の様子」欄は並列に表記した。学生の名前は、個人情報保護、セキュリティの観点から、すべて仮名を使用している。

文法A1 年度 平成29年度 新学期 曜日・時間 木曜 1限 担当教員 田中

■授業記録登録
授業内容を入力し、登録ボタンを押してください。

授業日	2018/8/2木曜 1限
内容	<input type="text"/>
授業の様子	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>

学生の様子	▼日本語研修コース カ/ビシハトセ <input type="text"/>
	▼日本語課外補講 カケツヨウエム <input type="text"/>
	カヒシノケンキ <input type="text"/>

図1 授業記録システムの授業記録登録ページの一部

4.3 分析方法

テキストマイニングにより授業記録を分析する。テキストマイニングにはKHcoder3（樋口 2014, 2017）を使用した。KHcoderはテキスト型（文章型）データの分析方法、「計量テキスト分析」をするためのフリーソフトウェア（自由ソフトウェア）である。計量テキスト分析の目的は、データ探索と、分析の信頼性の向上である。すなわち、データの中のどの部分を人間が詳しく見るかという示唆が得られること、研究手法が批判・検討・検証に耐えるオープンさを有している意味での客観性を高めることにつながることである（樋口 2017：335）。ここで重要なのは、計量テキスト分析は量的な分析ではあるが、「人間が文章を目で読み、質的に解釈することを決して否定していない。むしろ計量的な分析の結果を参考にして、もとの文章の質的な解釈を行う方法である（樋口 2017：335）。」ということである。

分析対象は、授業記録システムに入力された「授業の様子」と、各学習者に対するコメント「学生の様子」である。授業記録システムの「内容」「連絡事項」はデータ対象外とする。

さらに、「授業の様子」と「学生の様子」の比較対象として講師ミーティング議事録も分析する。学期期間中の授業記録と、全授業終了後の議事録を比較することにより、その違いを見る。なお、講師ミーティング議事録は、初級クラスコーディネーターである筆者が主として作成したが、他の初級クラス担当教員も一部加筆した。授記記録と同様に2013年度～2015年度の3年間（6学期）分であり、計6回分の議事録となる。

5 結果と考察

5.1 抽出語リストの各形態素の頻度

KHcoderを用いて形態素別⁵⁾の抽出語リストを作成した。「授業の様子」「学生の様子」「講師ミーティング議事録」の総抽出語数と異なり語数は、それぞれ30,541と1,989,191,390と3,990,5457と794であった。「学生の様子」は教師が一人一人についてコメントしたもので、語数が圧倒的に多くなっている。表1～表3は「授業の様子」「学生の様子」「講師ミーティング議事録」に見られた各形態素別の頻度で、名詞、形容動詞、動詞、形容詞の上位10位までを掲載した。

表1 「授業の様子」における各形態素の頻度

名詞	頻度	形容動詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度
学生	272	スムーズ	53	話す	95	多い	167
練習	181	元気	24	出る	89	難しい	57
形	161	正確	24	言う	88	楽しい	33
理解	133	普通	24	見る	76	少ない	28
人	130	いろいろ	19	覚える	71	新しい	28
授業	111	活発	19	使う	53	明るい	26
文型	92	簡単	16	取り組む	46	悪い	22
質問	86	真面目	15	間違える	44	大きい	13
語彙	79	大変	14	言える	43	速い	11
復習	77	疑問	12	聞く	39	遅い	10

表2 「学生の様子」における各形態素の頻度

名詞	頻度	形容動詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度
理解	1736	正確	347	言う	703	多い	654
欠席	1413	適切	166	話す	566	難しい	197
練習	867	普通	147	覚える	544	少ない	159
形	807	スムーズ	144	見る	520	正しい	142
質問	727	滑らか	132	間違える	507	速い	126
語彙	675	真面目	103	使う	410	細かい	100
積極	622	必要	86	出る	388	早い	91
発話	590	疑問	82	答える	371	楽しい	79
学生	583	熱心	82	書く	322	明るい	67
文型	582	元気	72	聞く	301	悪い	66

表3 講師ミーティング議事録における各形態素の頻度

名詞	頻度	形容動詞	頻度	動詞	頻度	形容詞	頻度
日本語	55	必要	23	行う	20	多い	13
テスト	51	特別	6	考える	11	難しい	10
漢字	47	十分	4	見る	9	悪い	3
授業	45	大変	4	書く	8	厳しい	3
学生	40	可能	3	扱う	6	高い	3
語彙	40	活発	3	感じる	6	少ない	3
クラス	39	個別	3	思う	6	細かい	2
学習	39	重要	3	学ぶ	5	良い	2
解	27	適当	3	出る	4	易しい	1
コース	19	さまざま	2	伸ばす	4	楽し	1

上位10位までの語(node)の一致率を見ると、「授業の様子」と「学生の様子」は72.5%一致しており、「授業の様子」と「ミーティング議事録」は27.5%の一致率、「学生の様子」と「講師ミーティング議事録」は25%の一致率となっている。このように、授業記録の語はある程度一致しているのに対し、授業記録と講師ミーティング議事録の語は大きく異なっている。

「学生の様子」の名詞2位は「欠席」であるが、これは「学生の様子」欄に、欠席した学生は「欠席」とのみ入力しているため、頻度が多くなっている。

5.2 共起ネットワーク

次に、語と語の結びつきを「共起ネットワーク」で探った。「共起ネットワーク」とは「出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク」のことである。円は語(node)をあらわし、語の出現数(frequency)に応じて円のサイズが変化する。また、円と円を結ぶ線は共起関係をあらわし、共起の程度(係数:coefficient)に応じて線の太さが変化する。本分析では、比較的強くお互いに結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを、その結果を色分けによって示す「サブグラフ検出(modularity)」を利用した。サブグラフ(subgraph)とは「比較的強くお互いに結びついている部分」である(樋口2018:66)。また、KH Coderの「KWIC コンコーダンス」を用い、サブグラフの各抽出語がどのように用いられていたのかを探った。本稿では、すべてのサブグラフを分析するのではなく、頻度の多い語を含むサブグラフや分析者が特徴的だと判断したサブグラフを中心に見ていく⁶⁾。

5.2.1 授業の様子

図2は「授業の様子」の共起ネットワークである。表1で見たとおり、「授業の様子」では「学生」に関する記述が多いことがわかる。サブグラフ04を見ると、「学生」は「多い」「理解」と共起の線で結ばれている。実際の記述では、「いつもより少人数だったので、話す機会が増え積極的に質問する学生が多かった。」「体調を崩している学生が多く、いつもほど活気がなかった。」「暑くなってきたせいかな、ダレている様子の学生が多く見られた。」などがあつた。どのような学生が多かったかという記述は、日本語学習面だけではなく、体調面や態度を対象としていた。また、「理解の速い学生が時間のかかる学生を自発的にフォローしてくれていた。」のように、どのような学生かを修飾する語として「理解」が用いられている例もあつた。

次に、サブグラフ01の「積極」を見る。「積極」は、表1のとおり、頻度の10位に入っていないが、「取り組む」「話す」「質問」「発話」「明るい」と多くの語と結びついているため、特徴語として取り上げる。例えば、「人数が少なめだったからか、いつもおとなしくしている人が、積極的に話したり、質問したりしてきた。」「受身は場面を設定すると、これまで下位レベルだった学生も積極的に文を作って発話している。」「本課の授業も積極的に取り組み、笑いを交えながら、明るく楽しい雰囲気の中で学習できた。」などが記述されていた。このように、学習者の積極性をあらわすだけでなく、「明るい」「雰囲気」など、授業全体の様子をあらわしていた。

次に、サブグラフ02の「練習」を見る。「練習」は「文型」「言う」「会話」と共起の線で結ばれている。「余裕のある人は、新しい言葉を聞いて、ノートに取ったり、少し会話を広げて練習している人もいた。」「自動詞と他動詞がたくさん出てきて大変そうだったが、何度か練習するうちに、だんだん言いなれてきた。」「一つ一つの文型練習はよくできているのだが、会話練習になると、適切な文型を選択できなくなってしまう。」のように、学習者の練習の様子を記述していることがわかる。

他方、「最後に、「機械の使い方を聞く」ということで、「とき」の復習も兼ねた応用会話の練習をしたが、上位の学生以外にはきつかった様子。」「最初、連体修飾がうまく作れない人がいたが、短文から練習したら、後半はスムーズに言えるようになった。」「また、文型練習を中心としたため、なんとなく重い雰囲気になってしまった。」「16課の文法事項は一通りしたが、運用練習がやや不足だったかもしれない。」などの記述が見られた。先行研究の杉本・山本・小松(2013)で見たように、これらは教師の振り返りと言えらる。ここでは学習者のみに焦点が当たるのではなく、授業の様子から見た教師自身の実践の内省が窺える。しかしながら、「授業の様子」において、その数は多くない。「授業の様子」という項目自体が学習者視点とした記述になりやすいのが一因だと考えられる。先行研究で見たとおり、授業記録を記述する機会は教師にとって内省の機会となる。「授業の様子」という項目を変更するか、あるいは項目名に関係なく、教師が柔軟に授業記録を記述していく必要がある。

リストを見せて「んです」の形を考えるように助言した。」のように、活用形を指す「形」も使われていた。

最後に、「授業の様子」で取り上げた「積極」を見る。サブグラフ03を見ると、「積極」は「発言」「話す」「発話」「質問」と共起の線で結びついている。例えば、「理解も比較的早く、明るく積極的に話す性格のようなので今後の伸びが期待できる。」「積極的に発話しようという姿勢が見られる。」のように、学習者が積極的に「話す」「発言する」「発話する」ことが記述されている。また、「わからないことは積極的に教師に質問し、確実に理解していこうという姿勢がある。」のように、積極的に質問するという記述も見られた。一方で、「授業の様子」で見られた「明るい」や、「クラスの雰囲気」「全員が積極的に取り組む」など、学習者全体やクラス全体のことを指す「語」との結びつきはなかった。

このように、「学生の様子」では、「理解」と「形」の頻度が高く、「理解」は「文法」や「文型」と共起し、「形」は活用形としての「普通」形や「変換」「活用」「間違える」という語と結びついていた。これらのことは、『みんなの日本語』を使用し、いわゆる文法積み上げ型の授業を行っていることが背景にあると考えられる。また、「授業の様子」と「学生の様子」のどちらにも「積極」があらわれており、教師が学習者を評価するうえで、大きなポイントとなっていることがわかる。これらには教師の言語観が反映されている可能性があるが、授業記録のデータだけでは判断できない。これらの結果をもとに、教師がお互いの言語観を共有していくことこそが重要であり、教師の内省や授業改善に役立つものと考えられる

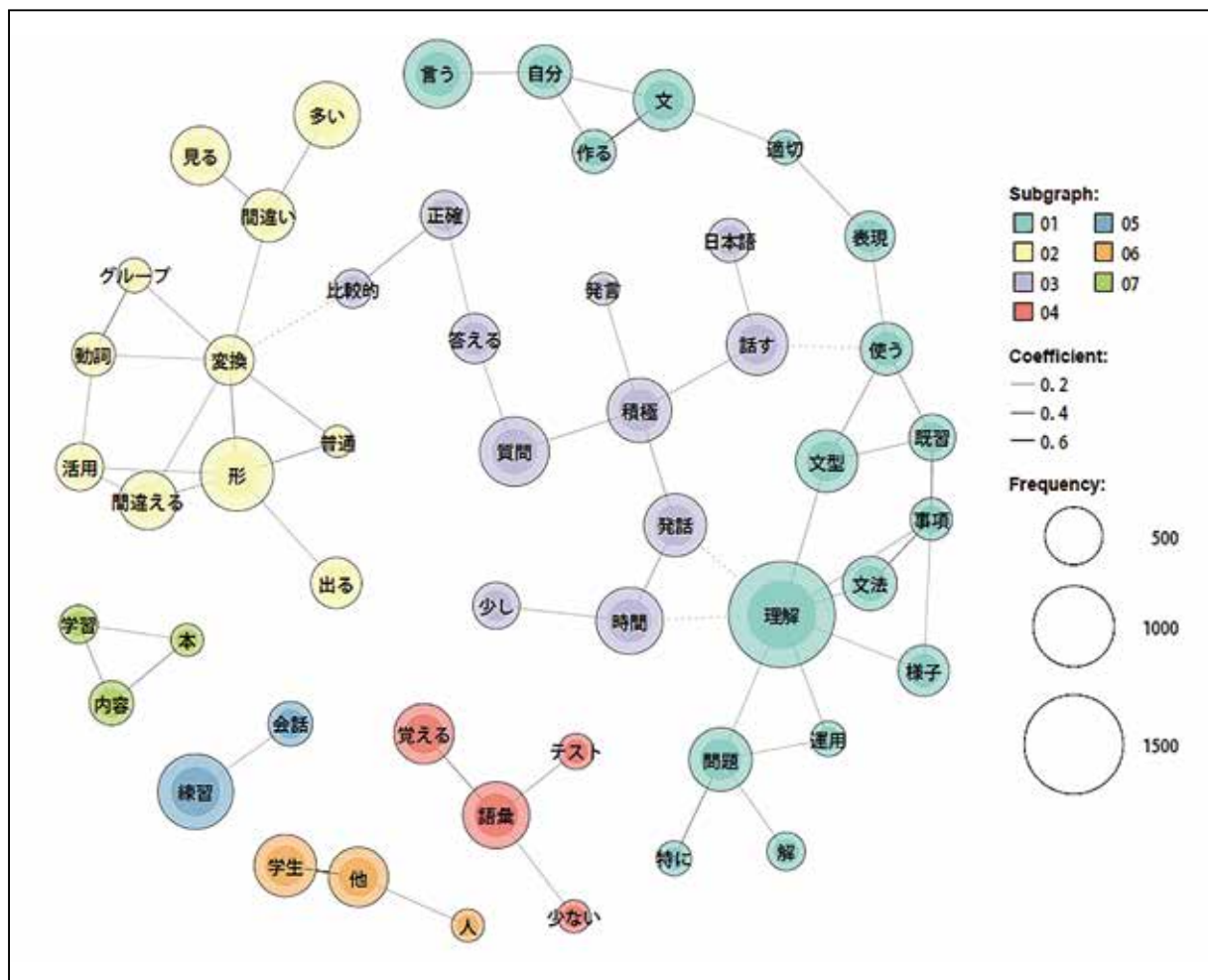


図3 「学生の様子」の共起ネットワーク

5.2.3 講師ミーティング議事録

図4は「講師ミーティング議事録」の共起ネットワークである。サブグラフ⁷⁾の数が13となっており、「授業の様子」と「学生の様子」と比べて、議事録という性格上、様々なことを記述していることがわかる。

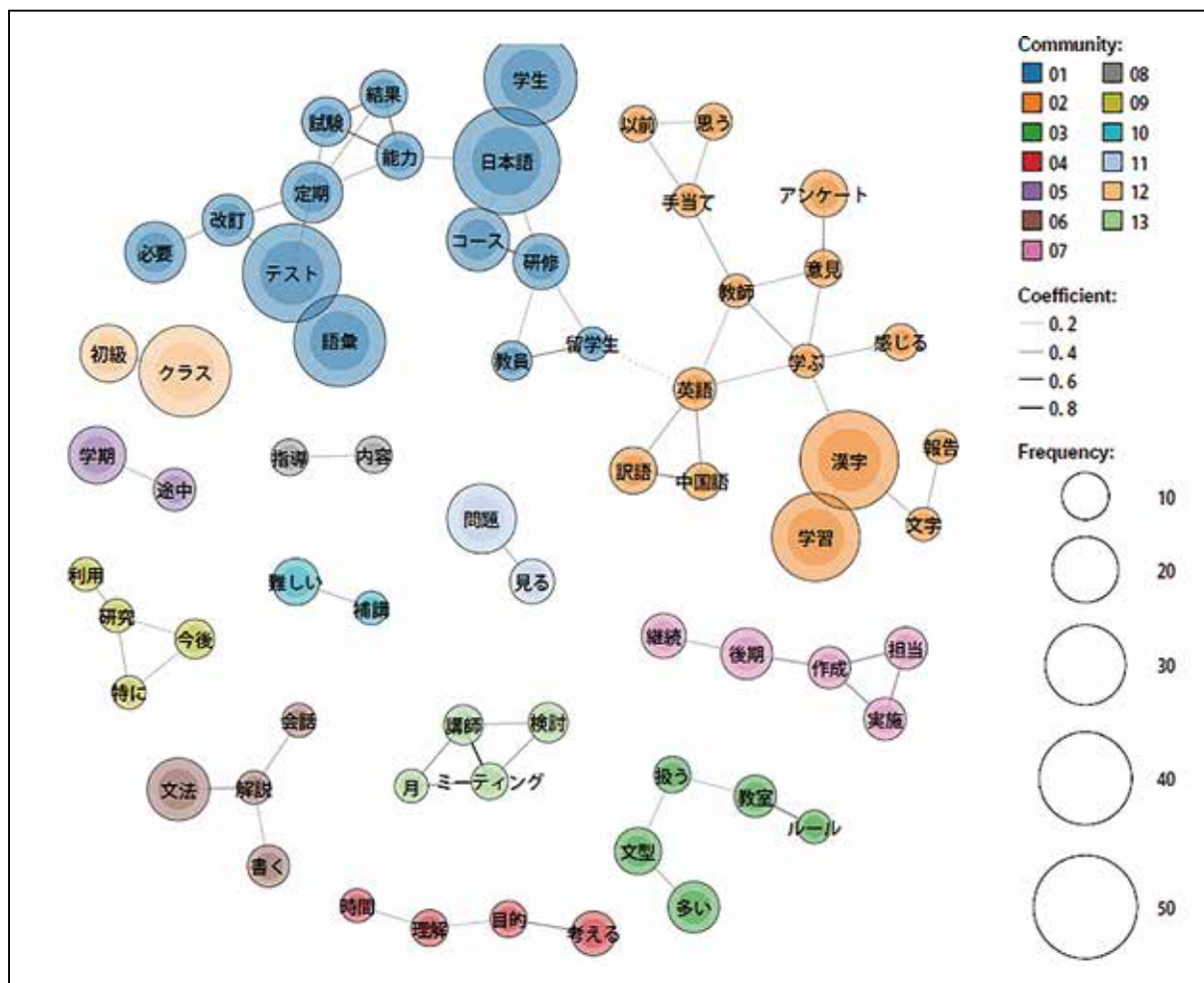


図4 講師ミーティング議事録の共起ネットワーク

「講師ミーティング議事録」では、表3で見たとおり、頻度が多かった「日本語」「テスト」「漢字」を取り上げる。コミュニティ01において「日本語」は、「またクラス全体の問題として、学生同士授業外では中国語で話していることが多く、積極的に日本語を使おうとする姿勢があまり見られなかったことが挙げられる。」「特に、今後の研究で専門的な日本語を必要としない学生にとってはかなり高いハードルとなっている。」のように、言語として用いられる場合と、「以前は、日本語研修コースの学生は午後の授業や授業外に個別に対応していたが、それにも限界がある。」のように、コースの名称として用いられる場合があった。

「テスト」は「来期からは、現在のディクテーションに変え、予習を促す語彙テストを実施することを決定した。」や「定期テストの枠組みの中だけで考えるのではなく、聴解クラスの目的や学習目標と関連させて改訂をする必要があるのではないか。」のように、ミーティングで決定したテストに関わる取り決めが記述されていた。

また、コミュニティ02において「漢字」は、「前者は、自律学習の手立てを与え、エンカレッジする方法、後者は漢字の楽しさを感じてもらい、基礎力を養成する方法がよいと考えられる。」のように、漢字そ

のものを指す場合と、「今後も漢字圏学習者と非漢字圏学習者が混在するクラスとなるであろう。」のように、母語に漢字が持つかどうかで区別した学習者の呼称の場合が見られた。また、「『漢字だいじょうぶ!』は非漢字圏学習者を想定しているが、生活をテーマとして様々なタスクをする部分は漢字圏学習者にも有益と判断し使用した。」のように、教科書名としても使用されていた。

このように、「講師ミーティング議事録」では、個別の学習者の記述よりコース全体の記述が多かった。実際のミーティングで学習者の状況や成績について話さなかったわけではないが、個人情報の問題もあり、議事録としては残されていなかった。授業記録と講師ミーティング議事録は、語の頻度や共起ネットワークのサブグラフから、異なる役割があると言える。その一方で、講師ミーティング議事録は、授業記録と同様に、教師の内省はあまり記述されていなかった。本授業記録システムは、セキュリティおよび予算の都合上、学内でしか授業記録の入力・閲覧ができないことになっている。初級文法クラスの教師は他の教育機関でも日本語を教えていることも多く、学内で授業記録を入力する時間的余裕がない場合もある。このような状況からも、講師ミーティングは教師の内省を共有する機会と捉えなければならない。

6 まとめと今後の課題

本研究では初級文法クラスにおける授業引継ぎのための授業記録を分析することにより、教師が共有しようとする中身を明らかにした。授業記録における「授業の様子」「学生の様子」をテキストマイニングで分析した結果、「授業の様子」では、日本語学習だけでなく、体調や態度に関して、どのような「学生」が多かったのかを記述していた。また、学習者の「文型」や「会話」の「練習」の記述も見られた。この「練習」に共起した記述では、教師の振り返りも見られた。

「学生の様子」では、「理解」と「形」の頻度が高く、「理解」は「文法」や「文型」と共起し、「形」は活用形としての「普通」形や「変換」「活用」「間違える」という語と結びついていた。これらのことは、『みんなの日本語』を使用し、いわゆる文法積み上げ型の授業を行っていることが背景にあると考えられる。また、「授業の様子」と「学生の様子」のどちらにも「積極」があらわれており、教師が学習者を評価するうえで、大きなポイントとなっていることがわかる。これらには教師の言語観が反映されている可能性があるが、授業記録のデータだけでは判断できない。これらの結果をもとに、教師がお互いの言語観を共有していくことこそが重要であり、教師の内省や授業改善に役立つものと考えられる。

「講師ミーティング議事録」では、「授業の様子」と「学生の様子」とは異なる語が多く使用されており、個別の学習者よりコース全体の記述が多かった。このように、授業記録と議事録は異なる役割があることが確認されたが、両者には教師の内省があまり記述されていなかった。すわち、学習者を主語とした記述が大部分を占め、教師が何を考えたかを記述することが少なかった。今後は授業引継ぎと講師ミーティングは教師の内省を共有する機会にしていく必要がある。

注

- 1) 本稿では「チーム・ティーチング」と表記する。「チーム」を「ティーム」と表記する場合、「・」(中黒)を表記しない場合もあるが、引用については原文のまま掲載する。
- 2) 富山大学留学生センターから、2013年10月に富山大学国際交流センターへ改組、さらに2018年4月に富山大学国際機構へと改組された。分析対象期間の組織名は国際交流センターである。
- 3) 内部資料として、富山大学留学生センター教員(当時)の深澤のぞみ氏が記したものである。
- 4) 本文では「学習者」と表記しているが、授業記録システムでは「学生」となっているため、そのままの表記とする。また、授業記録で教師が「学生」と書き込んだ場合もそのままの表記とする。
- 5) KHcoderは茶筌(IPADIC)の形態素解析の結果をほぼそのまま利用しているため、品詞体系も茶筌の品

詞体系に準じている。本分析における名詞は、KHcoder 内の品詞名である「名詞」「名詞 B」「名詞 C」「サ変名詞」の四つを統合したものである。KHcoder の品詞体系の詳細は樋口（2014：110）を参照のこと。

- 6) 樋口（2018:66）は「上述の中心性にせよサブグラフ検出にせよ、あくまで機械的な処理の結果であるから、色分けには必ず重要な意味があるはずだと考えて深読みをするのではなく、グラフを解釈する際の補助として利用することが穏当であろう。」と述べている。
- 7) 図4内では「subgraph」ではなく、「community」と表記されているが、同義である。「コミュニティ」はグラフ理論の分野で用いられている。

参考文献

- (1) 河野俊之・小河原義朗（2006）『日本語教師のための「授業力」を磨く 30 のテーマ。』アルク
- (2) 鎌田倫子・渡部学・中河和子・岩本阿由美・高島智美・深川美帆（2008）「理系学部の日本語コース設計と評価に影響する要因」『日本語教育方法研究会誌』15(1), 48-49
- (3) 杉本美穂・山本智子・小松知佳（2013）「教室文脈を活用した授業実践」2013 年 WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』（http://www.nkg.or.jp/pdf/jissenhokoku/2013_P01_sugimoto.pdf 2018 年 8 月 31 日参照）
- (4) 趙恩英・長谷川守寿（2011）「教育経験の異なるティーチングアシスタントによる Moodle 上での授業報告一形式・内容の違いとその変化について一」『日本語教育方法研究会誌』18(1), 10-11
- (5) 林さと子・西川寿美（2005）「多様な評価活動」日本語教育学会編『新版日本語教育事典』大修館書店
- (6) 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- (7) 樋口耕一（2017）「計量テキスト分析および KH Coder の利用状況と展望」『社会学評論』68(3), 334-350
- (8) 樋口耕一（2018）『KH Coder3 リファレンス・マニュアル』（2018 年 8 月 20 日取得）<<http://kncoder.net/dl3.html>>
- (9) 深川美帆・山本洋（2012）「総合日本語プログラムにおける履修登録・授業記録システムの構築」『金沢大学留学生センター紀要』15, 45-58
- (10) 丸山敬介（2005）『教師とコーディネーターのための日本語プログラム運営の手引き』スリーエーネットワーク
- (11) 峯正志・長野ゆり（2010）「留学生センター「総合日本語コース」の日本語教育一チームティーチングによるコース運営を中心として一」『金沢大学留学生センター紀要』13, 45-54
- (12) 横山紀子（2005）「チーム・ティーチング」日本語教育学会編『新版日本語教育事典』大修館書店
- (13) 脇田里子・越智洋司（2006）「授業報告としての Moodle の活用」『日本語教育方法研究会誌』13(1), 12-13

Empowerment for Nurturing of Global Thinking in Japanese University Students: A Practical and Provocative Approach in Utilizing Courses for Study Abroad Preparation and International Understanding and Exchange Activities

Simon Peter BAHAU

Kenji SOEJIMA

日本人大学生のグローバル志向育成強化： —実践的かつ挑戦的アプローチとして「留学のための教養講座」と 「国際交流活動論」講座を活用して—

バハウ サイモン ピーター

副島 健治

Abstract

In recent years of this era of globalization and internationalization in Japan, the general public including university students are said to be inert, inbound or inward looking. Noting this as a serious issue, in order to contain the situation, the Japanese government has been pushing for the empowerment in and nurturing of global thinking in its citizens. As such, the paper here presents a practical and provocative approach that has been conducted at a former Japanese national university for almost three years. The study subjects of this research are divided into two categories. Firstly, the study targeted student subjects who are affiliated to various faculties and have willingly chosen and made time to attend a non-credit “preparatory course for study abroad” . Secondly, the targeted subjects were those students who are affiliated with one faculty and are preparing to be future teachers of the English language and international understanding. These students have signed up compulsorily for a credit course called “international exchange activities theory”. Although the nature of the classes and subject groups of students differ, the objectives are synonymous in that they both aim at the revisit, rediscovery and comprehension of one’s own culture, language and society, thus identity. Upon clarification and confirmation of such, as a consequence, the subject students reported that they gained confidence in 1) venturing out into the global arena with a fair knowledge of oneself in the form of study abroad, and 2) through the utilization of teaching materials available, feel more prepared and confident to teach the English language and international understanding to returnees and international pupils and students in the future.

Keywords:

Empowerment, Global Thinking, Language, Society and Culture, Identity

1. Introduction

Recent years have seen the concept of globalization which has been sweeping through the Japanese society in all aspects like no other precedence in its history. The notion of globalization is so influential that its synonym of internationalization as in countries and borders has been practically hidden. However, with retrospect to the times, the numbers of Japanese students venturing out

to study abroad has been on the decrease. The trend is also evident among Japanese corporate personnel indicating their unwillingness to take up overseas postings. Naturally, the government positions this situation as a major issue, whereby it has taken on a number of countermeasures in the nurturing of global thinking for its citizens. To materialize such government initiatives, as a nationally affiliated educational institution, the author's affiliated university is also pushing towards the realization of the initiatives. As a means for implementation of the government initiatives, the approach of empowerment in nurturing global thinking, especially in Japanese university students arose. Of course, going to study abroad is not the only solution, although, should that be the case, the prospective student should be more confident and possess the necessary skills and knowledge about one's own culture, language and society before endeavoring into the world.

2. Background and Aim of the Study

The background of this study goes back to consultations and guiding of students in their preparations for study abroad and exchange on campus. The Japanese students generally appear to know fairly well about their own country from what is being taught at school and available through the news. However, the authors felt that this was not enough for the students' exchanges and interactions with their international counterparts at school. Let alone it also was fairly insufficient for the students to be expressive should they opt to exchange either on campus and or venture out for study abroad to the world at large. The general trend stands out as the Japanese focusing more on learning about their destination compared to the contrary of knowing more about oneself. Such is the focus of the practical classes conducted here where the Japanese language is being revisited from a learner's perspective which proved to be rather challenging. The language seems to be somewhat generally known but for explanation to a learner, it requires a deeper understanding and comprehension in order to be expressed clearly. Both student subject groups studied here found this approach to be provocative, thus providing for a revisit and rediscovery of their own language. Likewise, culture studies seen from an international student's viewpoint was also offered. This is where the Japanese students become guides of their own local communities and homelands and explain firstly in the Japanese language and then in the language of their preferences, if they have any. The results show that the subject students' knowledge of their home towns and prefectures was limited. Therefore, they felt the need to search and revisit national, prefectural, municipal and historical publications so as to be more informed. Many of the subject students actually felt challenged at how little they knew about their own culture, language and society. As a consequence, this sparked up their will to know more about themselves, whereby the revisit, rediscovery takes place, thus the connection leading to an empowerment in nurturing their global thinking.

2.1 What is empowerment?

To start with, let us look at the word itself. According to Heather Lausch, "Empowerment is a word that has so often been used widely that its definition has become blurred. Activist groups use the term empowerment to rally behind different issues, while academic circles frequently cite the word in scholarly articles. However, what do they mean when they say "empowerment" and whom do they wish to "empower?" That is actually where the authors step in and continue to extend the viewpoint of empowerment. As also mentioned by Alsop, Bertelsen and Holland (1), "Empowerment

in Practice from Analysis to Implementation” they define the term empowerment as the process of enhancing an individual’s capacity to make choices and then transform those choices into the sought after outcome”. As authors, we can all agree upon some overall themes of empowerment. First of all, empowerment is rather very multidimensional and it can be exercised on many different levels and domains. Empowerment can look different at the individual level versus the community level, and it can look different in the state versus the market. Empowerment is also relational, for it occurs in relation to whom a person interacts with. The authors here agree with writers like Mason (9) and Narayan (10), who are quick to point out that empowerment, is not a zero-sum game, but rather different types of power, such as power over, power to, power with, and power within. Finally, the literature stresses that empowerment is extremely culturally specific, and this can be seen in articles written by Malhotra and Mather (8), Mason (9) and Narayan (10). Empowerment is related to the norms, values and beliefs of a society; therefore empowerment can be revealed differently in different societies. The term empowerment may have some general agreed upon qualities and definitions in the academic community, but how the word is used in organizations or among individuals may still vary.

3. Methodology

Noting the definition and its utilizations, the authors would like to apply the term empowerment to the contents to follow. Both student subject groups were guided in a different approach towards the end, where the subjects basically responded in a similar fashion. Firstly, unlike many study abroad preparedness studies currently available, the authors endeavored on challenging and provoking the students to re-think otherwise. In other words, the students were guided and instructed in a manner where they learnt together like their international counterparts in studying about their own Japanese language, culture and society. They studied about their own culture and language, many a times to extents where they had to explain not only in Japanese so as to re-confirm their own comprehension and understanding, but also to express it not only in English but also in a third language, if that was the aim of student subjects’ participation in the courses, especially for study abroad preparedness. On the contrary, it also posed as quite a challenge again for the subject students who were to become future teachers. They had to not only comprehend the contents themselves, firstly as future teachers, but to also prepare materials for actually taking on such a situation should it arise. However, the results gathered after class surveys showed that the approach was practical, provocative, trendy and new in its outlook that the study subjects had never even thought about themselves in such shoes, especially with regard to their very own culture and language in this perspective for shaping their own mindsets.

4. The Significance of Global Thinking and Citizenship and Identity

The term ‘global thinking’ as per se is somewhat broad. However, with regard to the research contents here, the authors attempted to approach it in a manner that provides self-examination, rediscovery and revisit of oneself as opposed to others. This notion is of significance whereby the usual Japanese understanding would be to know more about the other while oneself is taken for granted and is expressed rather vaguely. The point is to clarify this ambiguity and thus enhance

expressiveness which leads to equality in introductions and sharing of knowledge about one's own language, culture and society. Having presented oneself clearly, only then can there be a fair sense of global citizenship which comes from deep down. Naturally, with due knowledge of one's own origins, the features and characteristics of oneself, then pride will be derived, thus leading to the shaping of an identity. This is again a notion that the Japanese so very vaguely possess when compared with their international counterparts. Actually, the biggest of all differences probably lies in this notion of having pride and a sense of identity

5. The subject groups and their natures

The subject groups studied in this research are divided into two totally different groups but with very similar objectives. One was a subject group that had students signing up from various faculties and grades all gathering for purposes of study abroad preparation. This is a course that saw totally voluntary and active participation because the students were determined to gain out of the time they had made to attend the course despite the setting being on an afternoon where they could have opted otherwise of not attending. In addition, the course was so called a colloquium course that did not carry credits. After completion of the course, quite a good number of the students ventured out on short term and long term study abroad programs. Many of them utilized the university and other scholarship programs for their adventures and reported of their experiences in university organized seminars.

In the meantime, the other group of study subjects belonged to a single faculty. The course was compulsory and it naturally carried credits. Since it did so, it was set in a classroom style-setting. The students were in their second to fourth year of studies to become teachers of English and / or International Understanding classes when they pass their national teaching certificate examinations and get posted to elementary and middle schools where pupils and students needing such assistance and services would be allocated. This study group of future teachers seemed inert and exemplified the Japanese reality where they would be silent in class and be on the receiving end but expect to be spoon-fed. Seeing this, the authors were somewhat anxious about the future of global education in Japan.

The similarities that the authors would like to put forward are the fact that both subject groups were purpose-driven. The first group's purpose was for study abroad while the other one was to equip oneself with knowledge for preparation to take on pupils and students with global educational needs.

6. Preparatory Courses for Study Abroad

The 'preparatory course for study abroad' was a course set up after a couple of trials both in a classroom setting with not much publicity but in a seminar and omnibus style. After reflecting back, the authors thought it would be more accessible to the general student body if it were to be designed in a way that it gains access by students as a colloquium course that was open to all despite the fact that it would be non-credit and run on an afternoon that would be a determinant factor. Despite these prerequisites, the turnout was good. The course was divided into two parts. After general introductions, the authors, also acting as instructors, set out teaching firstly the Japanese language

features which brought into light their own cultural and societal aspects into view. This was then followed up by a provoking cultural and global approach with a sense of explanations basically in English otherwise another language. This part of the course proved useful in that the students were very participative since they were purpose-driven. The course was planned in such a way that should the administration division in charge of study abroad programs conduct an explanatory session, which only was purposeful, the students would be encouraged to attend and participate in such sessions because programs broadened their opportunities for venturing out into the world.

7. International Understanding and Exchange Courses

The ‘international understanding and exchange course’ was one that was set up as a compulsory credit course catered towards equipping future teachers with local and global perspectives. It started off with introductions and then much of the course was centered around Japanese language revisit guided by one of the authors who also guides for active teachers reviewing their skills at university on such review seminars. The course was basically conducted in Japanese where the students had to view themselves as both Japanese and non-Japanese learners of their own language so as to prepare for such Japanese returnees and international pupils and students they will most probably be in charge of as teachers under this global world. The latter part of the course was guided partially in English and Japanese so as to get a feel of the situation that would be at hand. Naturally, as teachers-to-be, they need to be able to express themselves clearly in their own language about their own origins, culture and society. The materials utilized in the course were those that were comparatively designed and produced by elementary and junior high schools with the pupils and students and their teachers for the 2005 Aichi Exposition. The comparative views presented in the articles covering the countries listed would be very helpful for the future teachers in their material development and lesson plans.

8. Comparisons

When comparing the two aforementioned courses, one has to take into account the course outlines given and the purposes mentioned. The preparatory course for study abroad was designed for motivation of students who were interested in venturing overseas. In the meantime the international understanding and exchange activities course was for future teachers in equipping them with a global outlook. Both courses were taught similarly. However, the former had an international and study abroad taste where the students needed to equip themselves with expressiveness about one’s own language, culture and society before acquiring much about their study destination. The latter, on the contrary, needed to review and rediscover language, culture and society not only for oneself but also in preparation of teaching materials for classes where such need would arise. Both study subject groups mentioned frankly that they thought they knew much about themselves but they realized that there was a need to revisit, rediscover and relearn one’s own language, culture and society which they took for granted.

9. Findings and Discussions

As mentioned earlier, the findings in this research would be such that the Japanese students in both study subject groups felt they needed to return to where their origins were so as to be better equipped to take on the challenges ahead may it be in study abroad or in teaching. The classes conducted were designed more for international students but since the subjects were Japanese students, a provocative approach in testing of one's common sense and knowledge was implemented where the results showed fairly positive. Many of the participants felt the courses were worth the while. They had other expectations such as studies only on the destination if it was going to study overseas or that it would be either about English but more so, the point was about how much Japanese they were. If there is space for discussion, one would wish to see a discussion with international students so as to broaden that perspective acquired.

10. Recommendations

There were two courses targeted in this research. One was non-credit and voluntary while the other was compulsory and credited course. The motivation in the students also showed that the voluntary subjects attended and participated more actively despite its non-credit status which the students knew very well about. The other class did have its pros and cons, but since it was a compulsory and credited course, the participation was good but with less interaction. The authors would like to see more of these type of courses offered for the provocation of global perspectives in the students who will be the future global leaders. The origins of these courses go back to 2015 when a seminar for study abroad was held by the authors. It was not that well attended but it did have its results by seeing all of the students being granted university subsidies to study abroad. For study abroad preparations and further international understanding and exchange activities, one would like to see active participation

11. Conclusions

In conclusion, the courses posing as subjects for the study were originally derived from different viewpoints. In addition, although, the students and the purposes were also different, the results show similar in that subjects of both study groups reported that they felt a boost in their knowledge of their own self, language, culture and society, thanks to the courses. They even felt more confident about deciding on participation in a study abroad program. One student in the study abroad preparatory course did actually report that they gained more confidence in themselves, and could decide on where to go for what. The teacher-to-be study group mentioned that it had opened up the window for a better understanding of one's own local community, municipality, prefecture and then country. As such, the authors feel that if the subjects can gain some form of enhancement or boost in their confidence and become more positive in undertaking either study abroad or teaching in the future, the endeavor here of empowering the nurturing of the Japanese university students in relearning one's own language, revisiting and rediscovering one's own culture and society has seen the light. Hopefully, the future is bright in light of the knowledge gained and the confidence to venture out on one's own way with pride, thus, a possession of an identity can be concluded.

12. References and Bibliography

1. Alsop, R., Bertelsen, M., and Holland, J. (2006) . “Empowerment in Practice From Analysis to Implementation” from World Bank
2. Bahau, Simon Peter (2015). “Examining Japanese University Students’ Aspirations for Study Abroad: An Exploratory Inquiry into preferred Destinations and the Anglophone Centripetal Pull in a Globalized World”, Journal of Center for International Education and Research, University of Toyama, Vol. 2, pp1-9.
3. British Council (2014). Japan: debunking the "inward-looking" myth, <https://www.britishcouncil.org/education/ihe/knowledge-centre/student-mobility/report-japan-debunking-inward-looking-myth>, pp.1-22 Retrieved September 28, 2018.
4. Globalization of Education - Globalization Theory, The Role of Education - Schools, World, School, and Societies - StateUniversity.com <http://education.stateuniversity.com/pages/2010/Globalization-Education.html#ixzz5VO5kFBsm> Retrieved September 28, 2018
5. Ibrahim, S and Alkire, S. (2007). “Agency and Empowerment: A proposal for internationally comparable indicators” Oxford Development Studies p. 6.
6. Idehara, Setsuko (2007). Benefits of intercultural Contact: What students obtain through experience of study abroad
7. Lausch, Heather : Empowerment Theory, Literature Review:<https://www.villageearth.org/training/literature-review-theories-of-empowermentory/> Retrieved September 3, 2018
8. Malhotra, A. and Mather, M. (1997) “Do Schooling and Work Empower Women in Developing Countries? Gender and Domestic Decisions in Sri Lanka” Sociological Forum 12:4
9. Mason, K.O (2005). “Measuring Women’s Empowerment: Learning from Cross-National Research” in Measuring Empowerment: Cross-Disciplinary Perspectives
10. Narayan, D. (2002). “Empowerment and Poverty Reduction” The World Bank Retrieved September 3, 2018
11. Narayan, D. (2005). “Measuring Empowerment: Cross-Disciplinary Perspectives” The World Bank. Retrieved September 3, 2018
12. Narayan, D. (2005). “Measuring Empowerment: Cross-Disciplinary Perspectives” The World Bank Retrieved September 3, 2018
13. Samman, E and Santos, M (2009). “Agency and Empowerment: A review of concepts, indicators and empirical evidence” from Human Development Report.
14. Soejima, Kenji (2017) “Japanese Language” rediscovery and learning by Japanese students: As an approach toward global mindset formation, Journal of Center for International Education and Research, University of Toyama, Vol. 2, pp1-9.
15. UNESCO (19 November 1974) Recommendation concerning Education for International Understanding, Co-operation and Peace and Education relating to Human Rights and Fundamental Freedoms
http://portal.unesco.org/en/ev.php-URL_ID=13088&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html Retrieved October 5, 2018

漢字教材開発のための基礎資料

—中・上級日本語学習者の漢字読みテストにおける誤答—

濱田 美和

Error Analysis of Intermediate and Advanced Learners of Japanese —Answers to Kanji Reading Quiz Questions: A Preliminary Exploration—

HAMADA Miwa

要 約

中・上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字クラスにおいて、使用教材および指導内容見直しのための基礎資料として、読みの難易度により漢字語を整理したリスト作成を試みた。まず、授業後に実施した漢字語の読みテストの結果をもとに、282語の漢字語について正答率を求め、正答率をもとに難易度順に配列した。次に、各語の誤答を整理し、学習者3人以上に見られた読み誤りを高頻度の誤りとして抽出した。282語の正答率別分布は、正答率60%未満の語が2割、60%以上80%未満が3割、80%以上の語が5割で、全体的に正答率の高い語が多かった。また、正答率の低い語を中心に抽出された高頻度の誤りには、当該漢字の有する他の読みを書いた誤りが特に多い、長音・短音、清音・濁音といった類似の他の音を書いた誤りが多い、和語動詞と和語形容詞については無解答、あるいは他の和語動詞や和語形容詞の読みを書いた誤りが多いといった特徴が見られた。

【キーワード】 日本語学習者、漢字、読み、誤答

1 はじめに

中・上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字クラス¹⁾において、学習者同士で協力して解答を求めたり、互いに出題・解答し合ったりする活動、グループ練習を授業の最後に組み込んでいる(高島・濱田2010)。漢字を組み合わせて漢字語を作ったり、ヒントや例文をもとに漢字語を選んだり、ワークシートに漢字語を書いたりといった練習を行うが、漢字語の読みをある程度習得できていないと活動が滞る²⁾。そのため、最初に読みの確認のためのウォーミングアップ練習を行った上で、漢字語の意味や用法に基づいた練習を行うようにしている。しかし、中には基礎的な漢字、語彙力が不足している、予習・復習ができていないなどの理由で、最初のウォーミングアップ練習で遅れを取ってしまう学習者もいる。グループ練習の活動を円滑に行い、練習による学習効果を高めるには、漢字語の読みの難易度に配慮した教材設計、さらにはグループ練習前に行う漢字語の導入・練習の中で読みの指導をいかに行うかという授業全体の設計が不可欠だと考えられる。

そこで、今回、漢字クラスでの使用教材および指導内容見直しのための基礎資料として、漢字クラスで学習する漢字語を読みの難易度により配列したリスト作成を試みた。漢字クラスでは事後学習のために毎回の授業で前の週に学習した漢字語のチェックテスト、そして、学期半ばと学期末に中間、期末テストを実施している。これらの漢字語の読み問題における誤答を調べ、学習者の多くが読みを習得できている漢字語とそうでない語に分類し、さらに読みの習得ができていない語についてはどのような誤答が多いのかを整理した。

2 リスト作成手順

2013年度～2018年度開講の中級、上級レベルの学習者向け漢字クラス(90分×15週)で当該課を学習した翌週に行う各課チェックテスト、8週目に行う中間テスト、15週目に行う期末テストのうち、

漢字の読みを仮名で記述する形式で出題した漢字語³⁾を対象とした。いずれのテストも授業担当者が作成したもので、学習者の日本語の習得状況等によってテストの難易度を調整している。出題内容は学期によって多少異なる。

中級では『漢字 1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』vol.1 (凡人社) L1～L10 各課のチェックテスト, L1～L5 を出題範囲とした中間テスト, L6～L10 を出題範囲とした期末テストから 210 語 (L9 チェックテストでは「開いた・空いた」のように同訓の語を 2 つ提示して共通の読みを答える問題があるが、これについてはまとめて 1 語として扱った), 上級では『漢字 1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』vol.2 (凡人社) L1～L5, L8, L11, L14～L16 の各課のチェックテスト, L1～L6 を出題範囲とした中間テスト, L8, L11, L14～L16 を出題範囲とした期末テストから 97 語, 計 307 語を抽出した。中級のほうが読みに関する出題が多いため、語数も多い。

テストを受けた学習者は中級 62 人, 上級 46 人である。国・地域別の内訳は、中級がオランダ 24 人, 韓国, ロシア各 6 人, タイ, 中国, ブラジル, ベトナム各 3 人, インドネシア, 台湾, ドイツ, モンゴル各 2 人, アメリカ, イタリア, インド, シリア, スリランカ, フィンランド各 1 人, 上級がロシア 11 人, 韓国 8 人, ベトナム 6 人, 中国 5 人, インドネシア, 台湾, ブラジル各 3 人, スリランカ, フランス各 2 人, キルギス, タイ, モンゴル各 1 人である。

中級も上級も、受講者は各課のチェックテスト, 中間テスト, 期末テストをすべて受けることになっているが、学期途中で受講を取りやめたり、欠席してテストを受けなかった学習者もいるため、テストごとに受験者数は異なる。また、上述の通り、学期によって出題内容を一部変えたり、さらに一度チェックテストで出題した語を中間テストや期末テストで再度出題する場合もあるため⁴⁾、語によって解答者数にはかなりばらつきがある。各語の誤答の傾向を見るためには一定の解答者数が必要であるため、解答者数 10 人以下の 25 語 (中級 11 語, 上級 14 語) は分析対象から外した。

3 漢字語の読み難易度リスト

分析対象とした 282 語 (中級 199 語, 上級 83 語) について正答率 (正答者数 / 解答者数) を求めた。正答率低→高に配列したのが表 1 「漢字語の読み難易度リスト」である。「4. 屋内」を例に説明する。解答者 25 人のうち正答者は 5 人で、不正解者 20 人となるが、20 人の書いた誤答を表 1 の下に「誤答リスト」(pp.27-31) として掲載した。誤答リスト「4. 屋内 しつない(9), やない(7), そちのう, ぶない, □ない, 無解答」は、「しつない」と読み誤った学習者が 9 人, 「やない」が 7 人, それ以外は各 1 人であることを示す。「□ない」は「屋内」の「内」の読みだけを書いたもので、このように解答欄に一部の漢字の読みを書いてある場合は、読みが書かれていない漢字を□で表した。解答欄に何も書かれていない場合は「無解答」とした。誤答リストをもとに、3 人以上に見られた読み誤りを表 1 に「高頻度の誤り」としてまとめた。そして、2 字熟語, 3 字熟語の中には、一部の漢字に読み誤りが集中している場合があり、その場合は「*[]の読み誤り多」のように記載した。表 1 の右端「課」にはどのテストに出題された語かを示した。例えば「1-2」は『漢字 1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』vol.1 の L2 チェックテスト, 「2-期」は同教科書 vol.2 の期末テスト, 「2-1, 中」は同教科書 vol.2 の L1 チェックテストと中間テストを指す。複数のテストに出題された語の解答者数, 正答者数, 読み誤った学習者数はすべて延べ人数である⁵⁾。

表1 漢字語の読み難易度リスト

	正答者数	解答者数	正答率	高頻度の誤り	課
1. 修行	3	29	10.3%	[修]しゅう(18), [行]こう(18)	1-中
2. 因果	2	19	10.5%	[果]か(17)	1-10
3. 作物	3	27	11.1%	[物]ぶつ(23)	1-期
4. 屋内	5	25	20.0%	[屋]しつ(9)/や(7) *[屋]の読み誤り多	1-2
5. 煮物	5	20	25.0%	[煮]にる(3)/しゃ(3), [物]ぶつ(3)/もつ(3)	1-9
6. 両替	6	20	30.0%	[替]たい(5) *[替]の読み誤り多	1-9
7. 快く	9	29	31.0%	無解答(10)	1-中
8. 貧富	9	29	31.0%	[貧]びん(5), [富]ふ(7)/ぶ(4) *[富]の読み誤り多	1-中
9. 貧困	8	24	33.3%	[貧]びん(7), [困]なん(4) *[困]の読み誤り多	1-4
10. 輸出入	9	27	33.3%	[輸]ゆう(7), [出]しゅつ(4), [入]いり(4)	1-期
11. 昇る	9	25	36.0%	無解答(12)	1-2
12. 深刻	4	11	36.4%	*[深]の読み誤り多	1-4
13. 存続	9	24	37.5%	[存]ぞん(8)	1-7
14. 目印	9	24	37.5%	[目]もく(9), [印]いん(12)	1-1
15. 前売券	8	21	38.1%	[前]ぜん(13), [売]ばい(11)	1-6
16. 終了	12	31	38.7%	[終]こう(4)/ご(4), [了]し(3)	1-2
17. 織る	8	20	40.0%	無解答(7)	1-9
18. 耳鼻科	8	20	40.0%	*[耳]の読み誤り多	1-9
19. 解く	10	24	41.7%	無解答(7)	1-3
20. 反省	13	31	41.9%	[省]しょう(11) *[省]の読み誤り多	1-中
21. 案内係	9	21	42.9%	[係]けい(10) *[係]の読み誤り多	1-6
22. 完了	13	29	44.8%	[完]しゅう(4), [了]し(3)	1-中
23. 整える	13	29	44.8%	無解答(9)	1-中
24. 担う	13	29	44.8%	無解答(7), たたかう(4)	1-中
25. 率いる	7	15	46.7%	無解答(5)	1-6
26. 圧縮	14	29	48.3%	無解答(3), [圧]あつ(11)	1-中
27. 改める	12	24	50.0%	無解答(5)	1-3
28. 解答	12	24	50.0%	*[答]の読み誤り多	1-3
29. 柔軟	13	26	50.0%	[柔]なん(3), [軟]じゃく(6)	1-期
30. 装う	14	28	50.0%	無解答(5), おそよう(3)	2-4
31. 幸い	15	29	51.7%	無解答(4)	1-中
32. 負担	15	29	51.7%	[担]だん(4)	1-中
33. 貴重	14	27	51.9%	無解答(3), [貴]い(3), [重]じゅう(4)	1-期
34. 争う	13	25	52.0%	無解答(8), そう(3)	1-2
35. 邦画	12	23	52.2%	[画]かく(4)	2-15
36. 企てる	10	19	52.6%	無解答(3)	1-10
37. 等しい	28	53	52.8%	無解答(13)	1-4

38.	養う	28	53	52.8%	無解答(18)	1-3, 中
39.	常に	13	24	54.2%	じょうに(5)	1-7
40.	世の中	13	24	54.2%	[世]せ(5)/せい(3), [中]ちゅう(3)*[世]の読み誤り多	1-1
41.	患って	13	24	54.2%	無解答(5)	2-11
42.	縮小	17	31	54.8%	*[縮]の読み誤り多	1-2
43.	快適	10	18	55.6%	無解答(3) *[適]の読み誤り多	1-4
44.	球場	10	18	55.6%	[球]きょう(4), [場]じょ(4)	1-5
45.	脅威	10	18	55.6%	無解答(3)	2-16
46.	削る	10	18	55.6%		2-16
47.	戦う	14	25	56.0%	無解答(5)	1-2
48.	素足	9	16	56.3%		1-8
49.	外務省	13	23	56.5%	*[務]の読み誤り多	1-1
50.	海の底	17	30	56.7%	[底]てい(9) *[底]の読み誤り多	1-5
51.	敗れる	31	54	57.4%	無解答(10)	1-2, 中
52.	申告	11	19	57.9%	*[告]の読み誤り多	1-10
53.	造る	18	31	58.1%	無解答(6)	1-3
54.	試しに	14	24	58.3%	無解答(5)	1-7
55.	首相	54	90	60.0%	無解答(8), [首]しゅう(6), [相]しょ(6)/そう(6)	1-1, 中, 期
56.	勝負	15	25	60.0%	[勝]しゅう(4), [負]ふ(4) *[負]の読み誤り多	1-2
57.	統一	17	28	60.7%	[一]いち(7) *[一]の読み誤り多	2-4
58.	激しい	51	84	60.7%	無解答(14), きびしい(4)	1-4, 中
59.	平均値	19	31	61.3%	[平]びょう(3), [均]どう(3) *[均]の読み誤り多	1-6
60.	養育	19	31	61.3%	無解答(3) *[育]の読み誤り多	1-3
61.	数値	13	21	61.9%	[値]ね(4) *[値]の読み誤り多	1-6
62.	断る	28	45	62.2%	無解答(7), こだわる(3)	1-3, 8
63.	配る	15	24	62.5%	無解答(4)	1-7
64.	軟弱	15	24	62.5%	無解答(3)	1-1
65.	任せる	22	35	62.9%	あわせる(8)	1-7, 期
66.	煮る	7	11	63.6%	無解答(3)	1-9, 期
67.	退職	37	58	63.8%	無解答(9) *[退]の読み誤り多	1-3, 期
68.	到着	16	25	64.0%	*[到]の読み誤り多	1-2
69.	拡大	36	56	64.3%	無解答(4), [大]たい(7) *[拡]の読み誤り多	1-2, 中
70.	描写	18	28	64.3%	[描]みょう(3)	2-1
71.	共存	20	31	64.5%	[存]ぞう(3)	1-7
72.	上昇	20	31	64.5%	*[昇]の読み誤り多	1-2
73.	復興	44	68	64.7%	[興]きょう(16) *[興]の読み誤り多	2-5, 中
74.	貧しい	21	32	65.6%	無解答(6)	1-1
75.	盛大	44	67	65.7%	[盛]じょう(3), [大]たい(10)	1-8, 期
76.	脅かす	12	18	66.7%	おどかす(3)	2-16
77.	時間帯	10	15	66.7%	[帯]□(3) *[帯]の読み誤り多	1-6
78.	職場	16	24	66.7%	[場]じょう(6) *[場]の読み誤り多	1-3
79.	天然	12	18	66.7%	[然]ぜん(5) *[然]の読み誤り多	1-5

80.	濃厚	16	24	66.7%	無解答(5)	1-1
81.	防ぐ	32	48	66.7%	無解答(5)	1-5
82.	限る	33	48	68.8%	無解答(7)	1-5
83.	急激	20	29	69.0%	*[激] の読み誤り多	1-4
84.	治療	38	55	69.1%	[治] じ(3) / だい(3)	1-3
85.	値(を求める)	25	36	69.4%	ね(3)	1-6
86.	兼ねて	16	23	69.6%		2-15
87.	豊富	39	56	69.6%	[豊] ゆう(6), [富] ふく(4)	1-4, 期
88.	著しい	14	20	70.0%		1-8, 期
89.	多数	17	24	70.8%	[多] おお(3)	1-7
90.	世紀	17	24	70.8%	[世] セ(6) *[世] の読み誤り多	1-1
91.	趣旨	20	28	71.4%	[趣] しゅう(4) *[趣] の読み誤り多	2-1
92.	証拠	30	42	71.4%	[拠] こう(5) *[拠] の読み誤り多	2-中
93.	平等	75	105	71.4%	[平] へい(22), [等] とう(14) / □(3)	1-4, 8, 中
94.	圧力	18	25	72.0%	無解答(4)	1-2
95.	債権	18	25	72.0%	*[債] の読み誤り多	2-8
96.	紀元前	13	18	72.2%		1-5
97.	宣誓	13	18	72.2%	*[誓] の読み誤り多	2-16
98.	無断	21	29	72.4%		1-中
99.	認める	19	26	73.1%		1-期
100.	各地	11	15	73.3%		1-6
101.	確率	11	15	73.3%		1-6
102.	超す	11	15	73.3%		1-6
103.	支える	44	60	73.3%	無解答(8)	1-2, 中
104.	消防署	22	30	73.3%	[防] ほう(4), [署] しゃ(3)	1-5
105.	半額	11	15	73.3%	*[額] の読み誤り多	1-6
106.	懸念	56	76	73.7%	[懸] けん(16) *[懸] の読み誤り多	2-14, 15, 期
107.	固執	17	23	73.9%	*[執] の読み誤り多	2-15
108.	根本	40	54	74.1%	[本] ほん(7) *[本] の読み誤り多	1-10, 期
109.	団体	23	31	74.2%	[団] ぐん(4) *[団] の読み誤り多	1-6
110.	担当	23	31	74.2%	[担] だん(3) *[担] の読み誤り多	1-3
111.	浅い	24	32	75.0%	無解答(4)	1-1
112.	現れる	15	20	75.0%	あわれる(4)	1-9
113.	改革	21	28	75.0%	*[革] の読み誤り多	1-9, 期
114.	妊婦	18	24	75.0%	[婦] ふ(3) *[婦] の読み誤り多	2-11
115.	上る・登る	15	20	75.0%		1-9
116.	異なる	40	53	75.5%	無解答(4), いなる(3)	1-4
117.	硬い	22	29	75.9%		1-中
118.	浄化	19	25	76.0%	*[浄] の読み誤り多	2-14
119.	大規模	32	42	76.2%	[大] おお(4), [模] ぼう(6) *[大][模] の読み誤り多	2-中
120.	訪ねる	16	21	76.2%		1-8
121.	単純	55	72	76.4%	[純] □(3)	1-2, 中

122.	樂觀的	26	34	76.5%	[樂] らく(7) *[樂] の読み誤り多	2-1
123.	保管	46	60	76.7%	[保] ほう(9) *[保] の読み誤り多	1-中
124.	想像	14	18	77.8%	*[像] の読み誤り多	1-5
125.	舞台	14	18	77.8%		2-16
126.	臨界	14	18	77.8%		2-16
127.	過去	50	64	78.1%		1-8, 期
128.	変更	47	60	78.3%	無解答(7) *[更] の読み誤り多	1-3
129.	探る	33	42	78.6%	無解答(3), さがる(5)	2-中
130.	慣例	15	19	78.9%	*[慣] の読み誤り多	1-10
131.	応援	49	62	79.0%	無解答(4) *[援] の読み誤り多	1-3, 中
132.	輸入	49	62	79.0%	[輸] しゅう(4)/ゆう(4) *[輸] の読み誤り多	1-2, 中
133.	概説	19	24	79.2%		1-7
134.	察知	19	24	79.2%	[察] さつ(3) *[察] の読み誤り多	2-11
135.	養成	19	24	79.2%		1-3
136.	豊か	42	53	79.2%	無解答(3)	1-4, 中
137.	再び	47	59	79.7%	無解答(3)	1-6, 7, 期
138.	裕福	24	30	80.0%	*[裕] の読み誤り多	1-4
139.	予算	28	35	80.0%	[予] よう(3)	1-7, 期
140.	世紀	49	61	80.3%	[世] せ(8) *[世] の読み誤り多	1-5, 中
141.	仏教	45	56	80.4%	[仏] ぶつ(4) *[仏] の読み誤り多	1-1
142.	比率	17	21	81.0%	*[比] の読み誤り多	1-8
143.	家賃	17	21	81.0%	[家] か(4)	1-6
144.	暴落	64	79	81.0%	無解答(4) *[暴] の読み誤り多	1-7, 期
145.	捕まえる	13	16	81.3%		1-8
146.	極端	23	28	82.1%	[端] だん(3) *[端] の読み誤り多	2-4
147.	郵便局	52	63	82.5%	無解答(3), [便] こう(3) *[便][局] の読み誤り多	1-1, 中
148.	期限	24	29	82.8%	*[限] の読み誤り多	1-中
149.	熱心	44	53	83.0%	*[熱] の読み誤り多	1-4
150.	確實	20	24	83.3%		1-4
151.	囲む	15	18	83.3%		1-5
152.	自然	15	18	83.3%		1-5
153.	首脳	20	24	83.3%	[首] しゅう(3) *[首] の読み誤り多	2-11
154.	伴う	15	18	83.3%		2-16
155.	欧州	26	31	83.9%		1-中
156.	修理	26	31	83.9%	*[修] の読み誤り多	1-3
157.	視力	26	31	83.9%	*[視] の読み誤り多	1-7
158.	成功	26	31	83.9%	[成] かん(3)	1-2
159.	分解	26	31	83.9%		1-3
160.	乱用	26	31	83.9%	*[乱] の読み誤り多	1-7
161.	洞察	21	25	84.0%		2-8
162.	破産	21	25	84.0%	*[破] の読み誤り多	2-8
163.	順序	16	19	84.2%	[序] じょう(3)	1-10

164.	介護	22	26	84.6%	*[護] の読み誤り多	2-2
165.	欠航	22	26	84.6%	*[欠] の読み誤り多	2-5
166.	紛失	22	26	84.6%		2-2
167.	満席	17	20	85.0%	*[席] の読み誤り多	1-6, 期
168.	削減	23	27	85.2%	*[削] の読み誤り多	2-期
169.	努める	23	27	85.2%		1-期
170.	保険	23	27	85.2%	[保] ほう(4)	1-期
171.	欧米	48	56	85.7%		1-1
172.	抑える	30	35	85.7%		2-期
173.	値上げ	18	21	85.7%		1-6
174.	離党	30	35	85.7%	*[離] の読み誤り多	2-期
175.	精神	31	36	86.1%	[神] じん(4) *[神] の読み誤り多	1-8
176.	出張	25	29	86.2%	*[出] の読み誤り多	1-中
177.	郊外	51	59	86.4%	[外] かい(4)	1-5, 中
178.	器官	26	30	86.7%	*[器] の読み誤り多	1-5
179.	展示	39	45	86.7%		1-10, 期
180.	特急券	27	31	87.1%		1-6
181.	幸福	21	24	87.5%		1-4
182.	示す	21	24	87.5%		1-7
183.	税金	14	16	87.5%		1-6
184.	多方向	14	16	87.5%		2-4
185.	閉じる	21	24	87.5%	とうじる(3)	2-4
186.	乳児	21	24	87.5%		2-11
187.	百歳	14	16	87.5%		1-8
188.	文化庁	49	56	87.5%	[庁] ちやう(3) *[庁] の読み誤り多	1-1
189.	汚れる	56	64	87.5%		1-8, 期
190.	軍縮	22	25	88.0%		2-期
191.	恐らく	23	26	88.5%		2-2
192.	実施	23	26	88.5%	*[施] の読み誤り多	2-2
193.	取材	23	26	88.5%		2-2
194.	搭乗	23	26	88.5%	*[搭] の読み誤り多	2-5
195.	固める	16	18	88.9%		1-5
196.	欠点	24	27	88.9%		1-期
197.	張り切る	16	18	88.9%		1-5
198.	出席率	33	37	89.2%		1-6
199.	声明	25	28	89.3%	*[声] の読み誤り多	2-3
200.	開いた・空いた	18	20	90.0%		1-9
201.	納める	18	20	90.0%		1-9
202.	有毒	27	30	90.0%		2-14, 期
203.	禁止	28	31	90.3%		1-7
204.	整理	28	31	90.3%		1-中
205.	確かめる	28	31	90.3%		1-中

206.	バス停	28	31	90.3%		1-3
207.	冷やす	19	21	90.5%		1-8
208.	満室	19	21	90.5%		1-6
209.	濃い	51	56	91.1%		1-1
210.	積極的	51	56	91.1%	*[極] の読み誤り多	2-1, 中
211.	上司	21	23	91.3%		2-15
212.	衛星	64	70	91.4%		2-4, 中
213.	需要	43	47	91.5%	*[需] の読み誤り多	2-4, 中
214.	行為	23	25	92.0%		2-8
215.	循環	23	25	92.0%		2-14
216.	双方向	23	25	92.0%		2-4
217.	爆発	25	27	92.6%		2-期
218.	情報網	26	28	92.9%		2-4
219.	震災	39	42	92.9%	[災] ざい(3)	2-中
220.	沿って	26	28	92.9%		2-3
221.	述べた	26	28	92.9%		2-1
222.	柔らかい	27	29	93.1%		1-4
223.	固い	28	30	93.3%		1-5
224.	協力	28	30	93.3%		1-5
225.	印象	29	31	93.5%		1-期
226.	訂正	29	31	93.5%		1-中
227.	損失	15	16	93.8%		2-期
228.	優しい	15	16	93.8%		1-8
229.	2倍	33	35	94.3%		1-7, 期
230.	異常	17	18	94.4%		1-4
231.	勤務	19	20	95.0%		1-9
232.	善意	76	80	95.0%	[善] せん(3)	2-2, 中
233.	鳴いた・泣いた	19	20	95.0%		1-9
234.	否定	39	41	95.1%		2-1
235.	軟らかい	60	63	95.2%		1-1, 中
236.	企画	22	23	95.7%		1-10
237.	同僚	22	23	95.7%		2-15
238.	冷房	22	23	95.7%		2-15
239.	撃つ	23	24	95.8%		1-9
240.	延ばす	23	24	95.8%		1-3
241.	放射能	24	25	96.0%		2-14
242.	維持	25	26	96.2%		2-5
243.	決裂	26	27	96.3%		2-期
244.	成長率	26	27	96.3%		1-期
245.	慣れる	26	27	96.3%		1-10, 期
246.	紹介	27	28	96.4%		2-1
247.	体系的	27	28	96.4%		2-3

248.	負ける	60	62	96.8%		1-2, 中
249.	本州	31	32	96.9%		1-1
250.	無益	33	34	97.1%		2-期
251.	全て	35	36	97.2%		1-6
252.	好評	36	37	97.3%		2-中
253.	肯定	39	40	97.5%		2-中
254.	勝つ	85	87	97.7%		1-2, 中
255.	幸せ	59	60	98.3%		1-4, 中
256.	参加	61	62	98.4%		1-2, 中
257.	愛する	31	31	100.0%		1-7
258.	赤字	35	35	100.0%		2-期
259.	危ない	24	24	100.0%		1-4
260.	甘い	30	30	100.0%		2-2
261.	胃	35	35	100.0%		2-期
262.	核心	18	18	100.0%		2-16
263.	環境	28	28	100.0%		2-3
264.	現状	28	28	100.0%		2-3
265.	検診	35	35	100.0%		2-期
266.	権利	74	74	100.0%		2-2, 中
267.	65歳	31	31	100.0%		1-期
268.	作品	24	24	100.0%		1-7
269.	死ぬ	31	31	100.0%		1-7
270.	占める	21	21	100.0%		1-8
271.	食卓	26	26	100.0%		2-5
272.	例える	19	19	100.0%		1-10
273.	頼む	16	16	100.0%		1-8
274.	務める・勤める	20	20	100.0%		1-9
275.	評価	28	28	100.0%		2-1
276.	普通	30	30	100.0%		1-5
277.	降る・振る	20	20	100.0%		1-9
278.	分別	20	20	100.0%		1-9
279.	命令	23	23	100.0%		2-15
280.	最も	37	37	100.0%		1-6
281.	陽気	14	14	100.0%		2-1
282.	利益	25	25	100.0%		2-8

〈誤答リスト〉

1. 修行 しゅうこう(12), しゅこう(3), しゅうごう(2), 無解答(2), しゅうぎょう, しゅうこ, しゅうどう, しゅうへい, しっこう, せいこう, そうこう 2. 因果 いんか(16), いか 3. 作物 さくぶつ(20), さっぶつ, つくりもの, どうぶつ, 無解答 4. 屋内 しつない(9), やない(7), そちのう, ぶない, □ない, 無解答 5. 煮物 にるもの(3), にもつ(2), 無解答(2), けぶつ, しもの, しゃぶつ, しゃもつ, しゃもの, つけもの, まりもの, めいぶつ 6. 両替 りょうたい(5), りょうかえ(2), りょうかい, りょうか, りよ

うさん, りょうせい, りょうだん, りょうふ, 無解答 7. 快く 無解答(10), とく(2), うまく, かいく, かく, かくひきく, かつく, かわく, はやく, ふく 8. 貧富 ひんふ(4), ひんぶ(4), びんふ(2), せいどう, ちふく, ひんふう, ひんとう, びんどみ, びんふく, びんぼう, ふうと, ほうふ, 無解答 9. 貧困 びんこん(3), びんこう(2), ひんなん(2), じゅうなん, びんあん, ひんいん, びんいん, びんこ, ひんごん, びんこん, びんなん, びんぼう 10. 輸出入 ゆしゆつ□(3), ゆしゆつにゆう(2), ゆうしゆつにゆう(2), ゆうしゆつにゆう(2), 無解答(2), ゆじゆつにゆう, ゆうじゆつにゆう, ゆうしゆつ□, ゆうしゆうにゆう, しゆうしゆつにゆう, りんしゆつにゆう, そんしゆにゆう 11. 昇る 無解答(12), あがる, おさまる, のびる, のべる 12. 深刻 □こく(2), かいこう, きこく, しこく, やくり, 無解答 13. 存続 ぞんぞく(3), ぞんどう(2), そん□(2), いぞん, ぞんけい, そんけつ, ぞんし, そうぞく, ぞんばい, ほぞく, 無解答 14. 目印 もくいん(9), めいん(3), 無解答(2), めえい 15. 前売券 ぜんばいけん(11), ぜんしょうけん, ぜんばけん 16. 終了 ごりょう(3), こうりょう(2), 無解答(2), おわりょう, かんりょう, こうし, こうしょう, ごしゆ, こりょう, しゅうし, しょう□, ぞうりょう, へんし, ゆうりょう, □りょう 17. 織る 無解答(7), おくる(2), おもる, する, はかる 18. 耳鼻科 無解答(2), いひか, くびか, じびりょう, ちょうすいりょう, びしか, ひびか, ひびげ, ぶびか, □びか, みばなか 19. 解く 無解答(7), かく(2), すく(2), かつく, きく, ほどく 20. 反省 はんしょう(9), はんしゅう(2), へんしょう(2), たんい, はんしよ, はんしん, はん□, 無解答 21. 案内係 あんないけい(10), あんない□(2) 22. 完了 しゅうりょう(4), かいし, かんしゅう, かんしょう, かんせい, かんりゅう, かんりよ, げんりょう, しりょう, ちゅうし, ていし, はんこう, 無解答 23. 整える 無解答(9), そなえる(2), おさえる, せいえる, そろえる, ととえる, ののえる 24. 担う 無解答(7), たたかう(4), いなう, おう, せまう, たなう, ととなう 25. 率いる 無解答(5), そついる(2), ふないる 26. 圧縮 あつしゆく(7), 無解答(3), あつしゅう, あつじゆく, あつしょう, あつりやく, しゆしゃく 27. 改める 無解答(5), あきらめる(2), おさめる(2), かかめる, ささめる, きめる 28. 解答 かいどう(2), 無解答(2), かいこう, かいけい, かいけん, かいせい, かいだ, かいだい, かいいてい, かい□ 29. 柔軟 なんじゃく(3), かんじゃく, じゃくなん, じゅうけい, じゆじゃく, しゆしゆん, じゆん□, じょうなん, ようなん, よじゅう, 無解答 30. 装う 無解答(5), おそよう(3), あらそう, おぎなう, およそう, そう, よきあう, よそう 31. 幸い 無解答(4), しあわせい(2), つらい(2), あさわい, あやわい, いわしい, きわしい, こい, しあわい 32. 負担 ふだん(4), ぶたん(2), たんと(2), 無解答(2), しょうたん, ふうたん, ふた, ぶんたん 33. 貴重 無解答(3), きじゅう(2), いちゅう, いじゅう, いんよう, かんるい, きんよう, じゅうよう, せきじゅう, □よう 34. 争う 無解答(8), そう(3), あらう 35. 邦画 ほうか(2), けんかく, とが, はいかく, ばんかく, ぼうが, ほうかく, ぼつが, □が, 無解答 36. 企てる 無解答(3), かわだてる, すてる, すべてる, たてる, だれてる, わてる 37. 等しい 無解答(13), いとしい, おとしい, おそろしい, げわしい, とうしい, どうしい, とつとしい, ととしい, とほしい, はげしい, はやしい, ひどしい 38. 養う 無解答(18), やしまう, やさなう, しなう, たつとう, たう, のかう, ようう 39. 常に じょうに(5), ひじょうに(2), 無解答(2), つでに, とともに 40. 世の中 せのなか(4), せいのなか(3), せかいのちゅう, せのちゅう, ようのなか, よのちゅう 41. 患って 無解答(5), かかって, すわれって, たずさわって, ちよつと, わずつて, わらわって 42. 縮小 ふくしょう(2), 無解答(2), かいしょう, しゅうしょう, しゆくこ, じゆくしょう, しゆくじょう, しゆくしよ, じょうしょう, そくしょう, だいしょう, はくしょう 43. 快適 無解答(3), かいしゅう, かいしょう, かいてん, かい□, とくりく 44. 球場 きょうじよ(4), きゅうば(3), きゅうちょう 45. 脅威 無解答(3), □めつ(2), いりよく, きょうかつ, しょうい 46. 削る かずける, きる, くずる, けじる, さぐる, さげる, のぞる, 無解答 47. 戦う 無解答(5), きそう, さがなう, せいう, せんう, だたかう, のう 48. 素足 そあし(2), しょあし, すそく, すぞく, せいそく, 無解答 49. 外務省 がいきょうしょう(2), かいむしょう(2), がい□しょう(2), がいじむしょう,

がいおしょう, がいむじょう, だいかくしょう 50. 海の底 うみのてい(6), うみの□(2), かいのてい(2), うみのだい, うみのどこ, かいてい 51. 敗れる 無解答(10), あぶれる(2), あらわれる, うれる, そのれる, とれる, はいれる, ばいれる, ばける, はれる, まけれる, よぶれる, よぼれる 52. 申告 しんく, しんこ, しんこう, しんぞう, しん□, こうこく, もうこく, 無解答 53. 造る 無解答(6), ことなる(2), うじる, おうじる, ぞうる, のぼる, のぼる 54. 試しに 無解答(5), しきしに(2), あめしに, こころしに, ためしに 55. 首相 無解答(8), しゅしょ(4), しゅそう(4), しゅと(4), しゅうしょう(3), しゅうしょ(2), しゅ□, しゅじょう, しゅうじょう, しゅっしょう, しゅれい, ぶしゅ, くびそう, どうそう, どうしゅう, どうてい, くび□ 56. 勝負 しゅうふ(4), しょうはい(2), しょう□(2), しょうぼう, 無解答 57. 統一 とういち(7), だいいつ, とうしつ, とうひとつ, 無解答 58. 激しい 無解答(14), きびしい(4), げわしい(2), あさしい, かげしい, くわしい, ぐわしい, げきしい, げげしい, ことしい, すばらしい, とほしい, のばしい, ましい, やがしい, やさしい 59. 平均値 びょうどうち(3), だん□□, へいきち, へいきんか, へいきんだん, へいきんちゅう, へいちょうち, へい□□, □□ち, 無解答 60. 養育 無解答(3), ようきょう(2), □いく(2), きゅういく, りょういく, しょうい, きぎょう, みのう 61. 数値 すうね(4), ずうち(2), すいち, すうちよく 62. 断る 無解答(7), こだわる(3), あらためる, いどる, おさまる, こたわる, たえる, たつ, とこわる 63. 配る 無解答(4), はいる(2), ばいる(2), はる 64. 軟弱 無解答(3), えんじゃく, じゅなん, なんてん, なんにゅう, よわらかい, □じゃく 65. 任せる あわせる(8), あかせる, あらわせる, まがせる, まもせる, まわせる 66. 煮る 無解答(3), にいる 67. 退職 無解答(9), いんしょく(2), けいかい, げんしょく, しゅうしょく, しょうはん, たいしょう, たいしょうく, たんしょく, ていしょく, ようしょく, □しょく 68. 到着 とちやく(2), とうちく, どくちやく, とっちやく, ちやくき, りょう, □き, 無解答 69. 拡大 無解答(4), かくたい(2), □だい(2), かいたい, げんだい, こうくたい, しだい, じゅうたい, じょうたい, じょうだい, はくだい, ひろだい, ひろいだい, ふたい, りょうたい 70. 描写 ひょうしゃ(2), みょうしゃ(2), はさい, びょうさ, びょうしん, びょうよう, みょうきょう, 無解答 71. 共存 きそん, きょうぞう, きょうざい, きょぞう, きょぞん, こうぞう, こうぞん, ごうぞん, どうぞん, どんぞん, □そん 72. 上昇 じょう□(2), 無解答(2), しょうか, じょうかい, じょうしん, じょうそう, しょうじょう, しょうしゅう, しょう□ 73. 復興 ふつきょう(12), ふくこう(3), ふきょう(2), ふくしゅ, ふこう, ふつきゅう, ふつきよ, ふつこく, ゆうきょう, □こう 74. 貧しい 無解答(6), むずしい(2), めざしい, いさましい, きびしい 75. 盛大 せいたい(4), じょうたい(3), おおもり(3), おうだい, さかんだい, さいだい, さんだい, しょうたい, しょだい, せきだい, ほうだい, もりたいたい, もるだい, だいたい, まりおお, 無解答 76. 脅かす おどかす(3), おとかす, かかす, ついやす 77. 時間帯 じかん□(3), じかんぜい, じかんだい 78. 職場 しょくじょう(6), しょくじよ, 無解答 79. 天然 てんぜん(5), てんえん 80. 濃厚 無解答(5), せんぱく, のうふ, のうゆう 81. 防ぐ 無解答(5), ぼうぐ(2), かぐ, くせぐ, ささぐ, すなぐ, たぐ, のぞぐ, ふぐ, ふめぐ, まつぐ 82. 限る 無解答(7), まなる(2), あたる, たりる, ととのる, ととる, ながる, みのる 83. 急激 きゅうかい(2), 無解答(2), きゅうき, ぎゅうげき, きゅうこう, きゅうはく, きゅう□ 84. 治療 じりょう(3), だいいりょう(2), 無解答(2), いらい, かつりょう, しょうしょう, せんりょう, そうりょう, ちじょう, ちちょう, ちりよく, だいじよ, □まつ 85. 値 ね(3), ひたい(2), 無解答(2), あいわ, あた, あだい, ち 86. 兼ねて 無解答(2), かさねて, かばねて, けねて, たねて, ゆだねて 87. 豊富 ゆうふ(2), ゆうふく(2), ゆたか(2), いふ, こうふ, こうふく, そふ, とうふ, のうふく, ふうぶ, ほうふう, ゆうふう, ゆうたか, 無解答 88. 著しい 無解答(2), いずるしい, いちしるしい, いちるしい, きびしい 89. 多数 おおすう(2), たす(2), おおかず, たしょう, たず 90. 世紀 せき(5), せいぎ, せこ 91. 趣旨 しゅうし(3), きょうし, きよ□, しゅうじ, しゅ□, 無解答 92. 証拠 しょうこう(4), しょうきよ(3), しょうきょう, しょうしよ, しょう□, しよこ, しよこう 93. 平等 へいと(11),

へいじ(3), へいどう(2), へい□(2), ほんとう(2), ほん□, びょうど, びょうどよう, びょうとう, へ
 どう, へいき, へいきん, へいだい, へいよう, へりよ 94. 圧力 無解答(4), あつしよく, けつりよく,
 とうりよく 95. 債権 せっけん(2), ざいけん, せいい, せきかん, せきけん, ちんけん 96. 紀元
 前 きげんまえ(2), かいげんぜん, きえんぜん, 無解答 97. 宣誓 せか, せんげん, せんぜい, せん
 ちく, でんせい 98. 無断 むたん(2), おだん(2), 無解答(2), ふだん, むだ 99. 認める たしかめ
 る(2), いちめる, かくめる, まざめる, まとめる, もとめる 100. 各地 がくち, かくちか, かんち,
 無解答 101. 確率 かくちょう, かんざつ, さつりつ, 無解答 102. 超す あこす, おこす, こえ
 す, 無解答 103. 支える 無解答(8), あたえる, おさえる, おそえる, かえる, ことわえる, さえる,
 ちちえる, ちぢえる 104. 消防署 けいぼうしょ, けぼうしょう, げんぼうしゃ, こうぼうしょ, さ
 いぼうしゃ, しょうぼうしゃ, しょうほうしょ, しょうほうしょう 105. 半額 はんかく, はんかん,
 はん□, 無解答 106. 懸念 けんねん(13), けいねん(2), けんお(2), けつねん, けんめい, 無解答
 107. 固執 かく□, こうちく, こしく, こじつ, こっし, 無解答 108. 根本 こんほん(3), きほん(3),
 こんぼう(2), こんき(2), きほん, こぼう, こんばん, ほんほん 109. 団体 ぐんたい(3), ぐたい, と
 んたい, たんたい, だんだい, 無解答 110. 担当 だんとう(3), たんどう, たんにん, ていとう, で
 んとう, 無解答 111. 浅い 無解答(4), うすい, かたい, はさい, むすい 112. 現れる あわれる
 (4), あわられる 113. 改革 かいがく, かいけい, かいそう, かいたい, こうかく, こうかわ, □か
 く 114. 妊婦 にんふ(3), だんぷ, にんぶ, にんふう 115. 上る・登る あがる(2), とおる, のびる,
 のほる, のる 116. 異なる 無解答(4), いなる(3), こいなる, ことになる, さとなる, ととなる, と
 なる, とみなる 117. 硬い こたい(2), おかしい, こうい, たかい, つかい, 無解答 118. 浄化 しょ
 うか(2), ぜんか(2), そうか, 無解答 119. 大規模 だいきぼう(5), おおきぼ, おおきぼう, おおきもく,
 おおはば, たいきぼ 120. 訪ねる おとたねる, たぞねる, ほうねる, ほうねる, 無解答 121. 単
 純 かんじゆん(2), せんじゆん(2), せん□(2), 無解答(2), そうふ, たんこう, たんじゆう, たんしゆく,
 だんしゆつ, だんしん, たんそう, たん□, なんちゃく 122. 楽観的 らくかんてき(7), らっけて
 き 123. 保管 ほうかん(9), ほうかん, ほんかん, ほけん, ほけんかん, 無解答 124. 想像 かん
 そう(2), そうじょう, 無解答 125. 舞台 ふうたい, ふだい, ぶだい, 無解答 126. 臨界 りかい,
 りんかん, りんせい, れんかい 127. 過去 かこう(2), こか(2), かいこく, かきよ, かくごう, かご,
 かごう, かほう, こうきゅう, こんこ, つうほう, ほうりつ 128. 変更 無解答(7), へんさい(2), か
 んこう, へんこ, べんべん, へんり 129. 探る さがる(5), 無解答(3), さわる 130. 慣例 しゅう
 れい(2), なれい, 無解答 131. 応援 無解答(4), おう□(2), えんじょう, おうきゅう, おうしょう,
 おうじょう, おうしよく, おおえん, しんかい 132. 輸入 しゅうにゅう(4), ゆうにゅう(3), しゅ
 にゅう(2), にゅういん, ゆうりょう, ゆしゅう, 無解答 133. 概説 かいしょう, がいめい, げいせ
 つ, ばいせつ, 無解答 134. 察知 さつち(2), さつじ, さつち, さち 135. 養成 ようこう, よせい,
 いせい, そうせき, 無解答 136. 豊か 無解答(3), ゆうたか(2), ゆうか(2), とよか, はでやか, ほう
 か, ゆか 137. 再び 無解答(3), あたたび(2), あらび, さいび, じゃび, ひたたび, ふたたび, ふたび,
 またたび 138. 裕福 ゆふく(2), ようふく, しゆくふく, □ふく 139. 予算 ようさん(2), しさん,
 ようさ, よかん, よさい, よぼう 140. 世紀 せき(8), せつき(2), せいきん, 無解答 141. 仏教
 ぶつぎょう(3), ふつぎょう(2), いんきよく, ぶきょう, ふつぎょう, ぶつぎょう, ふつぎょう, 無解
 答 142. 比率 かりつ(2), ひつりよく, □りつ 143. 家賃 かちん(3), かち 144. 暴落 無解答(4),
 からく, きゅうらく, けいらく, けんらく, のうちく, ほうらく, ほうかく, ほうき, ばらく, ようちゃく,
 □らく 145. 捕まえる かかまえる, たたまえる, とまえる 146. 極端 きよくだん(3), きよくます,
 ちよくたん 147. 郵便局 無解答(3), ゆうひんきよく(2), のこうしょう, びじゅつかん, ほうこうかん,
 ゆうびんきゃく, ゆうべんきよく, ゆうこうてい 148. 期限 きけん(2), きかん, きたい, げんてい
 149. 熱心 ねしん(2), れっしん(2), 無解答(2), あんしん, かんしん, せんしん 150. 確実 無解答(2),

かくしつ, けいじつ 151. 困む 無解答(2), しゅむ 152. 自然 じえん, しせん, じぜん 153.
 首脳 しゅうのう(3), くびのう 154. 伴う うたがう, そそう, ととなう 155. 欧州 無解答(2), お
 うべい, おうへん, ほんしゅう 156. 修理 しょうり(2), ちゅうり, まいり, 無解答 157. 視力
 かんりよく, しりょうく, しんりよく, ちゅうりよく, □りよく 158. 成功 かんこう(2), 無解答
 (2), かんかい 159. 分解 こうかい, おかい, ぶんけい, ぶんりょう, 無解答 160. 乱用 しつよ
 う, せんよう, へいよう, みだよう, □よう 161. 洞察 えんさつ, どうさい, とうさつ, とうりよ
 う 162. 破産 はっさん(2), かいさん, かくさん 163. 順序 じゅんじょう(3) 164. 介護 かいほ(2),
 かいこ, しょご 165. 欠航 じこう(2), けつこう, しこう 166. 紛失 ぶんけつ, ふんし, ぶんし
 つ, ふんぴつ 167. 満席 まんど(2), まんぜき 168. 削減 さいけん, しつげん, しょうげん, しょ
 うめつ 169. 努める さだめる, のめる, もとめる, 無解答 170. 保険 ほうけん(4) 171. 欧米
 おうべん(2), 無解答(2), おうへい, おべい, こくべい, ヨーロッパ・アメリカ 172. 抑える 無解答
 (2), おそえる, くわえる, こえる 173. 値上げ ちあげ(2), 無解答 174. 離党 りつとう(3), りく
 とう, りよとう 175. 精神 せいじん(3), せいし, しょうじん 176. 出張 しゅうちょう(2), しゅちよ
 う, しゅっぱつ 177. 郊外 こうかい(3), かいがい, きょかい, こがい, ふかい, □がい 178.
 器官 ひんかん(2), ぎかん, せいかん 179. 展示 てんし(2), かいてん, てんげん, でんじ, 無解答
 180. 特急券 とつきゅうかつ, とくきゅうけん, とくきゅう□, 無解答 181. 幸福 かんぶく, しあ
 わせ, ゆうふく 182. 示す 無解答(2), くめす 183. 税金 せいきん, ぜいぎん 184. 多方向 だ
 ほうこう(2) 185. 閉じる とうじる(3) 186. 乳児 じゅうじ, ちじ, にゅうい 187. 百歳 ばんざ
 い 188. 文化庁 ぶんか□(3), ぶんかしょう(2), ぶんかちよ, ふんかちょう 189. 汚れる あこれ
 る, うごれる, おこれる, おそれる, やぶれる, よこたれる, よばれる, よぼれる 190. 軍縮 くん
 しゅく, ぐんじゅく, ぐんしよく 191. 恐らく あそれく, おぞらく, おどらく 192. 実施 じっし,
 じっせつ, じっふ 193. 取材 しゅさい, しょざい, きざい 194. 搭乗 とじょう(2), じょうしゃ
 195. 固める こめる, 無解答 196. 欠点 かくてん, さつてん, 無解答 197. 張り切る □りきる,
 無解答 198. 出席率 しゅせきりつ, しゅつせきぞつ, じゅつせきりつ, しゅつどりつ 199. 声明
 こうめい, しめい, しょうめい 200. 開いた・空いた かいいた, ひらいた 201. 納める つとめる,
 無解答 202. 有毒 ゆどく, ゆう□, 無解答 203. 禁止 きんえん, きんしん, さんし 204. 整
 理 無解答(2), ちゅうり 205. 確かめる あつかめる, かしかめる, さすかめる 206. バス停 バス
 じょう, バスば, 無解答 207. 冷やす しやす, よこやす 208. 満室 まんし, もんしつ 209.
 濃い 無解答(2), うすい, のうい, ふかい 210. 積極的 けつきよてき, せきよくてき, せつきくてき,
 せつきょうてき, 無解答 211. 上司 じょし, 無解答 212. 衛星 えいしやう, かいえい, ごせい,
 てい□, へいせい, 無解答 213. 需要 じゅうよう, しょうゆう, しょうよう, ゆうきゅう 214.
 行為 ぎょい, ぎょうい 215. 循環 あくじゅん, かんきやう 216. 双方向 こうほうこう, たほう
 こう 217. 爆発 ばつぱつ, えきはい 218. 情報網 しょうほうもう, じょうほうも 219. 震災
 しんざい(3) 220. 沿って そうって, 無解答 221. 述べた ならべた, 無解答 222. 柔らかい よ
 わらかい, 無解答 223. 固い 無解答(2) 224. 協力 ちゅうりよく, □りよく 225. 印象 いん
 しょ, 無解答 226. 訂正 ちやうせい(2) 227. 損失 そしつ 228. 優しい 無解答 229. 2倍
 にばい, にばん 230. 異常 □どう 231. 勤務 無解答 232. 善意 せんい(3), 無解答 233. 鳴
 いた・泣いた 無解答 234. 否定 ふてい(2) 235. 軟らかい 無解答(2) よわらかい 236. 企画
 きが 237. 同僚 とうりやう 238. 冷房 れんぼう 239. 撃つ 無解答 240. 延ばす かいばす
 241. 放射能 ほうざいのう 242. 維持 せいたい 243. 決裂 けいれつ 244. 成長率 せいちやう
 じつ 245. 慣れる はなれる 246. 紹介 しょうがい 247. 体系的 たいせいてき 248. 負ける
 うける, ぶける 249. 本州 もとおう 250. 無益 むい 251. 全て すへて 252. 好評 こうぴよ
 う 253. 肯定 きてい 254. 勝つ しょうつ, かいはつ 255. 幸せ あらわせ 256. 参加 無解答

4 指導法および教材開発への示唆

表1の282語の正答率別分布は、正答率20%未満が3語、20%以上30%未満が2語、30%以上40%未満が11語、40%以上50%未満が10語、50%以上60%未満が28語、60%以上70%未満が33語、70%以上80%未満が50語、80%以上90%未満が62語、90%以上100%未満が57語、100%が26語である(図1)。正答率60%未満の語が2割(54語)、60%以上80%未満が3割(83語)、80%以上の語が5割(145語)を占める。事後テストであることが関係していると思われるが、全体的に正答率の高い語が多く、正答率の低い語、すなわち学習者が読み誤りやすい語は絞られる。正答率の低い語のうち、習得の必要性が高いと思われる語については授業での導入や練習時に読みに配慮した指導が求められるだろう。一方、正答率の高い語は、読みの習得ができていない学習者向けの補助教材を作成するなどして、学習者の習得状況に応じて個別に対応する必要があるだろう。

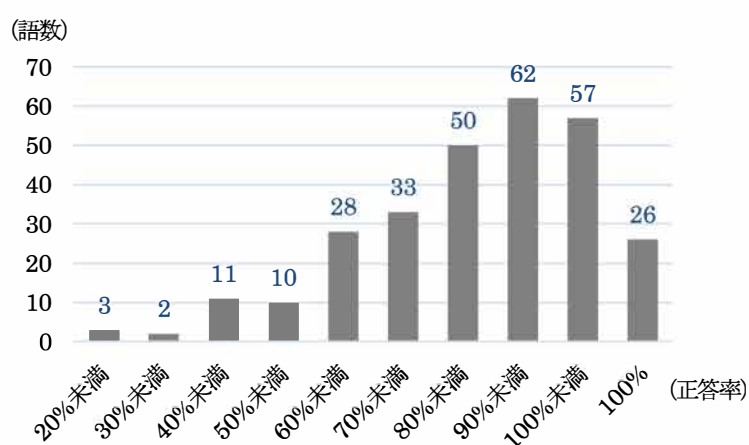


図1 282語の正答率別分布

そして、正答率の低い語を中心に高頻度の誤りが抽出されたが、高頻度の誤りには次のような傾向が見られた。①当該漢字の有する他の読みを書いた誤りが全体的に目立つ。②長音・短音(例:短音→長音「保」を「ほう」,「輸」を「ゆう」,「趣」を「しゅう」/長音→短音「相」を「しよ」,「場」を「じょ」),清音・濁音(例:清音→濁音「端」を「だん」,「災」を「ざい」/濁音→清音「善」を「せん」)のように類似の他の音を書いた誤りも多い。③和語動詞や和語形容詞については無解答が多く、他の和語動詞や和語形容詞の読みを書いた誤り(例:「任せる」を「あわせる」,「探る」を「さがる」,「断る」を「こだわる」,「激しい」を「きびしい」)も多い。この他に、形声文字の読みのルールを応用しての誤り(例:「便」を「こう」,「治」を「だい」,「屋」を「しつ」)もいくつか見られた。濱田・高島(2009)で行った中国人学習者12人の漢字テストにおける誤答分析でも同様の傾向が見られた。日本語学習者が読み誤りやすいこれらの点を、授業での導入や練習の中でいかに学習者に気づかせ、正確な読みの定着につなげていくか、漢字語の読み指導における課題である。

今後は、今回作成した漢字語の読みの難易度リストをもとに、漢字クラス用に開発した教材で取り上げる漢字語の見直しを行うとともに、より効果的な指導法および教材の開発を検討していきたい。

謝辞

本研究はJSPS科研費JP15K02636の助成を受けたものです。

データの収集に当たり高島智美氏に多くのご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

注

- 1) 日本の大学で学ぶ外国人留学生を対象とした授業で、交流協定校からの短期留学生、日本語・日本文化研修留学生、大学院生、研究生等が受講している。
- 2) グループ練習に参加した学習者 48 人に行ったアンケート調査（濱田 2018）においても、練習相手との関係について「練習しにくい相手だった」と答えた学習者は、練習相手と漢字力に差があることや、相手が授業準備をしてきていないことを理由に挙げていた。
- 3) 中間テストと期末テストと上級のチェックテストは文中の漢字語の読みを答える形式、中級のチェックテストは漢字語のみを提示して読みを答える形式である。
- 4) チェックテストと中間テストはテスト後にフィードバックを行っている。期末テストについては受験者全員に対してフィードバックを行う場合と、希望者へのみ行う場合がある。
- 5) 例えば、語彙リスト「106. 懸念 けんねん(13), けいねん(2), けんお(2), けっねん, けんめい, 無解答」では、4 人の学習者が複数回読み誤っている。1 人目は「けんねん, けいねん, けいねん」と 3 回のテストすべてで読み誤っていた。2 人目は「けんお, けんお」と 2 回のテストで読み誤り、期末テストは未受験だった。3 人目は「けんめい, けんねん」, 4 人目は「けんねん, けっねん」と 2 人とも 2 回のテストで読み誤り、期末テストでは正答だった。

参考文献

- (1) 高島智美・濱田美和（2010）：複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスの授業改善及び教材開発—学習者の学びの活性化のための試み—, 富山大学留学生センター紀要, 第 9 号, 9-18.
- (2) 濱田美和・高島智美（2009）：中国人学習者に対する漢字教育のための基礎研究—漢字の読み・書きクイズにおける誤答の分析—, 富山大学留学生センター紀要, 第 8 号, 1-12.
- (3) 濱田美和（2018）：漢字クラスにおけるグループ練習—グループ練習参加者を対象としたアンケート調査結果—, 富山大学人間発達科学部紀要, 第 13 巻第 1 号, 155-163.

留学生と日本人学生の合同授業におけるディスカッションの試み —学生アンケート結果からの考察—

小木曾 左枝子
大西 吉之

The Implementation of Collaborative Learning between International Students and Japanese Students: An analysis of student questionnaires from a discussion class

Saeko OGISO
Yoshiyuki ONISHI

要 約

本稿は、中級レベルのオランダ人留学生と日本人学生による合同授業の実践報告を目的とする。同性婚をテーマとしたテレビ番組のビデオを見た後、グループディスカッションで自由に話す形式で合同授業を試行し、そのディスカッション授業についての質問紙調査を行った。そのアンケート結果をもとに、参加学生のディスカッションに対する満足度、ディスカッションを通しての学びや発見、ディスカッション授業の評価できる点や問題点をまとめ、今後の課題について考える。

【キーワード】 合同授業, 留学生, 日本人学生, ディスカッション, アンケート

1 はじめに

富山大学国際機構（旧国際交流センター）では、2017年4月よりオランダのライデン大学から学生を受け入れ、3ヶ月間のライデン大学短期日本語研修プログラムを開講している。同プログラムは、国際機構で開講している中級クラスの日本語科目を受講し、他の留学生とともに日本語を学習するものだが、彼らが3ヶ月という短期の留学中に、富山大学の学生をはじめ、日本人との交流機会が持てるように、ライデン大学生専用の「異文化間コミュニケーション」授業を設けている。その授業活動の一つとして、我々は日本人学生との合同授業を組み込み、日本語でのディスカッション授業を試みている。そこで本稿では、客観的評価を踏まえた今後の授業改善のため、2018年度ライデン大学短期日本語研修プログラムに参加した留学生および経済学部専門ゼミナール所属の日本人学生に行った合同授業のディスカッションについて、授業後に実施したアンケートの結果をもとに、ディスカッションに対する満足度、ディスカッションを通しての学びや発見等、学生がディスカッションを評価した点や不満に感じた点について考察する。

2 合同授業の概要

合同授業は、2018年6月5日に経済学部専門ゼミナールに留学生が訪れ、授業を1コマ（90分）使う形で行った。参加者は留学生が13名（アンケートに回答した学生は12名で全員オランダ人）、日本人学生が10名だった。授業は、NHK ハートネット TVで放映された『僕たちが選んだ「結婚』』というオランダ人男性と日本人男性の結婚について描かれているテレビ番組のビデオを見た後、グループで自由にディスカッションを行う形式にした。このトピックを選んだ理由は、経済学部専門ゼミナールが同性カップルの権利保障をテーマとして研究作業の習得を授業のねらいとしていることもあり、

また留学生にとっても十分に背景知識があるトピックだと思われたからである。ビデオで使用されている言語は、英語やオランダ語で日本語字幕が表示される部分も一部あるが、ほとんどが日本語である。また、ディスカッションの使用言語は日本語とした。

国際機構で中級クラスの日本語授業を受講している留学生にとって、その場でビデオを1度見て、内容を理解し、すぐにディスカッションに入るのは、日本語の熟達度から難しいと考えられたので、合同授業の前に準備としてビデオを見るのに授業を1コマ(90分)使った。その際、まず留学生にとって未習だと思われる語や表現のリストを配布し、確認した。文脈があった上で確認したほうが良いと思われる語や表現については、ビデオを見ながら確認した。また、ビデオを見ながら、そしてビデオを見た後で、教師が作成した理解問題を使用し、ビデオのあらすじや重要な点を確認した。

一方、経済学部専門ゼミナールでも、事前にディスカッションの準備を行った。日本人学生は総じてゼミに所属するまで、こうしたテーマにはほとんど触れていなかった。そこでまず、英語文献の輪読を通じて、オランダでは同性愛者が社会でどのように受け入れられているのか理解を深めさせた。テキストには、オランダ政府系機関による社会調査報告書の概要(The Netherlands Institute for Social Research SCP, *Out in the Netherlands: A study into the acceptance of homosexuality in the Netherlands*, 2007)を選んだ。その後、日本の状況についても各種新聞記事を収集させ、情報共有に努めさせた上で、上記の番組を見せ、ディスカッションに備えた。ただし、ディスカッションそのものの訓練は、特に行わなかった。

3 アンケート結果と考察

アンケートの質問は、留学生と日本人学生の合同授業におけるディスカッションを、どのように行うのが両者にとっていいのか、どう改善していくべきなのか等を、今後検討していく際に学生からの声を反映できるようにすることを考えた。そして、8つの質問項目を設け、回答には選択回答式と自由記述式を併用した。質問文は日本語で準備し、留学生の日本語習熟度を考慮した文法や語・表現を使い作成した。また、記述式の回答については、留学生には、日本語で説明するのが難しい場合は英語で書いてもいいと指示を与えた¹⁾。

アンケートは、留学生については参加者13人のうち12人(92%)、日本人学生については10人全員(100%)から回答が得られた。

3.1 外国人とのディスカッション経験の有無について

学生にアンケートを実施する上で、まず留学生には日本人学生とのディスカッション経験の有無を、日本人学生には留学生とのディスカッション経験の有無を、以下の質問を用意し尋ねた。

質問1

<留学生への質問>

今までに授業の活動として日本人学生とディスカッションをしたことがありますか。

「はい」と答えた人は、回数を書いてください。

<日本人学生への質問>

今までに授業の活動として留学生とディスカッションをしたことがありますか。

「はい」と答えた人は、回数を書いてください。

はい [回] いいえ (今回がはじめて)

結果は下記に表されているように、留学生も日本人学生も、外国人とのディスカッション経験がない学生が多かった。

	留学生 (12人)	日本人学生 (10人)
「はい」	3人 (25%)	1人 (10%)
「いいえ」	9人 (75%)	9人 (90%)

また、「はい」と回答した学生のディスカッション経験の回数については、ディスカッション経験があると答えた3人の留学生のうち、1人が1回、2人が2回だった。また、ディスカッション経験があると答えた日本人学生1人は、1回だった。よって、全体的に見ると、外国人とディスカッションをすることにあまり慣れていないオランダ人学生と日本人学生の間でディスカッションが行われたと言える。

3.2 ディスカッションに対する意識について

次に、授業の活動として、学生がディスカッションをどう考えているか知ることは、今後、ディスカッションを授業にどう組み込むか考える上で重要だと考え、以下を質問項目に入れた。

質問2

一般的に授業の活動としてディスカッションが好きですか。

はい いいえ どちらとも言えない

[理由・コメント]

以下の表から分かるように、ディスカッションが好きな学生は、日本人学生より留学生のほうが若干多いが、傾向はほぼ同じという結果であった。

	留学生 (12人)	日本人学生 (10人)
「はい」	6人 (50%)	4人 (40%)
「いいえ」	2人 (17%)	2人 (20%)
「どちらとも言えない」	4人 (33%)	4人 (40%)

留学生については、これが一般的なオランダ人留学生の傾向なのかどうかは、アンケートを行った人数が少なく、また普段の日本語授業の様子からは、この年に受け入れたオランダ人留学生は、静かな学生が多いと複数の授業担当教員が述べていたことを考えると、判断が難しい。

理由やコメントについては、留学生は「はい」と答えた6人のうち2人が、日本人学生は「はい」と答えた4人全員が記入していた。日本人学生のディスカッションが好きな理由は、4人とも共通しており、「自分とは違う考えや意見などが聞けたり、自分が思いつかなかった考えが聞けたり、新しい発見があっておもしろいから」といった内容のものが多く、日本人学生にとってディスカッションは、他者の意見を聞く場であることがうかがえた。留学生で理由やコメントを書いた2人のうち1人は、「ディスカッションをするのは楽しい」とだけ述べていたが、もう1人の留学生のコメントからは、ディスカッションがどうあるべきかという考え方が見受けられた。そのコメントには「トピックについて深く考え、自分の意見を相手と分かち合い、相手の意見に対して自分の考えを述べることに前向きな姿勢があるディスカッション・パートナーを見つけることがとても重要だ。そういう場合は、ディスカッションがとても楽しい活動に思える」と書かれており、ディスカッションは他者の意見を聞く場である以上に、相手の意見に対して自分の考えを述べ、議論を交わす場であるべきだという考え方が垣間見られた。1人の留学生からのコメントではあるが、留学生と日本人学生の間に見受けられるディスカッ

ションに対する意識の違いが、後述のディスカッションの満足度やトピックに関する知識の深まりへの回答に影響しているように思われる。

ディスカッションが好きではないと回答した学生の理由やコメントについては、「いいえ」と答えた留学生2人と日本人学生2人の4人全員がその理由を説明していた。留学生も日本人学生も理由は共通しており、「強い主張がなかったり、何を言っているかわからなかったりするから」(留学生コメント)、「ディスカッションが得意じゃないから」(留学生コメント)、「人と面と向かって話すのが得意でないから」(日本人学生コメント)、「自分の主張を分かりやすく論理的に伝えたり、相手の主張にうまく反論することが苦手だから」(日本人学生コメント)といったディスカッション自体に対する苦手意識によるものだった。

ディスカッションが好きでも嫌いでもないと回答した学生の理由やコメントについても、「どちらとも言えない」と答えた留学生4人と日本人学生4人の8人全員がその理由を説明していた。ただ、その理由には、留学生と日本人学生の違いが見られた。留学生は、トピックや議論をする相手、また状況などによってディスカッションがどう進むかが変わるので、一概に好きだとも好きではないとも言えないといったコメントがほとんどだった。また、疲れているかどうかといった体調などによって異なるとのコメントもあった。これは、合同授業のディスカッションが行われたのが5限で、留学生はその日1限から4限まで通常の日本語授業が4コマあり、疲れていた学生もいたことと関係しているかもしれない。一方、日本人学生の理由は、ディスカッションや話すことが得意ではないことを理由に挙げた上で、好きではなくともディスカッションという活動の重要性を考え、「どちらとも言えない」という回答を選んだことが分かるコメントが多かった。これは、上記の「いいえ」と答えた学生と共通した理由である。

3.3 合同授業として行ったディスカッションの満足度について

ディスカッション経験や一般的なディスカッションに対する意識について問う質問の後には、今回行った合同授業について、まずはその満足度を尋ねる以下の質問を用意した。

質問3

<留学生への質問>

今回の日本人学生とのディスカッションに満足しましたか(学習活動として楽しめましたか)。

<日本人学生への質問>

今回の留学生とのディスカッションに満足しましたか(学習活動として楽しめましたか)。

はい いいえ どちらとも言えない

[理由・コメント]

以下の結果から、留学生も日本人学生も「いいえ」を選んだ学生がいなかったことを考えると、全体的に満足度は高かったと言える。ただ、「どちらとも言えない」と回答したのは、留学生のほうが多かった。

	留学生 (12人)	日本人学生 (10人)
「はい」	8人 (67%)	9人 (90%)
「いいえ」	0人 (0%)	0人 (0%)
「どちらとも言えない」	4人 (33%)	1人 (10%)

留学生は「はい」と答えた8人のうち3人が、日本人学生は「はい」と答えた9人全員が、その理由やコメントを記入していた。留学生は、ディスカッションに満足した理由がそれぞれ異なり、「楽しかったが、時間が短かった。まだ勉強していない言葉を使わなければいけない時が度々あったので、少し難しかった」、「日本人学生はとても優しくかった」、「日本でLGBTがどう考えられているか興味深い意見を聞くことができた」といったコメントを述べていた。

留学生も日本人学生も、ディスカッションを行ったことには満足しているが、ディスカッションそのものに対する考え方や期待に違いがあり、それが「はい」と回答した学生の理由やコメントに表れていた。コメントからは、留学生より日本人学生のほうが満足しているのが分かるものが多かった。日本人学生は、9人のうち4人が「思っていたより」や「予想以上に」という表現をコメントに使っており、ディスカッション前は「留学生とうまく日本語で話せるのか」、「ディスカッションができるのか」といった疑問や不安があったのがうかがえ、その予想に反して、うまく話せたという結果から満足度が高かったように思われる。また、日本人学生のコメントには「日本のことを話せたし、オランダのことを聞くことができた」、「自分の聞きたいことが聞けて、自分の意見もある程度伝えられたと思う」といったコメントが多く、ディスカッションに求めていたことが「情報交換」や「意見交換」だったと推察できる。

それに対し、留学生はディスカッションのトピックについて深く議論することを求めていたようで、それが「どちらとも言えない」を選んだ4人の留学生の理由やコメントからうかがえた。その内容は「本当の意味でのディスカッションをすることはできなかった。日本人学生は、このトピックについて、はっきり意見を言うのは恥ずかしいと思っているという印象を受けた」、「興味深いトピックだったが、日本人学生がこのトピックについて特に知識があるというわけではなかったので、いい議論をするのが少し難しかった。議論というより質問のやり取りだった」といったものだった。

ディスカッションに対するこのような考え方や姿勢の違いは、前述の質問2の「一般的に授業活動としてディスカッションが好きですか」で学生が述べたコメントからも見受けられる。これは、今後、留学生と日本人学生の間でディスカッションを行う際には考えていかなければならない課題と言える。

3.4 今後のディスカッション授業の希望について

合同授業として行ったディスカッションの満足度を尋ねた後は、今後の希望を問うために、以下の質問を設けた。

質問4

<留学生への質問>

今後も授業の活動として日本人学生とディスカッションをしたいと思いますか。

<日本人学生への質問>

今後も授業の活動として留学生とディスカッションをしたいと思いますか。

はい いいえ どちらとも言えない

[理由・コメント]

以下から分かるように、「いいえ」を選んだ留学生が1人いるものの、全体的には、日本人とディスカッションをしたいと思いますという留学生、留学生とディスカッションをしたいと思いますという日本人学生が多いという結果だった。

	留学生 (12 人)	日本人学生 (10 人)
「はい」	8 人 (67%)	8 人 (80%)
「いいえ」	1 人 (8%)	0 人 (0%)
「どちらとも言えない」	3 人 (25%)	2 人 (20%)

「いいえ」を選んだ1人の留学生は、理由やコメントを述べておらず、なぜ希望しないかは不明である。この留学生は、質問3の「ディスカッションに満足しましたか」の問いには「はい」と回答しており、今回のディスカッションに満足していないわけではない。ただ、後述の質問6や質問7のコメントを見ると、「普段あまり話さないトピックでディスカッションを行ったことについてはよかった」と肯定的に捉えているが、「日本人学生は皆同じ意見だった。お互いの意見に賛成し合っているだけで、真のディスカッションではなかった」とコメントしており、こういったことが今後の日本人学生とのディスカッション授業を希望しない理由だとも考えられる。

上記の結果を質問3の「ディスカッションに満足しましたか」の結果と照らし合わせてみると、留学生に関しては、質問3で「はい」と答えた8人の学生のうち5人が質問4でも「はい」と回答している。また、質問3で「どちらとも言えない」と回答した4人の学生のうち3人が質問4では「はい」と答えている。今回のディスカッションに満足した学生が今後もディスカッション授業を希望するのは当然なことだと言えるが、質問3で「どちらとも言えない」と回答し、満足度を中立的に示していた留学生が、質問4で回答が「はい」に変わり、今後もディスカッション授業を希望すると肯定的になったのは注目するべき点だと言える。

その要因は、「日本人とディスカッションを行えば行うほど、話したり議論したりすることができるようになるので、こういった活動をもっとするのはいいと思う」、「普段は他の留学生と一緒に授業しかないので、日本人学生と話すのはおもしろい。もちろん、国際機構の談話室で日本人学生と話すけれども、授業で日本人学生と話せるのは違う」といったコメントから分かるように、ディスカッションという活動自体が日本語を話す練習になると考え、日本語学習のためにディスカッションを行いたいと考えたからだと思われる。この留学生のコメントにもあるように、通常の日本語授業や普段の生活と違う設定で日本語を話す機会を留学生に提供するの、特に短期滞在の留学生にとっては貴重な機会となるので、積極的に取り入れていくことを検討すべきである。そして、質問3で「はい」と回答した学生の1人が質問4では「どちらでもいい」と答えているが、その理由はトピックによるというものだった。質問2のコメントと同様に、留学生にとってはトピックもディスカッションを行う上で重要な要素なのかもしれない。

日本人学生に関しては、質問3で「はい」と答えた9人の学生のうち7人が、質問4でも「はい」と回答している。しかし、残りの2人は質問3では「はい」と答え、ディスカッションに満足しているのにも関わらず、質問4では「どちらとも言えない」と回答している。その理由は、ディスカッション自体に対する苦手意識によるもので、「機会があればしたいけれど、自分から進んでというのはまだ積極的にできないと思う」、「ディスカッションをすることは就職活動の際の練習にもなるため、行うに越したことはないが、苦手なものでもあり、頻繁に行いたいものではない」といった理由を述べている。ディスカッションに対して苦手意識がある学生でも、その有用性や重要性を認識している様子がコメントから分かるものが多く、特に、日本人学生が苦手意識を克服できるようなディスカッション授業の設定を考えることが必要かもしれない。質問3と質問4の両方に「はい」と回答した日本人学生の中には、「今回のディスカッションで少し自信がついた。留学生とも物怖じせずに意見を交わせるようになりたい」といったコメントを述べた学生がいた。学習に対する動機づけから考えても、多くの学生がこのように思えるディスカッション授業になることが望ましい。

3.5 今回のディスカッションを通してのトピックに関する知識の深まり

今回の合同授業の満足度、そして今後のディスカッション授業に対する希望に加え、ディスカッションを通してのトピックに関する知識の深まりを問うために、以下の質問を設けた。

質問5

今回のディスカッションを通して、トピックに関する知識が深まりましたか。

はい いいえ どちらとも言えない

[理由・コメント]

以下の結果から分かるように、この質問については、留学生と日本人学生の見解にかなりの差が見られた。

	留学生 (12人)	日本人学生 (10人)
「はい」	5人 (42%)	10人 (100%)
「いいえ」	5人 (42%)	0人 (0%)
「どちらとも言えない」	2人 (16%)	0人 (0%)

日本人学生は全員がトピックの知識が深まったと考えているのに対し、留学生はトピックの知識が深まったと感じた学生は半数以下である。オランダは世界で初めて同性婚が合法化され、世界で一番LGBTに寛容だと言われている国である。そのオランダからの留学生と、同性婚やLGBTについてディスカッションをすれば、日本人学生のほうが知識が深まったと感じるのは当然のことだと言えるかもしれない。また、質問2や質問3のコメントからもうかがえるように、留学生のほうがディスカッションに深い議論を求める傾向があることも関係しているかもしれない。

知識が深まったかどうかということについては、留学生と日本人学生の感じ方に乖離が見られるが、コメントを分析すると、留学生と日本人学生の間に共通した点もあった。それは、ビデオや資料といったものからではなく、ディスカッションを通して、実際のオランダ人の生の声、日本人の生の声を直接聞くことができたことに価値を見出している点である。質問5で「はい」と答え、知識が深まったと考える留学生は、「異なるセクシャリティに対する日本の状況を少し知ることができた。日本ではあまり身近なことではないだろうと思っていたが、それを改めて確認できた」、「日本人学生がLGBTについて少ししか知らないということが分かった」といったコメントを述べている。「どちらとも言えない」と回答した留学生のコメントにも「LGBTについて、日本人学生にどう考えているのか聞くのはおもしろかった。本やインターネットで情報を知ることはできるが、実際に日本人にどう考えているのか聞いてみることはいいと思う」と述べられていた。

日本人学生も同様に、「留学生から直にオランダのLGBTに関する現状や意見を聞くことができた」、「ビデオを通して理解を深めるだけでなく、現地の人のお話を実際に聞くことで、よりオランダの事情を知ることができた」といったコメントを述べている。また、「留学生の皆さんの共通の意見は、あのビデオの内容は自分達にとっては普通だというものだった。やはり、テレビ番組なので、少し誇張されているのではないかと感じて見えてしまっていたが、今回のディスカッションで事実を知ることができてよかった」といったコメントもあった。そして、日本人学生のコメントには、「同性愛の受け入れが進んだ社会や、その中での課題を知ったことで、日本の同性愛の受け入れに関する問題について考えられた」といったものもあり、他国の状況から自国の状況について考えることもできており、トピックに関する知識の深まりについては、日本人学生のほうが全体的に満足度の高さが見受けられた。

留学生のほうが知識のあるトピックについてのディスカッションではあったが、それをどう受け止

めるかは留学生によって異なり、個人差があることがコメントから観察できた。留学生の中には、文化によって考え方が影響されることをディスカッションで発見したことを評価する学生もおり、「こういった問題について他の人の意見を聞くのは、どんな場合でも、そのトピックの理解を深めるのに役立つ。考え方が文化に影響されることが特に新しい発見だった」といったコメントもあった。このような気づきが異文化間コミュニケーションや異文化理解において重要なことであり、多くの学生にこういった気づきが生まれるように、留学生と日本人学生とのディスカッションを促していくことを考えたい。

3.6 その他、学生のコメントから観察された点

質問1から5までは、ディスカッション経験の有無、ディスカッションに対する意識、ディスカッションの満足度、今後のディスカッション授業に対する希望、ディスカッションを通してのトピックに関する知識の深まりを、選択回答式と自由記述式を併用し答えてもらう形にしたが、質問6から質問8は自由記述式とし、以下の質問を設置し、学生に自由にコメントを書いてもらう形にした。

質問6

今回のディスカッションで、自分にとってよかったことは何ですか。新しい発見があったこと、深く考えたことなど、詳しく書いてください。

質問7

今回のディスカッションで、自分にとって難しかったことは何ですか。コミュニケーションで難しかったこと、トピックについて理解や説明が難しかったことなど、詳しく書いてください。

質問8

今回のディスカッションについて、その他コメントなど自由に書いてください。

まず、「よかったこと」や「新たな発見」について、学生のコメントをまとめると、留学生は「日本人学生の意見を聞くのはおもしろかった」と述べている学生が全体の半数以上おり、また「普段、あまり話題に挙がらないことについて話ができてよかった」のような、トピックがよかったとコメントしている学生も複数名いた。オランダ人留学生にとって、彼ら自身のコメントに「同性婚はオランダでは普通のこと」とあるように、トピック自体は珍しいものではなかったかもしれないが、普段の生活の中で、日本人との会話になかなか出てこないことについて話ができたと評価している学生が多かった。

また、日本語を学習中の留学生ということもあり、「日本人学生と話すのは、いい日本語の練習になった」といったコメントを述べている学生が数名おり、日本語学習の観点から日本人学生とのディスカッション授業を評価する面も観察された。「新たな発見」については、「ゲイの人に今まで会ったことがないという日本人学生が多かった」とコメントしている学生が数名おり、これはオランダ人留学生にとっては意外な発見だったのかもしれない。

一方、日本人学生にとっての「よかったこと」や「新たな発見」には様々なコメントが述べられていた。質問5で日本人学生全員がディスカッションを通してトピックに関する知識が深まったと回答していることから分かるように、1コマ授業で1回行ったディスカッションではあったものの、その学びは大きかったようである。特に、ディスカッションを通して再認識したこととして、「日本はオランダに比べて同性愛の認知や受容が進んでいないことを改めて感じた」といったコメントを述べている学生が全体の半数以上いた。さらに、その再認識や気づきが、自分自身のLGBTに対する考え方について深く考えるきっかけとなった学生もいたようである。

これは、ある日本人学生のコメントの一部であるが、「私は自分の周りにLGBTの友人はいません。

あるいは、気づいていないだけかもしれません。もし私が友人にカミングアウトされたら、嫌な気持ちにはなりません、これまでと気持ちの面から何も変わらずに接する自信はあまりない、というのが正直な意見です。(中略)改めてオランダ人と日本人の間には、LGBTについての認識の差が開いていることを実感しました。今後の大西准教授の専門ゼミでの活動を通して、まずは自分のLGBTに対する考え方を良い方向に改めたいです」というものがあつた。政治家のLGBTに対する差別的な発言が報道されたり、日常生活でLGBTという言葉を目にする機会が多くなってきている昨今であるが、自分の考え方について再考するといった機会は、なかなかないと思われる。留学生とのディスカッションをきっかけに、このような前向きな思考になることは非常に意義があることだと言えるのではないだろうか。

その他、同性婚の話から話題が発展し、日本人学生にとっては「新たな発見」だったこととして、性別の記入について挙げている学生が数名いた。留学生から「日本でホテルの予約や、チケットをとる際に、性別の記入を求められることは違和感がある」、「エントリーシートの中に性別記入欄がない」と聞いたといったコメントがあり、「自分が日本にいて当たり前になっていて気づかないようなこと」に理解が深まったのがよかったと感じた学生もいたようである。日本人にとっては、履歴書に性別を書くことは普通のことかもしれないが、オランダをはじめ欧州では、性別で差別をしないこと、平等であることが前提となる。こういった気づきは、異文化への理解、そして自国の文化への再認識の第一歩となるのではないだろうか。

次に「難しかったこと」についてだが、留学生のコメントを見ると、ほぼ全員が語彙力の問題を挙げていた。特に、使用語彙の問題点についてコメントしている学生が多く、自分が言いたいことを伝えるための適切な語や表現が分からず困ったといったコメントが非常に多かった。反対に、理解語彙については、知らない語があつても、日本人学生が説明してくれたので大丈夫だったと述べている学生が多かった。留学生の日本語熟達度を考慮すると、今回のディスカッションのトピックにおいて、適切な語や表現が分からないという問題は十分理解できるが、それがディスカッションを進める上で、コミュニケーション・ストラテジーを駆使することで解決できるレベルの問題なのか、または事前準備としてさらなる語彙学習が必要なのか、今後、ディスカッション授業を行う際に、調査すべき課題だと言える。

日本人学生が「難しかったこと」として挙げていることも、留学生と同様で、語彙や表現の問題をほぼ全員の学生がコメントに述べていた。日本人学生の場合は、「自分が日常的に使っている言葉が理解されず、言い換える時にどのような言葉で言い換えたらいいのか分からず、会話がスムーズに行かず留学生を困らせてしまった」といったコメントに代表されるように、日本語でどう説明すれば分かってもらえるか、語や表現の選択に苦労したというものが多かった。これに関しても、上記で述べたように、実際の日本人学生と留学生とのやり取りを分析するなどし、調査すべき課題だと言える。

質問8のコメントとして述べられていたことで、特筆すべき点としては、日本人学生の自身のコミュニケーションに対する気づきが挙げられる。「これを機にもっとゼミの人とコミュニケーションをとっていけるよう頑張ります」、「何を話そうか考えているうちに黙り込んでしまった場面もあつたので、克服できるように努めようと思います」、「今回の留学生とのディスカッションは、トピックを理解したり、私の聞く・話す能力を知る上でとても良い機会でした」といったコメントがあり、今回のディスカッションが自分のコミュニケーションの仕方について考えるいい機会となつたことがうかがえた。この経験を次のステップにつなげる工夫を考えていく必要があるだろう。

4 まとめ

本稿では、留学生と日本人学生の合同授業におけるディスカッションについて、学生に行ったアンケート結果をもとに、ディスカッションからの学びや気づき、問題点や課題をまとめた。留学生と日

本人学生の合同授業は、他大学の試みにおいても述べられているように、そこには通常の授業では得られない学びがあり、それは両者にとって異文化学習である。その中には新たな世界との出会いと同時に自己の文化への見つめ直しがあり、そしてそれが自身の価値観が再構築されるプロセス（徳井2007）へとつながる。本稿での試みは、1回のディスカッション授業からの考察にすぎないが、今回のアンケート結果をもとに、ディスカッションを通して留学生と日本人学生の間で有意義な合同授業ができるよう、さらなる実践・研究を進めて行きたい。

注

- 1) 本稿に出てくる留学生のコメントは、英語で書かれていたものは和訳し、日本語で書かれていたものは基本的にそのまま掲載しているが、間違いに応じて適宜修正をしたものもある。

参考文献

- (1) 奥山和子（2016）「『異文化理解』授業における学びについての一考察：アクティブラーニングの視点から」『神戸大学留学生センター紀要』第22号，pp.107-126.
- (2) 北出慶子（2010）「留学生と日本人学生の異文化間コミュニケーション能力育成を目指した協働学習授業の提案：異文化間コミュニケーション能力理論と実践から」『言語文化教育研究』第9号，pp.65-90.
- (3) 徳井厚子（2007）『日本語教師の「衣」再考－多文化共生への課題－』くろしお出版.
- (4) 永井涼子・南浦涼介（2014）「大学授業において留学生と日本人学生は共に何を学べるか：留学生教育と社会科教員養成をつなぐ試み」『大学教育』第11号，pp.49-66.
- (5) 安井朱美（2008）「留学生と日本人学生との合同授業の試み－コメントから見えてくるもの－」『南山大学国際教育センター紀要』第9号，pp.114-128.



年報

2017年4月～2018年3月

1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 (2017年4月～2018年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、さらに富山大学の学生を海外に送り出すことなど、センターの求められる役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。

本報では2017年4月～2018年3月において、日本語教育以外の部分に関わるセンターの主な業務について報告する。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。

相談者数は96人で、面談の件数はのべ125件であった。125件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(29件)、日本人学生に対する指導・助言(85件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(11件)であった。

海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談にのっている。また、相談における主な希望留学先は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等の英語圏諸国、フィンランド、スイス、フランス、タイ、マレーシア、韓国、台湾、中国などであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：96人

(内訳) 人文学部(38人)、人間発達科学部(15人)、経済学部(14人)、理学部(10人)、工学部(11人)、理工学教育部(6人)、医学薬学(2人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) 「日本事情」教育

「日本事情」の授業は、国際交流センターの日本語研修コースの科目として位置付けられているが、日本語研修コースは前期後期ともに不開講であったため開講されなかった。また日本語課外補講の科目としても開講されなかった。

(2) スタディ・エクスカーション

センターが主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学

生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンを実施している。2017年度は、以下の通りである。

・前期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2017年5月2日(火) 天気: 晴れ

砺波チューリップ公園

移動手段: バス

<参加者数>

外国人留学生 25人

日本人学生 10人

教職員 4人 合計: 39人



2017年5月13日(土) (富山市民俗民芸村にて)

<実施日・見学場所>

2017年5月13日(土) 天気: 小雨

富山市民俗民芸村

移動手段: 徒歩

<参加者数>

外国人留学生 10人

日本人学生 11人

教職員 4人 合計: 25人

※ 現地ボランティアの案内の方: 2名

・後期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2017年11月18日(土) 天気: 雨

富山市民俗民芸村

移動手段: 徒歩

<参加者数>

外国人留学生 2人

日本人学生 1人

教職員 2人 合計: 5人

※ 現地ボランティアの案内の方: 1名



2017年11月18日(土) (富山市民俗民芸村にて)

富山市民俗民芸村では、ボランティアの方の案内(説明)を受けることができることがあり、2017年度は2回とも案内していただくことができた。参加者数は、平日であればその時の大学の授業関係、週末等であれば他のイベントの実施などによって左右するが、2017年度の後期のスタディ・エクスカージョンのように、参加者数が少ないときは案内の方の説明を間近に聞いたり質問したりすることができ、中身の濃いものとなった。スタディ・エクスカージョン実施後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生の満足感は大変高く、この企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「他にいきたいところ」として立山などを提案する意見があった。

また、エクスカージョンでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生の交流を大切にしたい。参加人

数が多ければ、混合のグループで活動するようにした。

(3) ホームビジットとホームステイ

センターでは、日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験学習の一環として、ホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施しているが、2017年度は文科省からの大使館推薦国費留学生、教員研修生、日韓共同理工系学部留学生プログラム（日韓生）の配置がなかったため、日本語研修コースが不開講となり実施しなかった。

(4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」（後掲）が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

＜日時・参加者数＞

2017年 4月26日（水）15:30～17:30	Welcome Party	参加人数：42人
2017年 6月28日（水）15:30～17:30	Farewell Party	参加人数：49人
2017年 10月25日（水）15:30～18:00	Welcome Party	参加人数：38人
2018年 2月 9日（金）15:30～18:00	Farewell Party	参加人数：35人

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成29年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
ルンビニ園児との田植え体験	6月10日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
遠足 石川県羽咋市	6月11日（日）	富山市民国際交流協会	参加
カンボジア国研修生との交流行事	8月31日（木）	富山県カンボジア協会	参加
ルンビニ園児との稲刈り体験	10月21日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
国際フェスティバル	11月12日（日）	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2018年1月14日（日）	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成29年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案

内をセンターの談話室に掲示している。海外の大学への留学に関する情報については、談話室の書架およびセンター2階の留学情報資料室を開放し提供している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課、キャリアサポートセンター等の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。

[前期]

<実施日時・場所>

日時：2017年4月4日(火)9:30～12:00 ごろまで (部局ごとに終了)

場所：(五福) 共通教育棟D 11 番教室

(杉谷) 看護学科研究棟 11 教室

(高岡) H棟 2階 CALL 教室

<参加者>

学部生： 25 人 (五福 23 人, 高岡 2 人 (うち 6 人は非正規生))

大学院生： 41 人 (五福 28 人, 杉谷 11 人, 高岡 2 人 (うち 2 人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:00～11:45

1) 生活上の留意事項について (国際交流センター)

2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて

(総合情報基盤センター)

3) 学生なんでも相談窓口について (学生支援センター)

4) 就職支援について (学務部就職支援課)

5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について (学務部学生支援課)

6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について (国際部留学支援課)

7) その他

(学部ごと) 11:45～12:00 (杉谷キャンパスを除く) 各学部からの説明

また、2017年4月26日(水)16:30～15:30, 国際交流センター2F講義室において、来日が遅れた留学生を含む新規来日留学生(非正規生)を対象とするオリエンテーションも別途行なった。

[後期]

<実施日時・場所>

日時：2017年10月18日(水)16:30～部局ごとに終了

場所：(五福) 共通教育棟D 11 番教室

(杉谷) 看護学科研究棟 11 教室

<参加者>

学部生： 36 人 (五福 35 人, 杉谷 1 人 (うち 34 人は非正規生))

大学院生： 21 人 (五福 16 人, 杉谷 5 人 (うち 10 人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2017年4月6日(木)17:30～19:00 共通教育棟C11番教室

<参加者数>

新入留学生 12人, 協力した先輩留学生 18人

7 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

(1) 「留学のための教養講座」開講

2015年度においては、海外留学を目指している富山大学の学生を対象として、国際交流センター主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の啓蒙をはかったが、その実績を踏まえ、2016年度に続いて、2017年度も水曜日3限目に教養教育のコロキアム科目(単位は出ない)の授業として「留学のための教養講座」を開講した。講師は、国際交流センターの教員が担当した。

受講者数およびその内訳は以下の通りである。

コロキアム「留学のための教養講座」

(2017年度前期) 8名 内訳:人発(3), 経済(1), 人文(3), 工(1)

(2017年度後期) 11名 内訳:経済(7), 人文(3), 理(1)

(2) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」

2016年度に続き2017年度も前期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」(コーディネータ:人間発達科学部 橋爪和夫教授)の講義を国際交流センターの教員が担当した。

上記の2つの講義内容は2016年度のシラバスに詳しいが、両授業いずれも「日本(語)文化」と「留学」をキーワードにしたものであった。また、「国際交流活動論」においては、特に卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少ないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分が多かった。

受講者数および内訳は以下の通りである。

人間発達科学部「国際交流活動論」

(2017年度前期) 20名 全員が人発の学生であった。

学年内訳:4年生(1), 3年生(5), 2年生(14)

(2)-2 人間発達科学部「国際交流活動論」特別講義

富山大学の学生たちの国際交流への理解を深めるため、最終授業(7月25日(火))を人間発達科学部 橋爪和夫教授のコーディネートにおいて、ゲストスピーカーを招いての「特別講義」と位置づけて、以下のように開催した。開催に当たっては学内の各方面に案内を出し誰でも参加できるようにした。講義終了後、留学やアメリカの大学、特にハーバード大学について質問等も出され活発に質疑応答がなされた。

日時:7月25日(火)8:45～10:15

場所:人間発達科学部3棟4階432教室

ゲストスピーカー:Miss Tatyana V. Avilova タチアナ・アビロバさん

(2013年ハーバード大学を卒業、現在はコロンビア大学大学院博士課程に在学中。)

9 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「Partners」)の活動への助言を行った。

10 おわりに

国際交流センターは、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いている。そのことについて、まずはこの誌面を借りて感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターが発展的に解消し、2013年10月に国際交流センターと名称を変え、従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく、さらには外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生の海外への送り出しなど、その課される役割は大きく拡大した意味合いを持つように位置付けられた。さらには2018年度の次の改革も練られているようである。今後のセンターに課せられたミッションは大変重いと言えるが、それと同時に、その役割を果たすための課題も浮き彫りとなって来ている。国際交流センターは何をするように期待されており、どのようにそれを行なっていくか、出来ることはどのようなことか等を今一度整理する必要があるのではないだろうか。そして、専任教員5人という布陣は留学生センターの時からまったく変わっておらず、この人材で限られた予算等と向き合いながら、役割や業務についての全学的な認識に基づき、努力をしていくのみである。

2. 日本語プログラム報告 (2017年4月～2018年3月)

小木曾 左枝子
濱田 美和
田中 信之

国際交流センター(2018年4月に国際機構に改組)では、富山大学に在籍する外国人留学生のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、これら4つを提供している。2017年度は、前期、後期ともに日本語課外補講と総合日本語コースを開講した。日本語研修コースと日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、2017年度は学生の配置がなかったため、開講しなかった。

2017年度日本語プログラム全体の受講者数は、前期が75人、後期が78人だった。各日本語プログラムでは専任教員がコーディネーターを務め、受講登録や成績に関わる業務を行った。また、日本語プログラムの科目の大半は複数プログラムの合同授業となっているため、初級、中級、上級クラス別の窓口(専任教員が担当)を設け、クラス運営を行った。各クラス、毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組んだ。学期末にはクラス別に授業アンケートを実施し、日本語プログラム講師ミーティングにおいてアンケート結果の共有化を図り、授業改善に役立てた。新たな取り組みとしては、オランダ・ライデン大学からの交換留学生向け短期日本語研修プログラムの実施に伴い、本プログラム参加者が受講する中級クラスを中心に日本語プログラム時間割の見直しを行ったことが挙げられる。

日本語プログラム以外には、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行っている。2017年度はサーバーの運用に問題が生じ休止状態となったが、再開に向けて新たな運用方法を探り、年度末に一部コンテンツを公開した。

以下、2017年度の活動状況について、日本語課外補講、ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コース、日本語プログラム授業アンケート、日本語学習支援サイト RAICHO の順に報告する。

日本語課外補講報告 (2017年4月～2018年3月)

小木曾 左枝子

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2017度は、前期(2017年4月～9月)と後期(2017年10月～2018年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2017年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構(旧国際交流センター)が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものとの2つとあるが、本稿では、2017年度に五福キャンパスで国際交流センターが実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが21人(うち3人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが23人(うち3人は初級クラスも同時に受講)、上級クラスが34人、計75人が日本語課外補講(ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コースを含む)を受講した。75人の在籍身分別の内訳は、大学院生20人、特別聴講学生30人、研究生9人、特別研究学生10人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)5人、学部生1人である。国・地域別の内訳は、中国29人、オランダ11人、韓国6人、アルバニア、タイ、台湾、ベトナム各4人、アメリカ、インドネシア、バングラデシュ、ロシア各2人、デンマーク、ドイツ、フィンランド、ブラジル、モンゴル各1人である。また、所属別の内訳は、人文学部17人、理工学教育部15人、人間発達科学部14人、経済学研究科11人、経済学部6人、工学部、人文科学研究科各3人、医学薬学教育部、人間発達科学研究科各2人、生命融合科学教育部、理学部各1人である。

後期は、初級クラスが27人(うち1人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが15人(うち1人は初級クラス、2人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが39人(うち2人は中級クラスも同時に受講)、計78人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。78人の在籍身分別の内訳は、大学院生25人、特別聴講学生20人、研究生19人、特別研究学生7人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)7人である。国・地域別の内訳は、中国40人、台湾9人、韓国6人、インドネシア、タイ各4人、ベトナム3人、アルバニア、インド、フィリピン、ロシア各2人、ウクライナ、ブラジル、マレーシア、ミャンマー各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部16人、経済学研究科、人文学部各15人、工学部10人、経済学部9人、人間発達科学部、人文科学研究科各3人、医学薬学教育部、薬学部各2人、芸術文化学部、人間発達科学研究科、和漢医薬学総合研究所各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、ライデン大学からの交換留学生を除き、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照)。ライデン大学からの短期留学生は、ライデン大学短期日本語研修プログラム用に開講されている科目以外に、日本語課外補講中級クラスで開講されている科目をライデン大学短期日本語研修プログラムの科目として受講している(詳細は、ライデン大学短期日本語研修プログラム報告を参照)。

3 授業担当者

2017年度は、前期、後期ともに、国際交流センター専任教員5人（小木曾左枝子、副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、及び非常勤講師6人（高島智美、中河和子、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当し、専任教員の小木曾左枝子がコーディネートをを行った。

4 授業日程

前期は2017年4月10日（月）～7月27日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5月2日（火）は金曜日の授業を行った。後期は2017年10月10日（火）～2018年2月8日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、11月1日（水）は金曜日の授業を、1月9日（火）は月曜日の授業を行った。また、12月25日（月）～1月4日（木）は冬季休業、1月12日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。

オリエンテーションは、前期は4月6日（木）、後期は10月3日（火）に開催した。専任教員5人（小木曾左枝子、副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際交流センターのホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際交流センター談話室に掲示し、また、学期初めに発行される国際交流センターニュースの掲示板でも紹介した。国際交流センターのホームページでは、時間割や授業概要（日本語、英語版を用意）の閲覧、そして、受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようにした。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人と国際交流センター専任教員が面談し、受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、各クラスの担当者（初級クラスは田中信之、中級クラスは小木曾左枝子、上級クラスは濱田美和）が面談を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期、後期ともに週35コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2017年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス
月	1	文法 A1（高島）		
	2	文法 A1（高島）	聴解・会話 B1a（小木曾）	表現技術 C1（濱田）
	3		文法 B1（小木曾）	漢字 C1（濱田）
	4		漢字 B1（濱田）	
火	1	文法 A1（要門）	文法・表現 B1a（高島）	文法 C1（濱田）
	2	文法 A1（要門）	文法・表現 B1a（高島）	作文 C1（松岡）
	3	聴解・会話 A1（藤田）	聴解・会話 B1b（田中）	会話 C1（松岡）
	4			読解 C1a（藤田）
水	1	文法 A1（高島）	文法・表現 B1b（中河）	
	2	生活日本語 A1a（バハウ）	文法 A1（高島）	文法・表現 B1b（中河）
	3			聴解 C1（要門）
	4			日本文化 C1（中河）

木	1		文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	
	2	生活日本語 A1b (小木曾)	文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	
	3				
	4		漢字 A1 (小木曾)		読解 C1b (田中)
金	1		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	
	2		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2017年度後期 日本語課外補講 (五福) 時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法 A2 (高島)		
	2		文法 A2 (高島)	聴解・会話 B2a (小木曾)	表現技術 C2 (濱田)
	3			文法 B2 (小木曾)	漢字 C2 (濱田)
	4		漢字 A2 (小木曾)	漢字 B2 (濱田)	
火	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	作文 C2 (松岡)
	3		聴解・会話 A2 (藤田)	聴解・会話 B2b (小木曾)	会話 C2 (松岡)
	4			文法 B2 (小木曾)	読解 C2a (藤田)
水	1		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	2	生活日本語 A2a (バハウ)	文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	3				聴解 C2 (要門)
	4				日本文化 C2 (中河)
木	1		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (副島)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (副島)	文法 C2 (濱田)
	3				
	4				読解 C2b (田中)
金	1		文法 A2 (横堀)	文法・読解 B2b (松岡)	
	2		文法 A2 (横堀)	文法・読解 B2b (松岡)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後は「聴解・会話」、「漢字」の授業を各科目とも週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期は週2コマ、後期は週1コマ、授業を行った。

週10コマの「文法」の授業では、『みんなの日本語 初級』I, II (スリーエーネットワーク) をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』(独自開発教材)を用いた発音練習も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」(『みんなの日本語 初級』)の授業進度

第1週	1課～3課		第9週	28課～30課	
第2週	4課～6課	1課～6課試験	第10週	31課～33課	26課～32課試験
第3週	7課～12課		第11週	34課～37課	
第4週	13課～14課	7課～12課試験	第12週	37課～39課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	40課～43課	
第6週	19課～21課	13課～18課試験	第14週	44課～45課	39課～45課試験
第7週	22課～25課		第15週	47課～50課	
第8週	26課～27課	19課～25課試験			

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク)を中心に様々な教材を用いて聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book 基本漢字 500』Vol.1(凡人社)をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。また、自分に適した漢字学習ストラテジーを身につけるためのディスカッション等も行った。

「生活日本語 a」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉(スリーエーネットワーク)をメインテキストとして、1回の授業で1課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

「生活日本語 b」(前期のみ)の授業では、文字学習も行いながら、日常生活に必要な日本語を身につけることを目標とした。教科書は使わず、メニューなどの生教材や自作教材を用いたりし、入門期に必要な基本的な文型や語彙・表現を学びながら、かなを認識できるようにし、そして身近な話題で対話ができるようにすることを目指した。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「聴解・会話」の授業を週2コマ、「文法」、「漢字」の授業を各科目週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目週2日2コマ連続で各4コマ、「文法」、「聴解・会話」の授業を各科目週2コマ、「漢字」の授業を週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』(凡人社)をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』(スリーエーネットワーク)をメインテキストとして、『日本語中級 J 301』は1日(2コマ)の授業で1課進むペース、『日本語中級 J 501』は2日(4コマ)の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク)をメインテキストとして、2コマの授業で1課進むペースで、初級文型の確認をしながら、初中級レベルの文型・表現の導入及び練習を行った。また、学習項目の定着をはかるために作文や会話などの応用練習も行った。

「聴解・会話」の授業に関しては、前期は「聴解・会話 B1a」と「聴解・会話 B1b」を別の教員が担当し、内容は「聴解・会話 B1a」は会話中心、「聴解・会話 B1b」は聴解中心の授業とした。「聴解・会話 B1a」の授業では、自分自身で考えたことなどを場面に応じて適切に口頭で表現できる力を育成

するために、ディスカッション、ディベート、インタビュー・プロジェクト、プレゼンテーションを行った。「聴解・会話 B1b」の授業では、日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などを教材として使用し、聴解を中心に練習を行った。

後期の「聴解・会話 B2a」及び「聴解・会話 B2b」については、学生が自分のスケジュールに合わせ、どちらかの授業を取る形とした。授業では、中級レベルの語彙や文法を使って、自分自身で考えたことを適切に口頭で表現できる力を育成するために、ディスカッションやプレゼンテーションを行った。

「漢字」の授業では、『Intermediate Kanji Book 漢字 1000Plus』 Vol.1 (凡人社) を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業を週2コマ、「作文」、「聴解」、「会話」、「文法」、「表現技術」、「日本文化」の授業をそれぞれ週1コマ行った。上級クラスの授業は、2期連続して受講する学生のために、以前から前期と後期で扱うテーマや教材等を変えて対応しているが、授業目的や進め方等の授業概要は同じであるため、以下、まとめて報告する。

「読解」の授業は、前期は「読解 C1a」と「読解 C1b」の授業名で、後期は「読解 C2a」と「読解 C2b」の授業名で、各学期2科目ずつ設けた。「読解 C1a」は『絶対合格！日本語能力試験徹底トレーニング N1 読解』（アスク出版）を、「読解 C2a」は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。「読解 C1a」、「読解 C2b」は、現代日本社会の問題を扱った新聞記事、文学作品、教養書などの生教材を利用し、初めに論理構成を把握させ、効率的な読みの練習を心がけた。ブックレポート作成の練習も行った。

「作文」の授業では、コンピュータを使用しながら、レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版会）、『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』（アルク）等を参考書とし、練習問題等はプリント、または電子ファイルで提供した。

「聴解」の授業では、市販の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、ロールプレイ等を通して、大学生活や日常生活で出会う場面、状況での会話力を伸ばす練習を行った。また、様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する練習、意見や感想を述べる練習を行った。

「文法」の授業では、前期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N 1』（スリーエーネットワーク）、後期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング N 1』（アルク）をメインテキストとし、大学での学習、研究生生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、前期は『日本語総まとめ N1 漢字』（アスク出版）、後期は『Intermediate Kanji Book 漢字 1000Plus』 Vol.2 (凡人社) を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行っ

た。前の期から継続して受講している学生及び漢字、語彙能力の高い学生に対しては新聞記事等の生教材を使用してさらなる語彙の拡充を図った。

6 試験

初級クラス「文法」、「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験である。初級クラス「生活日本語 a」及び「生活日本語 b」では中間試験と期末試験を、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・表現」、「文法」、「聴解・会話 B1b」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法・読解」は3回の定期試験を実施した。「聴解・会話 B1a」、「聴解・会話 B2ab」では、2回の定期試験と授業中のプレゼンテーションを課した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。

上級クラスでは、「読解 C1a」、「読解 C2a」、「文法」、「表現技術」は、それぞれ期末試験を実施した。「聴解」は聴解試験を1回（後期）ないしは2回（前期）、「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施し、「作文」、「会話」、「日本文化」は期末レポートあるいは発表を課した。「読解 C1b」、「読解 C2b」については、特に試験等は課さなかった。

7 カリキュラムについてのアンケート結果

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施したが、ここでは、カリキュラムに関するアンケート結果をまとめる。授業内容に関するアンケート結果は、後述のクラス別集計結果「日本語プログラム初級アンケート」、「日本語プログラム中級アンケート」、「日本語プログラム上級アンケート」を参照していただきたい。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が複数の科目を受講している場合も、1回のみ回答する形とした。表4に前期、表5に後期の結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載している。

表4 前期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 26人)

1. 日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (23人)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションの掲示を見た (9人) ・専門の先生にきいた (2人) ・国際交流センターの先生にきいた (9人) ・事務の人にきいた (3人) ・友だちにきいた (2人) ・その他 (4人) : 日本語の先生 2人, 富山国際センター 1人, 県庁の人 1人
	オリエンテーション欠席者 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちにきいた (1人) ・その他 (2人) : マウイの先生から 2人
2. 授業科目数の希望	今のままでいい (24人) : 初級 10人, 中級 5人, 上級 9人 多くしてほしい (1人) : 中級 1人…JLPT 少なくしてほしい (1人) : 中級 1人…文法・読解	
3. 授業科目の希望	今のままでいい (24人) : 初級 9人, 中級 6人, 上級 9人 新しい科目を作ってほしい (1人) : 中級 1人 無記入 (1人) : 初級 1人	
4. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (3人) : 初級 1人, 上級 2人 専門の時間割がわからないので答えられない (18人) : 初級 8人, 中級 5人, 上級 5人 午前 1・2限 (3人) : 中級 1人, 上級 2人 午後 3・4限 (1人) : 中級 1人 その他 (1人) : 初級 1人…帰国する	

その他

- ・ CIER is very supportive to students. I am very happy. (初級)
- ・ Could you please open Japanese classes on Saturday or Sunday? (初級)
- ・ 大学で日本語能力試験のトレーニングの試験が行われたらいいと思います。 (上級)

表5 後期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 25 人)

1. 日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (19人)	・オリエンテーションの掲示を見た (5人) ・専門の先生にきいた (3人) ・国際交流センターの先生にきいた (5人) ・事務の人にきいた (4人) ・友だちにきいた (5人) ・その他 (1人) : 県庁の人 1人 ・無回答 (1人)
	オリエンテーション欠席者 (6人)	・専門の先生にきいた (3人) ・国際交流センターの先生にきいた (1人) ・その他 (2人) : 日本語の先生 1人 前学期に 1人
2. 授業科目数の希望	今のままでいい (23人) : 初級 12人, 中級 4人, 上級 7人 多くしてほしい (2人) : 初級 1人…会話, 上級 1人… (具体的な希望は無記入) 少なくしてほしい (0人)	
3. 授業科目の希望	今のままでいい (24人) : 初級 12人, 中級 4人, 上級 8人 新しい科目を作ってほしい (1人) : 初級 1人…会話	
4. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (2人) : 初級 2人 専門の時間割がわからないので答えられない (11人) : 初級 6人, 中級 1人, 上級 4人 午前 1・2限 (4人) : 初級 4人 午後 3・4限 (3人) : 初級 1人, 中級 2人 その他 (5人) : 中級 1人…卒業する, 上級 4人…卒業する 1人, 帰国する 2人, 研究に集中するため日本語の授業が受けられない 1人	

その他

- ・授業はとてもパーフェクトだと思います。意見は全くありません。(初級)
- ・先生は全員素晴らしくて、とても好きです。(初級)
- ・Overall, classes and teachers are awesome! - helped me with my learning. (初級)
- ・Everything is organized in a perfect way. (初級)
- ・Japanese class information should be directly notified to international students via email. Notice board at CIER is not enough for students who do not visit there - they will not know timetable and other information. (初級)
- ・For next semester, I have to study Japanese and research in the lab at the same time. Maybe I have some days I cannot attend Japanese classes, but I will study Japanese as much as possible. Thank you for accepting my request. (初級)
- ・日本語クラスに参加して、よかったです。将来は日本で就職したいのですが、授業を受けて、もっと自信が持てるようになりました。(上級)

カリキュラムに関するアンケート結果を見ると、日本語課外補講に関する情報は、前年度と同じ傾向で、オリエンテーションの掲示を見たり、国際交流センターの教職員から聞いたりするのが多かったようである。授業科目数や内容についても、前年度同様、「今のままでいい」という回答が多かった。最後に、授業時間帯については、昨年度より「いつでもいい」が少なく、「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。

8 おわりに

2017年度は、予算削減により非常勤講師の授業時間数を減らさなければならず、初級クラスと中級クラスにおいては、授業科目を廃止したり、統合したりし、全体の科目数を若干減らさざるを得なかった。そのような中、日本語課外補講の科目を使い、新たにライデン大学短期日本語研修プログラムが始まるなど、変化の多い1年であった。授業科目の削減や統合に関しては、その影響をしっかりと検討した上で、今後のカリキュラム改善に努めていく必要があるだろう。

ライデン大学短期日本語研修プログラム報告 (2017年4月～6月)

小木曾 左枝子

1 はじめに

ライデン大学短期日本語研修プログラムは、オランダのライデン大学からの交換留学生のために、2017年度4月に開設したプログラムである。通常、富山大学に交換留学生として来日する学生は、受け入れ学部で富山での生活に関する支援や助言を受けながら、国際機構（旧国際交流センター）で日本語課外補講若しくは総合日本語コースを受講し、日本語を学習する形となっている。ライデン大学からの留学生については、形式上は人間発達科学部の交換留学生ではあるが、生活・修学の全ての責任を国際機構が持ち、3ヶ月間の短期日本語研修プログラムを設け、受け入れを行っている。

以下、初めての受け入れとなった、2017年度ライデン大学短期日本語研修プログラムの実施状況について報告する。

2 受講者

2017年度ライデン大学短期日本語研修プログラムには12人の学生が参加した。学生の出身国は、11人がオランダ、1人がドイツだった。

3 授業担当者

2017年度は、国際交流センター専任教員5人（小木曾左枝子、副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、及び非常勤講師3人（高島智美、中河和子、松岡裕見子）が授業を担当し、専任教員の小木曾左枝子がコーディネートをを行った。

4 スケジュール

2017年度は、参加学生12人が4月6日に富山に到着し、7月4日にオランダへ帰国するというスケジュールで行った。日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コースなど、国際機構における日本語コースは、1学期15週間にわたり開講されているが、ライデン大学の学生は3ヶ月の短期滞在となるため、12週間ほどでプログラムを組み、開講している。以下は2017年度に開講したプログラムの主なスケジュールである。

2017年 4月 6日（木）	富山に到着
4月 7日（金）	オリエンテーション、学内案内、富山市内案内
4月10日（月）	開講式・授業開始
5月 2日（火）	スタディー・エクスカーション：となみチューリップフェア訪問
5月22日（月）	高岡高校生徒との交流
5月25日（木）	課外授業：八尾訪問（酒蔵見学）
6月 6日（火）	経済学部ゼミナール参加
6月22日（木）	課外授業：高岡キャンパス訪問
6月28日（水）	富山・日本・オランダの文化紹介発表会
6月30日（金）	授業終了・修了式
7月 4日（火）	オランダへ帰国

5 授業内容

授業は、月曜日から金曜日まで1日2コマから4コマで、中級クラスの科目を受講する形とした。必修科目として受講するものは、日本語課外補講、総合日本語コースとの合同クラスから「文法・表現 B1ab」,「文法・読解 B1ab」,「聴解・会話 B1a」,「聴解・会話 B1b」,「漢字 B1」の5科目、ライデン大学短期日本語研修プログラム専用科目から「プレゼンテーション B1ab」(B1a ないしは B1b のいずれかを受講),「作文 B1」,「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」の3科目とした。また、初中級レベルの文法項目の復習を希望する学生には、選択科目として「文法 B1」(日本語課外補講,総合日本語コースとの合同クラス)の受講も可能とした。そして、通常の授業の他に、学生個人の学習状況やニーズに合わせた指導、生活上の問題への対応や相談を行うことを目的に、特別指導の時間も設け、個別ないしはグループで指導を行った。以下の表1に時間割を示す。

表1 2017年度ライデン大学短期日本語研修プログラム時間割

	1限 (8:45～10:15)	2限 (10:30～12:00)	3限 (13:00～14:30)	4限 (14:45～16:15)
月曜日		聴解・会話 B1a (小木曾)	文法 B1 (小木曾)	漢字 B1 (小木曾)
火曜日	文法・表現 B1a (高島)	文法・表現 B1a (高島)	聴解・会話 B1b (田中)	特別指導 (田中・副島・ バハウ・濱田・小木曾)
水曜日	文法・表現 B1b (中河)	文法・表現 B1b (中河)	プレゼンテーション B1a (濱田)	プレゼンテーション B1b (濱田)
木曜日	文法・読解 B1a (副島)	文法・読解 B1a (副島)	ポートフォリオ B1 (小木曾)	
金曜日	文法・読解 B1b (松岡)	文法・読解 B1b (松岡)	作文 B1 (田中)	

* 網掛けはライデン大学短期日本語研修プログラム専用クラス、それ以外は日本語課外補講・総合日本語コースとの合同クラスである。

各科目の授業内容は、「文法・表現 B1ab」,「文法・読解 B1ab」,「聴解・会話 B1a」,「聴解・会話 B1b」,「漢字 B1」,「文法 B1」については、「日本語課外補講報告」の「5.3 中級クラスの授業内容」を参照していただきたい。

「プレゼンテーション B1ab」では、日本語環境のコンピュータを使い、情報収集について学びながら発表テーマを考えることから始め、スライドと発表原稿の作り方を学びながら発表準備を進め、最後に口頭発表を行った。最後の口頭発表は、プログラム終了前に開催された「富山・日本・オランダの文化紹介発表会」で、作成したスライドを使い、行われた。

「作文 B1」では、自分の考えを、根拠を挙げて筋道立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切且つ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。

「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」では、3ヶ月間の留学生活における日本語学習・日本文化学習について、自らの学びを客観的に観察し、内省を深めることを目的とした。他学部ゼミナール参加や他キャンパス訪問を通しての本学日本人学生との交流、課外授業やスタディー・エクスカージョンを通しての地域の日本人との交流、その他高校生との交流などを授業の一環に組み込み、様々な日本人との交流や文化体験を通して、日本語でのコミュニケーション、そして異文化体験について考える機会を提供した。

「特別指導 B1」は、専任教員5人(小木曾左枝子,副島健治,田中信之,バハウ・サイモン・ピーター,濱田美和)がそれぞれ2人ないしは3人の学生を担当し、学生の希望や必要に応じて、個別若しくはグループで指導を行った。

6 成績評価

ライデン大学短期日本語研修プログラムにおける成績評価は、必修科目7科目の点数をまとめ、総合成績を出す形とした。「聴解・会話 B1b」と「作文 B1」では1回の定期試験を、「文法・表現 B1ab」と「文法・読解 B1ab」では2回の定期試験を実施した。「聴解・会話 B1a」では口頭試験と授業中のプレゼンテーションを課した。「漢字 B1」は毎回の授業での確認テストと1回の定期試験を実施した。「プレゼンテーション B1」では口頭発表が課された。これらの7科目の点数から総合成績を出した。

その他の科目については、総合成績とは別に、学業成績通知書に評価を記載した。「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」については、2回のレポートを課し、評点は付さず、合格・不合格の2段階で評価し、課題を規定に従い提出した場合に合格とした。「特別指導 B1」については、評価は行わず、出席率を学業成績通知書に示す形とした。「文法 B1」を選択科目として受講した学生については、総合評価には含めず、別途、点数を学生通知書に記載した。

7 プログラムについてのアンケート結果

ライデン大学短期日本語研修プログラムの参加者に対して、授業内容及びプログラム改善のために、各授業科目について、そしてプログラム全体に関するアンケート調査を、プログラム終了時に実施した。「文法・表現 B1ab」、「文法・読解 B1ab」、「聴解・会話 B1a」、「聴解・会話 B1b」、「漢字 B1」のアンケート結果まとめは、「日本語プログラム授業アンケート 中級クラス」を参照していただきたい。

「プレゼンテーション B1」と「作文 B1」については、中級クラスと同じ質問項目を用いて実施したアンケート調査の結果を表2にまとめた。「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」については、通常の日本語授業と形式が異なるので、プログラム全体のアンケート調査に質問項目を含める形とした。プログラム全体に関するアンケートには、上記の「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」について問う質問以外に、プログラム全体、日本語の上達度、授業科目数、特別指導、授業以外で自主的に参加した活動、国際交流センターのサポート体制等について尋ねる質問項目を用意した。

以下、表2にライデン大学短期日本語研修プログラム専用クラス（「プレゼンテーション B1」、「作文 B1」）について、表3にプログラム全体についてのアンケート結果をまとめた。いずれのアンケートもライデン大学短期日本語研修プログラムに参加した12人のうち11人から得られた回答をまとめたものである。表2は、「プレゼンテーション B1」と「作文 B1」の回答者数を合わせた延べ人数で示しており、評点は5段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えている場合もある。また、表3の自由記述については、英語で書かれていたコメントについては和訳してある。

表2 ライデン大学短期日本語研修プログラム専用についてのアンケート結果（回答者22人）

質問項目（回答者延べ数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（1人） よかった（18人） ふつう（2人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータスキルについての授業は役に立つと思います。（プレゼンテーション B1） ・ いろいろなことを勉強しました。（プレゼンテーション B1） ・ このようなプレゼンテーションは皆が簡単に作れますから、そんなに時間を取る必要がないと思います。（プレゼンテーション B1） ・ Especially convenient websites and how to type things like 「」.（プレゼンテーション B1） ・ It was helpful to learn a Japanese computer.（プレゼンテーション B1）

		<ul style="list-style-type: none"> ・ The first few lessons weren't really interesting. (プレゼンテーション B1) ・ Computer skills were very useful. I just disliked the actual presentation at first. (プレゼンテーション B1) ・ 作文の文法はもうライデンで習いましたから、もっと速くしたらいいと思います。(作文 B1) ・ ちょっと速く授業をしたほうがいいと思います。(作文 B1) ・ It was very good to finally get acquainted with Japanese writing. It was very helpful.(作文 B1) ・ Writing in Japanese forces you to make use of the learned grammar and construct your own sentences.(作文 B1) ・ Writing isn't my biggest passion, but I did learn some fruitful lessons because of this course.(作文 B1) ・ It was difficult but the contents were valuable. I learnt a lot. However, I feel like I still do not fully comprehend all of them.(作文 B1)
2. 授業のレベル ちょうどよかった (6人) よかった (8人) ふつう (8人) あまりよくなかった (0人) むずかしすぎた (0人) やさしすぎた (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初はちょっと簡単でした。(プレゼンテーション B1) ・ 10分プレゼンテーションをするのはいい練習だと思います。(プレゼンテーション B1) ・ 最初の授業は簡単で、もう知っていることでした。(作文 B1)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (7人) よかった (4人) ふつう (7人) あまりよくなかった (4人) はやすぎた (0人) おそすぎた (4人) ぜんぜんよくなかった (0人) はやすぎた (0人) おそすぎた (0人)	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと速くしたほうがいいと思います。(プレゼンテーション B1) ・ プレゼンテーションの準備はもっと早くできると思います。(プレゼンテーション B1) ・ We should have started sooner with preparing for the final presentation, I think. (プレゼンテーション B1) ・ The first classes were a bit slow. (プレゼンテーション B1) ・ もっと速いほうがいいと思います。(作文 B1) ・ Sometimes the pace of gathering arguments was a little slow.(作文 B1)
4. 教科書・プリント とてもよかった (4人) よかった (14人) ふつう (3人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大勢の人の前でプレゼンテーションをするのはいい練習だと思いますが、決めたスクリプトを覚えるのはいい方法じゃないと思います。(プレゼンテーション B1) ・ Great handouts.(プレゼンテーション B1) ・ プリントがたくさんあって、面倒だった。(作文 B1) ・ プリントはちょっと不便でした。(作文 B1) ・ There were a lot, but they were useful.(作文 B1)
5. 教え方 とてもよかった (12人) よかった (9人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい。(プレゼンテーション B1) ・ 発表は大嫌いですが、先生はいつも優しく、手伝ってくれましたから、とてもよかったと思います。(プレゼンテーション B1) ・ 決めたスクリプトより学生自身の言葉でプレゼンテーションをさせるほうがいいと思います。(プレゼンテーション B1) ・ Very helpful. (プレゼンテーション B1) ・ 分かりやすい。(作文 B1) ・ The teacher was very involved. He tried to get everybody involved as well.(作文 B1) ・ Very relaxed and easy to understand, sometimes a little too relaxed -> slow.(作文 B1)
6. どのぐらい出席したか 80%～100% (21人) 60%～80% (0人) 40%～60% (0人) 20%～40% (1人) 0%～20% (0人)	-	出席率が80%以下の学生1人の欠席した理由 ・ 病気のため (1人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (17人) すこした (4人) ぜんぜんしなかった (1人)	-	

その他

・ 最初の授業で2つのグループに分けることはちょっと不便です。最後のプレゼンテーションだけ2つのグループに分

けたほうが良いと思います。(プレゼンテーション B1)

・ An amazing experience to hold a presentation in Japanese, I didn't think I could do it because of stress and lack of confidence, but this proved the opposite. Thank you! (プレゼンテーション B1)

・ I think it's better to combine the groups.(プレゼンテーション B1)

・ In the end, I think it was an extremely valuable experience and it boosted my confidence in speaking Japanese. Thank you for organizing it and for your support.(プレゼンテーション B1)

・ Personally, I don't really get the meaning of this class yet. To be honest, I got pretty good at giving presentations in Dutch/English while keeping my stress under control. Yet my habits from before returned while doing this presentation; as I said before, I understand why we had to write down a script, but for me this doesn't work at all. In conclusion, I understand what we did during class, but I don't understand why we had this class. Unlike other classes, I don't feel like I learnt something in this class. I had fun though.(プレゼンテーション B1)

・ 作文のテーマはたいていおもしろくないから、テーマのオプションが良いと思います。(作文 B1)

・ このクラスは続けるべきだと思います。(作文 B1)

・ 授業はよかったが、このクラスは必要ではないと思う。(作文 B1)

・ オランダで日本語で作文を書きませんから、この授業はあまり役に立たないかもしれません。(作文 B1)

・ Very helpful class overall.(作文 B1)

表3 ライデン大学短期日本語プログラムについてのアンケート結果(回答者11人)

質問及び回答結果	自由記述
1. プログラム全体 とても満足(5人) 満足(5人) 普通(0人) 少し不満(1人) 理由: 授業が多かったので、サークルなどに参加できなかった 不満(0人)	
2. 日本語の上達度 とても上手になったと思う(3人) 上手になったと思う(6人) 少し上手になったと思う(2人) あまり上手にならなかったと思う(0人) ぜんぜん上手にならなかったと思う(0人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本へ来てから本当に上達したと思う。 ・ 特に会話が上達したと思う。 ・ 話す力が上達したと思う。質問やコメントに答えるのが早くなった。 ・ サークルに参加できたら、もっと上達したと思う。
3. どのスキルが上達したか(2人が1つだけ回答を選ぶところ、2つ以上選んでいたため、以下は11人のうち9人の回答である。) 聞くこと(1人) 話すこと(8人) 読むこと(0人) 書くこと(0人) その他(0人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本へ来てから本当に上達したと思う。 ・ 特に会話が上達したと思う。 ・ 話す力が上達したと思う。質問やコメントに答えるのが速くなった。 ・ サークルに参加できたら、もっと上達したと思う。
4. 授業科目数 ちょうどいい(3人) もっと多いほうがいい(0人) もっと少ないほうがいい(8人) どの授業がなくてもいいか(複数回答) 文法・表現 B1ab(6人) プレゼンテーション B1(4人) 作文 B1(3人) 文法・読解 B1ab(1人) 聴解・会話 B1b(1人) ポートフォリオ B1(1人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文法・表現」と「文法・読解」は時間数を少なくしたほうが良い。 ・ 「文法・表現」は1週間に1回のほうが良いと思う。 ・ 「Jブリッジ」使うクラス(「文法・表現」)は、本当に必要がないと思う。 ・ リスニング(「聴解・会話 B1b」)は、「文法・表現」に含めることができるので、授業がなくてもいいと思う。 ・ 「プレゼンテーション」と「作文」は楽しかったが、オランダで使うスキルではないので、なくてもいい。 ・ 「プレゼンテーション」と「作文」は1つの授業にしたほうが良い。
5. 特別指導 とても役に立った(4人) 役に立った(6人) 普通(0人) あまり役に立たなかった(1人) 理由: テストに必要な文法を練習して、普通の授業の復習の時間がなかったの で、なくてもいいと思う。 ぜんぜん役に立たなかった(0人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「特別指導」は私の一番好きな授業だと思う。 ・ とても満足している。「特別指導」は完璧なクラスだと思う。オランダへ帰ったら、やはり懐かしく思う。 ・ 「特別指導」でたくさん勉強できたので、本当に一番役に立った授業だと思う。 ・ 勉強することが自分で選べるのは、とてもよかった。 ・ 「特別指導」があるのはいいことだと思うが、私の場合は、何をしたいかわからないときが多く、あまり必要性を感じなかった。「特別指導」は選択にしたほうが有益だと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別指導」について事前を知っていれば、自分で教材を持って来るなど、もう少し有効に使えた。ライデンで先生に『とびら』を持参するように言われたが、結局は「特別指導」で使わなかった。 ・「特別指導」のグループは、勉強したい内容によって分けたほうがいいと思う。『とびら』を持参する必要はなかった。 ・役に立ったが、回数を少なくしたほうがいい。
<p>6. ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習</p> <p>とても満足 (3人) 満足 (6人) 普通 (2人) 少し不満 (0人) 不満 (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役に立つ情報が得られたし、楽しかった。 ・富山についていろいろなことを勉強した。 ・役に立つ情報をたくさん得られたが、授業の時間は少し長すぎる。 ・「ホームルーム」と呼んだらいいと思う。 ・酒蔵見学や経済学部ゼミ参加は本当におもしろくて、楽しかった。でも、おもしろくない時もあった。高岡キャンパスへは、みんながオランダ人に会いたいから行かなければならない感じがあった。
<p>7. ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習で一番よかった活動</p> <p>1位 八尾訪問 (酒蔵見学) 2位 となみチューリップフェア訪問 3位 経済学部ゼミナール参加 4位 高岡キャンパス訪問 5位 高校生との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バラエティーに富んでいて、全体的にとっても楽しかった。 ・「となみチューリップフェア訪問」、「高校生との交流」、「経済学部ゼミナール参加」、「高岡キャンパス訪問」はよくて、「酒蔵見学」はまあまあだった。 ・「高岡キャンパス訪問」は訪問時期が遅かった。そこで会った学生と、時間がなくて、もう一度会うことができなかった。 ・オランダではない場所でチューリップを見るのはおもしろかった。 ・見学は本当に楽しいと思った。 ・自分はアルコール飲料が好きで、酒造りはたいてい手づくりで職人の技術が必要だったり、その文化を象徴したりする。酒蔵見学は、完璧な社会見学だった。 ・お酒が好きじゃなく、アルコールにはあまり興味がない。 ・高校生の英語学習の手伝いをできて、よかった。とてもかわいいと思った。そして、高校生の物事の見方が分かって、よかった。 ・私たちの日本語の練習にもなり、意見交換したりして、高校生と話すのはおもしろかった。 ・ゼミ参加は、トピックが興味深く、ディスカッションもよかった。ただ分かっていたことだが、本当の意味でのディスカッションではなかった。とは言え、確かに興味深い活動だった。 ・高岡キャンパス訪問は、とても楽しかったが、日本へ来てから1ヶ月目か2ヶ月目にあればよかったと思う。友達ができたのに、すぐに帰国だった。
<p>8. 授業以外で自主的に参加した活動で、よかったものは何か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルがよかった。たくさん友達できて、楽しい時間で、飲み会にも参加した。 ・ストリートダンス部に入ったことが一番楽しかったです。日本人の学生と友達になったので、日本語を話す機会がたくさんあった。 ・サークルに入れたことがとても嬉しかった。カルタ部に入って、とても楽しかった。そして、イングリッシュ・カフェもとても楽しかった。 ・サークルがとても楽しかった。ゼミもおもしろかった。立山へ行くエクスカッションもとても楽しいと思った。 ・サークルがよかったが、あまり時間がなかった。イングリッシュ・カフェなどもおもしろかった。 ・ゼミがとても楽しかった。主に日本とオランダの違いを話すだけだったが、とても興味深かった。そして、美術部に入ったが、他の部員の人たちに実際に会うことがなく、あまり楽しめなかった。 ・ゼミはあまりよくなかった。ただ、選択なら、ゼミに参加できるのはいいと思う。エクスカッションは、知らない所や、行くのが難しい所に行けるので、よかった。来年のライデンの学生には、友達を作ったり、日本語を話したりするいい機会なので、サークルに入ることを勧めたい。 ・センターのイベントが楽しかった。それ以外にも、観光など富山でできることは楽しかった。 ・ホームビジットはよかったと思う。日本の家庭が見られて、よかった。 ・日本人と話せることがよかった。 ・たくさんの日本人の友達が、いつも何か手伝ってくれたり、一緒にいたり、出かけたりしてくれた。それで、富山にいる間、一度も一人で寂しいと感じることがなかった。場所というより、人が自分の日本滞在をすばらしいものにしてくれた。どう表せばいいのか分からないほど、感謝の気持ちでいっぱい。

<p>9. 国際交流センターのサポート体制 とても満足 (9人) 満足 (2人) 普通 (0人) 少し不満 (0人) 不満 (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆、とても親切だったと思う。 ・皆、とても親切で、特に栗本さんが助けてくれた。 ・栗本さんはヒロインで、小木曾先生にもいつでも頼むことができたから、困ったことがあってもすぐに助けてもらえた。
<p>10. その他、国際交流センターの日本語研修プログラムについて気がついたことや感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった。 ・留学させてくださり、ありがとうございました。楽しかったです。 ・問題があった時に助けてくれた人全員に、本当に感謝しています。 ・みんなが本当に優しく、問題がある時、助けてくれた。オランダと全く違うので、本当に感謝したい。 ・とても満足している。一つだけ言うとしたら、滞在期間が短すぎる。オランダにいる家族に会えなくて寂しいが、富山で会った人たちのこともきっと懐かしく思うだろう。 ・授業の時間が長すぎた。

授業科目によっては、オランダで既に学習した項目を勉強することもあったようで、そういった点についての不満が評点やコメントに表れているものもある。これは、教員側は、文型や文法表現をただ知識として分かっているだけではなく、それを適切に使える運用能力を身につけてもらいたいと考え、授業を行っていたが、それがきちんと学生に伝わっていなかったか、伝えても学生にとって理解するのが難しかったからだと思われる。授業形態や授業進度が自国とは異なり、3ヶ月という短期間では、それに慣れるのも難しいかもしれないが、今後、プログラム開始時のオリエンテーションなどで、各授業の目的を学生にきちんと伝えたりして、改善を図っていきたい。

授業については、日本語課外補講や総合日本語コースの学生評価と比べると、レベルや進度に対する評価は低かったが、教え方に対する評価は高く、プログラム全体の満足度も、ほとんどの学生が「とても満足」ないしは「満足」を選んでいる。また、日本語の上達度についても、ほとんどの学生が「とても上手になったと思う」ないしは「上手になったと思う」を選んでいることを考えると、プログラム評価としては、概ねよかったと思われる。

ただ、授業時間数が多すぎると感じた学生が多く、サークルや部活などに参加することも、留学中のいい経験となっていることが学生のコメントから見受けられるので、今後、学生が課外活動に参加することも考慮に入れ、プログラムを考えていく必要があるかもしれない。

8 おわりに

2017年度から始まったライデン大学短期日本語研修プログラムは、日本語の授業といった修学面だけではなく、住居での問題や病気・怪我への対応等、生活面での支援も国際交流センターが責任を持って行ったが、大きな問題なく、初年度のプログラムを無事終了することができた。ここでは結果の掲載を省略するが、学生たちが入居したアパートについてもアンケート調査を行った。アンケート調査結果は、留学支援課と改善すべき点を検討し、次年度の受け入れに役立てたい。

また、3ヶ月という短期間の留学中に、学生たちには多くの日本人と交流し、様々な体験をしてもらいたい。「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習 B1」で行う活動も、それが目的であるが、相手側の都合等もあり、また他の授業も多数ある中、計画を立てるのがなかなか難しい。次年度は、サークルや部活など学生が自主的に参加する活動と、スタディー・エクスカージョンや課外授業など授業の一環として行う活動とのバランスを考え、学生たちが短期間の富山での滞在を有意義に過ごせるように、さらなる改善を図りたい。

総合日本語コース報告 (2016年10月～2017年9月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2016年10月に13期目の学生を迎えた。

以下、2016年度秋期(2016年10月～2017年3月)及び春期(2017年4月～9月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講者

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2016年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は2人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はフィンランドとベトナム各1人で、所属は人文学部2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2016年度は秋期と春期、各期上級9科目と中級8科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2016年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、10科目(秋期5, 春期5)が1人、9科目(秋期5, 春期4)が1人だった。

2.2 協定校からの交換留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく交換留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する交換留学生は総合日本語コースを受講している。交換留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は21人で、出身国・地域別の内訳は中国が11人、韓国が5人、台湾とロシアが各2人、ベトナムが1人、所属別の内訳は人文学部が15人、経済学部が2人、人間発達科学部と人文科学研究科と人間発達科学研究科と経済学研究科が各1人だった。春期は22人で、出身国・地域別の内訳は中国が12人、韓国が5人、台湾が3人、ベトナムとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が14人、経済学研究科が3人、経済学部と人文科学研究科が各2人、人間発達科学研究科が1人だった。

履修科目数については、秋期は5科目が2人、4科目が8人、3科目が4人、2科目が3人、1科目が4人、春期は7科目が1人、6科目が1人、5科目が6人、4科目が3人、3科目が1人、2科目が6人、1科目が4人だった。

3 担当者

秋期は専任教員3人(小木曾左枝子, 副島健治, 濱田美和), 及び, 非常勤講師7人(高畠智美, 中河和子,

永山香織，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規，横掘慶子），春期は専任教員4人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，濱田美和），及び，非常勤講師5人（高島智美，中河和子，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規）が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は，2016年10月7日（金）～2017年2月9日（木）を授業期間とした。12月22日（木）～1月4日（水）は冬季休業，1月13日（金）は大学入試センター試験準備日のため，休講とした。また，曜日調整のため，1月10日（火）は月曜日の授業を行った。

春期は，2017年4月10日（月）～7月27日（木）を授業期間とした。曜日調整のため，5月2日（火）は金曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は，秋期は2016年10月4日（火），春期は2017年4月5日（水）である。オリエンテーションでは，学生に各授業科目の目的，理解達成目標，授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載，Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し，コースの内容，各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは，履修の際の参考となるよう，秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は，授業開始後1週間以内に行い，履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは，上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが，日本語課外補講は成績評価が必要でないため，授業科目によっては必要に応じ，総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル，Bのついた授業は中級レベルである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが，上級レベルの授業については，秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように，授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2016年10月～2017年9月）

授業科目名 (開講曜日)[担当]	授業概要
秋期：読解 C2a (火4)[藤田] 春期：読解 C1a (火4)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり，文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより，大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク），春期は『日本語能力試験徹底トレーニングN1 読解』（アスク出版）を主教材として使用する。
秋期：読解 C2b (木3)[永山] 春期：読解 C1b (木4)[田中]	留学生に必要とされる専門書，論文の読解能力の育成を目指し，教養書，新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物（日本人向けに書かれたもの）を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造，文体等を把握し，それに慣れる手立てを見つける。
秋期：文法 C2 (木2)[濱田] 春期：文法 C1 (火1)[濱田]	大学での学習，研究に必要な上級の文法・表現を整理し，多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法N1』（アルク），春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。
秋期：作文 C2 (金2)[松岡] 春期：作文 C1 (火2)[松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成，表現，文法の基本を学び，学習した項目を用いてまとまった文章を書くことで，レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。

秋期：聴解 C2 (水 3) [要門] 春期：聴解 C1 (水 3) [要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (火 3) [松岡] 春期：会話 C1 (火 3) [松岡]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 3) [高島] 春期：漢字 C1 (月 3) [高島]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 C2 (月 2) [濱田] 春期：表現技術 C1 (月 2) [濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (水 4) [中河] 春期：日本文化 C1 (水 4) [中河]	留学生として日本社会を分析する試み (情報の読み取り、整理など) を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (月 1・2) [高島], b (水 1・2) [中河] 春期：文法・表現 B1a (火 1・2) [高島], b (水 1・2) [中河]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』 (凡人社) を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (火 1・2) [松岡], b (木 1・2) [副島] 春期：文法・読解 B1a (木 1・2) [副島], b (金 1・2) [松岡]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (金 1・2) [小木曾] 春期：文法 B1 (月 3) [小木曾]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：聴解 B2 (木 3) [横堀] 春期：聴解・会話 B1b (火 3) [田中]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などの聴解教材を使用する。
秋期：会話 B2 (水 3) [横堀] 春期：聴解・会話 B1a (月 2) [小木曾]	大学での学習や研究を行っていく上で必要となるプレゼンテーションなどのパブリックスピーチを重視し、中級レベルの語彙や文法を使って、自分自身で考えたことなどを場面に応じて適切に口頭で表現できる力を養成する。
秋期：漢字 B2 (月 3) [濱田] 春期：漢字 B1 (月 3) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。

*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、聴解 B2, 会話 B2, 漢字 B2, 文法 B1, 聴解・会話 B1a, 聴解・会話 B1b, 漢字 B1) あるいは 180 分 (文法・表現 B2a, 文法・表現 B2b, 文法・読解 B2a, 文法・読解 B2b, 文法 B2, 文法・表現 B1a, 文法・表現 B1b, 文法・読解 B1a, 文法・読解 B1b) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行った。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2017年7月25日（火）～28日（金）、8月1日（火）、4日（金）、調査対象：2016年度日本語・日本文化研修留学生（2人）、協定校からの交換留学生（17人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分だった。（14人） ・ 十分だった。作文があるし、会話もあるし、そして聴解と読解もあるから、十分だと思う。 ・ 十分だと思うけど、専門の授業と重なる科目があったのが残念だった。 ・ 秋期はたくさんの科目があったほうがいいが、春期は修了レポートで忙しいので、そんなに多くなくてもいい。 ・ 翻訳の授業があったらもっといいと思う。 ・ 日本の新聞とか時事問題についての授業があるといいと思う。日本の現状に触れることができるから。
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょうど良かった。（6人） ・ 私にとって大体ちょうどいいと思う。 ・ 授業によって違うが、全体的にはちょうど良かった。 ・ 日本語能力に関するレベルは大丈夫だった。実用性を高めるためにたくさん練習したほうが良いと思って受講した。 ・ ちょうど良かったから難しかったの間ぐらいで、良かったと思う。ちょっと難しいほうが良いと思う。 ・ 私にとってちょっと難しい科目があった。 ・ 私にとって上級クラスの授業はちょっと難しかった。 ・ 少し難しすぎることもあったけど、大体ちょうど良かった。 ・ 私は作文がちょっと難しかった。 ・ 漢字が難しかった。漢字の読み方はわかるけど、書くことができない。 ・ 大体良かったと思う。秋期の文法C2はそんなに難しくなかったけど、春期の文法C1は難しかった。 ・ もっと難しいレベルのことも勉強したい。 ・ 聴解はちょっと易しすぎると思った。表現技術はちょうど良かった。作文は秋期はちょうど良かった。春期にもう一度取ると、簡単だと思った。 ・ 大体ちょうど良かった。聴解と会話はときどき簡単だと思った。
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つは時間帯、もう1つは自分が勉強したいことで選んだ。 ・ 1つ目は専攻の授業と重ならないように、2つ目は自分の弱点を補充できるかどうかを考えて選んだ。 ・ まずは曜日、他の専門と同じ曜日に授業を取れば移動が少なくてすむと考えた。私の場合は、4月から総合日本語コースを取ったので、10月から取っている人に相談して、内容などを聞いて決めた。 ・ 時間割を見て、専門の授業と重ならないかを考えて選んだ。 ・ 一番は、もっと正確に話せるようになりたいと考えて選んだ。そういう授業を受けたら日本をもっと知ることができるのではないかと思った。 ・ まずはその科目を勉強したい、自分の日本語レベルを高めたいということで選んだ。修了レポートに役立つよう作文を取った。そして、時間帯も選ぶときに大切だと思う。 ・ まずは特に勉強したい科目を選んで、そのあと、時間帯で選んだ。 ・ 秋期は自分に足りないものを考えて選んだ。春期は時間帯を重視した。 ・ 秋期は自分の日本語のレベルに合わせて、春期は空いている時間の授業を選んだ。 ・ 自分の日本語のレベルをもっと上げるために絶対に必要だと思う科目を選んだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が苦手な科目を選んだ。(2人) ・苦手な点を選んだ。漢字は秋も春も選んだ。 ・自分に一番不足していると思う科目を選んだ。 ・秋期はN1テストと修了レポートのために選んだ。春期は自分が弱い点、それから時間帯も考えて選んだ。 ・秋期はN1のために、春期は自分の好みと苦手なものを選んだ。 ・私は修了レポートとN1の試験のために選んだ。 ・N1の試験にかかわる科目を選んだ。 ・国の大学の授業科目と似ていて、単位互換がしやすい科目を選択した。
<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伸びたと思う。特に聞き取りが伸びた。 ・伸びたと思う。特に聴解が伸びたと思う。 ・聞き取りと会話のレベルが高まった。作文も少しだけ伸びた。作文は難しいから。 ・伸びたと思う。聴解が一番効果があると思う。会話の能力も少し伸びた。また、修了レポートもあるから、論文の形式や書き方や使う言葉なども伸びたと思う。 ・聴解の能力はかなり伸びた。全部の授業が日本語で行われるので、どんどん慣れてわかるようになった。そして、自分の考えを伝えること、会話力が伸びた。 ・すごく伸びた。特に話す力と聴く力。日本に来る前に、文法とかいろいろ勉強したけど、話すとか聴くとかはとても苦手だった。 ・話す力と聴く力が伸びた。国でN1を3回受けたけど全部不合格だった。聴解が聞き取れなかった。この間N1を受けたとき、聴解が70%から80%わかった。 ・ちょっと伸びた。話し言葉と聞き取りが伸びた。でも、もっともっとがんばったら良かったと思う。 ・伸びたと思う。会話と読解と聴解が伸びたと思う。 ・伸びたと思う。話すこと、読むこと、聴くことが伸びたと思う。最初は辞書がないと話せなかったが、今は辞書を使わなくても話すことができるようになった。 ・伸びたと思う。以前より会話で流暢に話せる。 ・もちろん伸びたと思う。日本に来る前は日本語を使う機会がなかったので、日本語を話すのが恥ずかしかったけど、日本人の学生と話したり、今は大丈夫になった。 ・伸びたと思う。専攻の授業で論文を書きながら他の論文を読んだりして文章の表現力が伸びたし、発表もあるので話す能力も身についたと思う。 ・伸びたと思う。専門でレポートがたくさんあるので、特に作文の力が伸びた。 ・伸びたと思う。レポートを書く力が伸びたと思う。 ・自分はあまり感じてないけど、途中で国に帰ったときに国の先生に日本語がうまくなったとほめてもらった。 ・あまり伸びなかったと思うが、最初よりも少し聞き取り易くなった。ただ、留学中に漢字学習があまり進まなかったのが残念だ。 ・あまり伸びていないと思う。話すときにもうちょっと日本語らしい日本語が使えるといいと思う。 ・あまり伸びなかったと思う。国際交流会館に住んでいて、周りに同じ国の人が多すぎるから、母語で話すことが多かった。他の大学に留学した友だちは日本人学生と同じ寮に住んでいるから、日本語の力が伸びたと思う。その大学は交換留学生と同じ国の同士の部屋が近くなるようにしているから、日本人学生との交流も多くなる。私は特別研究学生で、大学院の授業に出たが、大学院生は自分と同じ国の人ばかりで、大学院の授業でも日本語を話すチャンスがあまりなかった。学部の授業にも出席したが、200人～300人の大人数の授業で、隣の人に話しかけることはなかった。
<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。本当に自分が自分ではないぐらいに日本にいる間に変わったと思う。もっとコミュニケーションがうまく取れるようになったし、積極的になって、友達も作れるようになった。いろいろなことをやってみたいと思うようになって、自分でもできるという自信がついた。本当に以前は内気で、発表するときも震えながらしていた。 ・楽しんでいる。静かな環境が好きなので、富山が好きだ。 ・国の生活とまったく違う。国の大学生生活は大体バスで、あるいは寮でみんなと住んでいる。富山に来て一人暮らしをして、自転車で学校へ行くことはのんびりして良かったと思う。 ・富山は小さい都市だから、町全体を詳しく知ることができたことがいい点だった。あとは静かなのも良かった。ただ、天気は辛かった。暑さには慣れることができない。 ・とても楽しかった。一番悩んだのは、富山は小さい町なので、最初富山に来たときは遊ぶところがあまりないし、人も少ないし、とても驚いた。最初は寂しかったけど、富山は自然はきれいなところで、いろいろなところを見て回るのにいいところだと思う。 ・楽しかった。物価とか家賃とか安くて良かったが、交通はちょっと不便だった。日本人学生の友達もできた。みんな優しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一番困ったのは車がない人はどこへ行くにもとても不便だったことだ。私は自転車に乗れないし、富山はバスも少ないし。富山に来てから、扁桃腺がずっとはれていて1週間に1回病院へ行った。富山の気候が体に合わなかったのかもしれない。この他は大丈夫だった。富山は生活費が安くて、おばさんやおじさんがとても優しい。病院までの行き方がわからなかったときも、道をたずねたら、病院まで15分一緒に歩いて連れて行ってくれた。東京ではみんな忙しそうだったが、富山では寮の近くに住んでいるおばさんやおじさんもいつもあいさつしてくれる。富山の人は親切だと思う。 ・修了レポートを書いたときは大変だったが、全体的には楽しかった。特に旅行が楽しかった。九州とか、関西とか、北海道とか。富山は良かったと思うが、寮から大学までの交通がちょっと不便だと思う。 ・とても楽しかった。実は、修了レポートは難しいことが多いけど、指導教員とチューターと友達が助けてくれたから、とっても良かったと思う。でも、難しかった。 ・充実した1年になったと思う。富山大学の授業方式が良かったと思う。専門のゼミで少人数で勉強することで実質的に勉強できるし、学生同士でコメントし合ったりする中でも勉強になった。総合日本語コースも個人的に結構弱点だと思う授業が取れてうれしかった。富山での日常生活は寮が遠くて、天気もちょっと悪い日が多くて大変だったけど、それ以外は大丈夫だった。寮自体は1人部屋だし、きれいだし、安いし、とてもいいと思う。 ・とても楽しかった。寮が1人部屋で、それが一番便利だし、ゼミのみんなといつも一緒にいて、そのグループに属している感じがとても良かった。ゼミの日本人学生とも仲良くなった。 ・いいと思う。チューターと話したおかげで自分の力が伸びた。私たちはゼミに参加したから、日本人の友達がたくさんできた。ゼミに参加しなかったら、チューターしか日本人の友達がいなかったと思う。困ったのは寮が大学まで遠いから、バスの料金も高い。自転車がなかったらとても不便だと思う。 ・日本人と一緒に授業を受けることもできるし、留学生と一緒に授業もあるし、良かったと思う。できれば短期留学生に対しての課外活動があるのもっといいと思う。たとえば、ホームステイとか異文化交流会みたいなものがあると良かったと思う。 ・富山の最初のイメージは田舎だと思う。物価はそんなに高くないことは良かった。でも、交通については私は自転車に乗れないので、ちょっと不便だと思う。 ・ちょっと気になるのは授業を選ぶとき、英語を選ぶことができないのが残念だと思う。日本人はどう英語を勉強しているか知りたかった。富山でいいことは、学部やセンターで見学旅行や活動を行っていて、とても勉強になった。続けてほしい。 ・楽しかったけど、富山の交通は不便だと思う。そして、教養教育の授業と総合日本語コースの授業はいいと思うが、専門の授業は学生が多くて、先生の話が聞き取りにくくて、おもしろくなかった。自分がもっと勉強したいと思うものが、聞き取るのが難しく勉強しにくかった。 ・国の大学と日本の大学の違いがある。国では授業を自分で選ぶことが少なく、必須科目がたくさんあるが、日本ではそんなに多く授業がなく、自分で学習する能力がもっと必要だと思う。自分に厳しい人はたぶん大丈夫だけれども、自分に厳しくない人にはあまり良くないと思う。 ・以前、他の大学で1年間短期留学をしたが、そのときのほうが楽しかった。そのときは初めての日本で新鮮感が高くて、奨学金も今より高くて、生活のストレスも少なかった。寮もスーパーも大学にとっても近くて、今考えるとすごく助かった。 ・自分1人で生活した経験がなかったから、1人で暮らすのはちょっと寂しかった。
--	--

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かった。

次に、コースのレベルについてはちょうど良かったという意見が半数程度で、科目によって難易度は異なるが、レベルが合わなかったと答えた学生からは難しかったという意見が多く聞かれた。

科目選択の際に重視した点として多かったのは、開講時間帯、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答だった。

自身の日本語能力については聞く、話す力を中心に力をつけたと感じている学生が多かった。また、専門の授業や修了レポートの作成を通して、文章を書く力の向上を挙げる学生も複数見られた。

最後に、富山での留學生活については、同じゼミの学生やチューターと良い関係が築けた学生はとても満足しているようだった。富山の良い点としては静かな環境、豊かな自然、生活費があまりかからないこと、一方、困った点としては公共交通機関が不便な点、特に大学から寮までが遠いことを挙げる学生が多かった。

8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級レベルの科目に加えて新たに中級レベルの科目の提供も始め、今回第13期はその2年目である。第13期は上級レベルの科目を受講する学生が多く、中級レベルの科目を受講した学生は秋期に3人（うち2人は上級レベルの科目を中心に受講し1科目のみ中級レベルを受講）、春期に1人と少なかった。しかし、インタビュー結果にも見られるように一部の科目については難しかったという意見も複数の学生から聞かれた。上級レベルの科目は難しすぎるが、中級レベルでは簡単すぎるという学生が以前よりも増えているように思われる。

今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、より良いコースを提供の在り方を検討していきたい。

日本語プログラム授業アンケート 初級クラス (2017 年度)

田中 信之

初級クラスは、2017 年度前期と後期にそれぞれ「文法 A」,「聴解・会話 A」,「漢字 A」,「生活日本語 A a」,「生活日本語 A b」の 5 科目を開講した。前期は 21 人（日本語課外補講 21 人）、後期は 27 人（日本語課外補講 27 人）が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について 5 段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習復習の状況について問うた。

以下、表 1 に 2017 年度前期、表 2 に 2017 年度後期の集計結果をまとめた。1 人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は 5 段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を 5 点、「よかった」を 4 点、「ふつう」を 3 点、「あまりよくなかった」を 2 点、「ぜんぜんよくなかった」を 1 点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表 1 2017 年度前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答 24 人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (15 人) よかった (7 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.6	・ 授業はちょっとはよい、かきの練習はちょっと少ない。(文法 A1) ・ せんせいの せつめいはほんとう かんたんです。(漢字 A1)
2. 授業のレベル ちょうどよかった (12 人) よかった (12 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.5	
3. 授業の進度 ちょうどよかった (12 人) よかった (9 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (1 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.6	・ I understand about Kanji more than the past and how to improve skill by myself. For example, I can guess Kanji meaning by radical. (漢字 A1) ・ Too much talking in English. (生活日本語 A1a) ・ I should have practiced more. (生活日本語 A1b)
4. 教科書・プリント とてもよかった (2 人) よかった (5 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.5	・ In my opinion, the textbook "Hakase" is not in a systematic order. It is hard to remember the vocabulary. Anyway contents are OK (when comparing to the textbook "Minna no Nihongo"). (生活日本語 A1a)
5. 教え方 とてもよかった (9 人) よかった (3 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.7	・ We can exchange our opinion each other. Thus, we are close, and can share idea and talk. (漢字 A1)

6. どのくらい出席したか 80%～100% (21人) 60%～80% (3人) 40%～60% (0人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)	-	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (8人) ・アルバイトがあったから (1人) ・病気のため (3人) ・その授業に興味がなかったから (1人) ・その他 (0人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (11人) すこした (13人) ぜんぜんしなかった (0人)	-	・ Sometimes I was busy with my research, and I was not sufficiently prepared. (漢字A1) ・ Less prepared in the beginning due to lack of knowledge regarding hiragana and katakana. (漢字A1) ・ But this depends. Sometimes I was better prepared than usual. (生活日本語A1b)

その他

- ・ しけんがおわたあとで ふくしゅうとか、 がくせいたちが まちがえた もんだいについて せつめいするじゅぎょうがあればいいとおもいます。(文法A1)
- ・ I am very satisfied with this class. This semester I couldn't attend all the classes due to my preoccupation with my study field. At the beginning, this class was attended by many students, but now just a few of them. So I think this class should be changed to an obligatory class. (文法A1)
- ・ 好きなじゅぎょうでした。(聴解・会話A1)
- ・ I really like this class. Every time I learn new things. Teacher is really kind and supportive. (聴解・会話A1)
- ・ かんじクラスがとてもおもしろいです。(漢字A1)
- ・ いままで、わたしたちに にほんごをおしえていただいてありがとうございます。(漢字A1)
- ・ Very good! (漢字A1)
- ・ I need to learn kanji not only from the textbook, but also from newspaper, shop-sign etc. (漢字A1)
- ・ As I never studied kanji before, it is very difficult for me to remember the characters. But this class and especially Ogiso sensei really helped me with the kanji characters until now. I will do my best to improve kanji and Japanese. (漢字A1)
- ・ The teacher is very nice. I hope the progress of this class will be faster to learn more Japanese. (生活日本語A1a)
- ・ The teacher is very nice. I learned a lot about Japanese for daily life. I hope the frequency of this class will be twice or three times per week. (生活日本語A1b)
- ・ Very good teacher, who was good at motivating us. She was good at understanding what we needed to learn in order to survive in Japan as newcomers. (生活日本語A1b)

表2 2017年度後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答23人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (16人) よかった (7人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.7	・ じゅぎょうないようは おもしろいです。(文法A2) ・ ことばの読み方は教えてください。(文法A2) ・ 私は復習がすきです。Because review can help me for remember the 文法 and 単語。自分が勉強するとき、つかれない。I will not be very tired. (文法A2) ・ 先生は優しいですね！(文法A2) ・ 会話をもう少し増やせば、日本語の口頭表現能力が高まる。文法を利用してロールプレイをしたい。(文法A2) ・ 嬉しくて楽しいです。(漢字A2)
2. 授業のレベル ちょうどよかった (16人) よかった (6人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.7	・ 文法はちょうど難しい。たくさんの宿題ほしいです。文法の練習ほしいです。(文法A2) ・ 先生が一番すごいですね！(文法A2)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (15人) よかった (6人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	・ 授業は速いですね。授業のとき、私は文法がわかりません。授業のとき、考える時間がありません。(文法A2) ・ たくさん試験が大変です。2日1回試験がいいよ。(文法A2) ・ 少し速いですが、大丈夫と思います。(文法A2) ・ Would be better if speaking skill is more focused, and also listening. (文法A2)

<p>4. 教科書・プリント とてもよかった (13人) よかった (9人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのほんで ことばのはつおんを きいたらいいですよ。(文法A2) ・日本の映画がみたいです。日本の文化が知りたいです。(文法A2) ・教材は生活に合っている。(文法A2) ・In my opinion I think that some technologies will help the students in Japanese language such as movie/music or cartoon. (文法A2)
<p>5. 教え方 とてもよかった (19人) よかった (4人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・先生はいい先生です。しんせつな先生ですね。(文法A2) ・ありがとうございます。(文法A2) ・I appreciate for team teaching. It' s better than one teacher. Keep this way. (文法A2) ・Time management can be improved to avoid missing of lectures/ conversation part of the lecture. (文法A2) ・However, I would like to suggest the Japanese game for studying in class. (文法A2) ・先生の教え方は面白いです。(漢字A2) ・Can be improved by providing different examples for mnemonics or memorization of Kanji. (漢字A2)
<p>6. どのぐらい出席したか 80%～100% (21人) 60%～80% (2人) 40%～60% (0人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)</p>	-	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから (6) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (1人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (2人) …I was absent one time because preparing the entrance examination. (1人) Preparing for examination. (1人)
<p>7. 予習・復習をしたか かなりした (9人) すこした (12人) ぜんぜんしなかった (2人) 7. 予習・復習をしたか かなりした (9人) すこした (12人) ぜんぜんしなかった (2人)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・まいあさ、ことばのテストはひつようです。(文法A2) ・『みんなの日本語初級』のことばのCDがありません。予習のとき、ことばの読み方はきけないです。(文法A2) ・L20から授業はちょっと難しいと思います。毎日一課、私は覚ええない…勉強のとき自信はだんだんありません。(文法A2) ・ちょっといいですよ。(文法A2) ・復習の時間を増やしてほしい。授業前半の復習も増やしてほしい。(文法A2) ・Sometimes I am busy with graduate class activities e.g. presentation, experiment, homework, so I did not submit this class' s homework. (文法A2) ・They gave us exam every beginning of the class. (文法A2) ・先生は説明を詳しくします。(漢字A2) ・Busy with my study research. (漢字A2)

その他

- ・せんせいはとてもしんせつで、やさしいです。クラスはおもしろいです。どうもありがとうございます。(文法A2)
- ・学生交流練習と発表の機会を増やしてほしい。単語の読み方を練習したい。(文法A2)
- ・先生に色々教えていただきました。本当にありがとうございます！(文法A2)
- ・授業の速さは少々速いですが、おかげで日本語が少し上手になりました。だから、この授業はそのままいと思います。(文法A2)
- ・Class should be 3 days per week, not every day. Because graduate students have to attend another coursework and research experiment. (文法A2)
- ・Over all, the class is really effective in teaching Nihongo. (文法A2)
- ・Teaching & contents of the syllabus are good. But unable to completely focus on Japanese class may be because of more contents and also we should study our major course too. May be I need more time to learn as it is a foreign language. (文法A2)
- ・とてもおもしろいです。どうもありがとうございます。(聴解・会話A1)
- ・教材がおもしろいです。よかったです。この授業をしますから、聴解がだんだんよくなりました。(聴解・会話A1)
- ・試験はちょっとすくないほうがいいです。(聴解・会話A1)
- ・The class is awesome! Although I was expecting a balanced listening-speaking skill development. It can be improved by developing more the speaking part, and if possible, 2 classes per week. But overall, the class taught me a lot. Thank you very much. (聴解・会話A1)
- ・すこしの試験のほうがいいよ。たくさん試験があって大変疲れました。でも、ほんとうにありがとうございます。お世話になりました。国へ帰ったあとで、日本語を見たら、日本語の先生を思い出します。(漢字A1)
- ・Everyone is being supportive to help each other. (漢字A1)
- ・Maybe study more than 1.5 hours, shall be 3 hours per week. (漢字A1)
- ・I learned a lot. Thank you very much. (漢字A1)

評点を見ると、前期と後期どちらも4点以上であり、概ね高い評価となっている。特に、教え方の評点が最も高く、学生から評価されていることがわかる。一方、自由記述も肯定的なコメントが多いが、中には学生からの希望や要望も見られる。今後のコース改善に向けて、この部分に注目したい。一つ目は文法Aの授業で使用している『みんなの日本語』の予習についてである。学生から音声を聴いて予習したいとの希望があった。同教科書は第2版となり、CDが付属されることになったが、「会話」と「問題」の音声のみで、「ことば（進出語彙）」が収録されていない。ことばを予習するためには、同教科書のCDセットを別途購入しなければならない。教科書本冊と翻訳・文法解説の4冊を購入する学生にとっては、この負担は小さくない。今後は、どのように予習するか方法を検討したい。二つ目は、文法Aでもっと会話練習をしたいとの要望である。文法Aでは、時間の制約で文型理解と練習が中心になりがちだが、工夫をして、これまで以上に会話練習を取り入れていきたい。また、聴解・会話Aとの関係もさらに緊密にしなければならない。

日本語プログラム授業アンケート 中級クラス (2017年度)

小木曾 左枝子

中級クラスは、2017年度前期と後期にそれぞれ「文法・表現 ab」、「文法・読解 ab」、「聴解・会話 ab」、「文法 B」、「漢字 B」の5科目を開講した。前期は23人（日本語課外補講10人、総合日本語コース1人、ライデン大学短期日本語研修プログラム12人）、後期は15人（日本語課外補講12人、総合日本語コース3人）が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について5段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習・復習の状況について尋ねた。

以下、表1に2017年度前期、表2に2017年度後期の集計結果をまとめた。1人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えている場合もある。

表1 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者 83人)

質問項目 (回答者延べ数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (23人) よかった (49人) ふつう (9人) あまりよくなかった (2人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。(聴解・会話 B1a) ・ディスカッションのテーマはおもしろかったと思います。(聴解・会話 B1a) ・特にディスカッションの練習は良かったです。(聴解・会話 B1a) ・ディスカッションのテーマを学生が選べたことはよかったと思いますが、内容がちょっとバラバラでした。(聴解・会話 B1a) ・もっと敬語を使いたいです。(聴解・会話 B1a) ・Listening and speaking are important skills but I felt reluctant to learn at first because our basic skills were not good enough. I am very glad I learned a lot.(聴解・会話 B1a) ・Discussion was fun and helped me to speak more easily. I felt the interview project was a bit too time consuming.(聴解・会話 B1a) ・A good opportunity to review and a way to learn some grammar I had not learned before.(文法 B1) ・Good review of grammar, I learnt a lot of new things during those classes as well.(文法 B1) ・A bit easy, as expected of a lower level class. But very good review and practice.(文法 B1) ・たくさん漢字を勉強しました。(漢字 B1) ・The content was what I expected from Kanji class.(漢字 B1) ・It took a while to get used to the method of teaching.(漢字 B1) ・内容は易しすぎました。そして、授業の中での説明の速さは遅すぎました。全然集中することができませんでした。(文法・表現 B1) ・時々簡単すぎたと思います。(文法・表現 B1) ・おもしろくなくて、易しすぎです。(文法・表現 B1) ・The grammar explanation by the teacher was good.(文法・表現 B1) ・I liked the intense reviewing of earlier grammar!(文法・表現 B1) ・A lot of grammar was a revision rather than a new grammar, which was a bit unfortunate but it was not a really bad thing per se.(文法・表現 B1) ・最初の授業はちょっと簡単すぎた。(聴解・会話 B1b) ・Good to learn about daily natural Japanese.(聴解・会話 B1b)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ Most of practices were good, but sometimes repeating after the teacher was tedious.(聴解・会話 B1b) ・ I really liked the scenarios that were discussed, but I think ポイント listening wasn't really useful.(聴解・会話 B1b) ・ Repeating the expressions was somewhat repetitive.(聴解・会話 B1b) ・ 文法問題は簡単でしたが、授業で時間がかかりました。スキップしたらいいと思います。(文法・読解 B1) ・ 文法の説明はよかったです、教科書の問題はあまり効果的じゃないと思いました。(文法・読解 B1) ・ Really needed to learn reading. It's almost like a different language compared to spoken Japanese. (文法・読解 B1) ・ Very helpful, sometimes a bit difficult. Also, some texts were a bit weird or boring. (文法・読解 B1)
<p>2. 授業のレベル</p> <p>ちょうどよかった (25 人)</p> <p>よかった (39 人)</p> <p>よかった・ふつうの間 (1 人)</p> <p>ふつう (11 人)</p> <p>あまりよくなかった (7 人)</p> <p>むずかしすぎた (1 人)</p> <p>やさしすぎた (6 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0 人)</p>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ ときどき難しい言葉がありましたが、授業はおもしろかったです。(聴解・会話 B1a) ・ 多分ディスカッションのトピックはちょっと難しかったけど、その他は大丈夫でした。(聴解・会話 B1a) ・ A bit easy but that was expected. (文法 B1) ・ It was not difficult but it was as I expected. (文法 B1) ・ Kanji themselves were not difficult but synonyms were quite difficult. (漢字 B1) ・ Compared to other classes, it was very difficult.(漢字 B1) ・ レベルは大丈夫でしたが、1週間にこのような量を勉強するのはちょっと大変でした。(漢字 B1) ・ 復習みたいで、ちょっと易しすぎます。(文法・表現 B1) ・ Compared to classes on Thursday and Friday (文法・読解), it was easier. (文法・表現 B1) ・ ディクテーションはよかったです。(聴解・会話 B1b) ・ 時々ディクテーションは難しかったですから、よかったと思います。(聴解・会話 B1b) ・ ディクテーションはたいてい難しいですが、いい練習です。会話はちょっと易しすぎです。(聴解・会話 B1b) ・ ちょっと易しすぎた。(聴解・会話 B1b) ・ Exercises were challenging but not impossible.(聴解・会話 B1b) ・ Differed a lot: 会話 was hard, 聴解 was easier.(聴解・会話 B1b) ・ Dictation was really hard, but the word lists were a little too easy.(聴解・会話 B1b) ・ 特に J301 は簡単でした。(文法・読解 B1) ・ J301 は易しすぎた。J501 はちょうどよかった。(文法・読解 B1) ・ 最初の授業はちょっと易しすぎました。(文法・読解 B1) ・ J301 のレベルはちょっと易しすぎたと思います。(文法・読解 B1) ・ A bit difficult at times, but good. (文法・読解 B1) ・ J301 was relatively easy. J501 was a good challenge. (文法・読解 B1) ・ Tests were really difficult and what would be on the test in terms of vocabulary wasn't explained properly. (文法・読解 B1)
<p>3. 授業の進度</p> <p>ちょうどよかった (20 人)</p> <p>よかった (33 人)</p> <p>ふつう (15 人)</p> <p>あまりよくなかった (11 人)</p> <p>はやすぎた (3 人)</p> <p>おそすぎた (7 人)</p> <p>両方にチェック (1 人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (4 人)</p> <p>はやすぎた (0 人)</p> <p>おそすぎた (4 人)</p>	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の準備は少し遅く始めてしまいました。(聴解・会話 B1a) ・ The interview project took a lot of times, and on those weeks, we didn't use class time as effective as it could be.(聴解・会話 B1a) ・ Sometimes it was a bit slow.(聴解・会話 B1a) ・ ちょっと速いですが、私はこのスピードが好きです。(漢字 B1) ・ 漢語 could be a bit too much to learn in the short time we had.(漢字 B1) ・ Maybe a bit too fast.(漢字 B1) ・ We barely had any time to review the characters or theories, so I forgot most of the words etc. we learnt already. If we had a bit more time, it might have been more beneficial.(漢字 B1) ・ もっと速くしたほうがいいと思います。速くしたら、新しい文法が勉強できるかもしれません。(文法・表現 B1) ・ One of the teachers was very slow and tedious. Until everyone did everything right, we continued practicing the same thing. The otherteacher was very good. (文法・表現 B1) ・ Sometimes very redundant, listening to the same tape. (文法・表現 B1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ Sometimes there was too much time to discuss easy grammar. (文法・表現 B1) ・ 最初の授業はちょっと遅すぎです。(聴解・会話 B1b) ・ ちょっと遅すぎた。(聴解・会話 B1b) ・ Sometimes a little slow.(聴解・会話 B1b) ・ A lot of repeating.(聴解・会話 B1b) ・ 文法問題はしないほうがいいと思います。(文法・読解 B1) ・ J301は遅すぎたけど、J501は時々速すぎた。(文法・読解 B1) ・ 最初の授業はちょっと易すぎたから、もっと授業を速くしたほうがいい。(文法・読解 B1) ・ I got a feeling a lot of time was spent only on the grammar, yet too little time was spent on building one's vocabulary, which was also needed to improve reading. (文法・読解 B1) ・ Sometimes redundant and slow, it made me hard to concentrate.(文法・読解 B1)
<p>4. 教科書・プリント とてもよかった(27人) よかった(34人) ふつう(13人) あまりよくなかった(7人) ぜんぜんよくなかった(2人)</p>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ Loose handouts can be a pain.(聴解・会話 B1a) ・ We didn't have the book so we received handouts. There were a lot but no useless material. (文法 B1) ・ I was glad I didn't have to purchase the book. (文法 B1) ・ 漢字の使い方を勉強することはいいと思います。(漢字 B1) ・ Sometimes it was difficult to grasp nuances between words, and the book is horrible at explaining them.(漢字 B1) ・ 教科書は全然よくなかったけど、プリントは普通。(文法・表現 B1) ・ 言葉の翻訳は間違っていました。(文法・表現 B1) ・ 教科書はとても古くて、練習問題があまり効果的じゃありませんでした。(文法・表現 B1) ・ 易すぎです。(文法・表現 B1) ・ The book did not explain the grammar and had a lot of mistakes.(文法・表現 B1) ・ The textbook was a bit weird and we jumped from one chapter to another. Also, there were a way too many handouts. (文法・表現 B1) ・ A lot of handouts. And J-Bridge is a horrible textbook that offers no grammar explanations, and had lots of translation mistakes. (文法・表現 B1) ・ I am sorry but I hate the book. Some of the translations were just simply wrong and the explanation in the book was まあまあ at best.(文法・表現 B1) ・ ちょっと簡単すぎます。(聴解・会話 B1b) ・ I'm glad we didn't have to buy a book, but the amount of handout we received was a lot. I did like the handouts/method we used.(聴解・会話 B1b) ・ An overview of the colloquial expressions often used would also have been nice. Apart from that, it was all right!!(聴解・会話 B1b) ・ Handouts are troublesome.(聴解・会話 B1b) ・ Too much.(聴解・会話 B1b) ・ Sometimes too many handouts.(聴解・会話 B1b) ・ J301は簡単すぎました。(文法・読解 B1) ・ J301はちょっと易すぎますから、もっと授業を速くしたほうがいいです。(文法・読解 B1) ・ Good books. (文法・読解 B1) ・ The book was really good. The explanation given was really good.(文法・読解 B1) ・ The books are great, especially the new version of J301. (文法・読解 B1) ・ Good textbooks, sometimes the texts weren't interesting or were strange. (文法・読解 B1)
<p>5. 教え方 とてもよかった(44人) よかった(32人) ふつう(7人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ すばらしかったです。(聴解・会話 B1a) ・ 先生の教え方やプロジェクトが楽しかったです。(聴解・会話 B1a) ・ 分かりやすく、いろいろなことを勉強できました。(聴解・会話 B1a) ・ Essential to the success of the course. Perfect! (聴解・会話 B1a) ・ Fun and good teacher -> Fun course. (文法 B1) ・ 漢字の書き方を教えてくれたのはいいです。(漢字 B1) ・ Very thorough.(漢字 B1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ The teaching was really good, but it was predictable whom she was going to ask a question. It was always in the same order.(漢字 B1) ・ Both teachers were really good, although they were really different from each other. I really liked that. (文法・表現 B1) ・ One of the teachers was very good, always made me to pay attention. The other teacher wasn't good, taught too slowly, which sometimes made me to doze off. (文法・表現 B1) ・ 分かりやすい。(聴解・会話 B1b) ・ 分かりやすい説明は本当にいいことです。(文法・読解 B1) ・ ことばネットワークにもっと集中したらいいと思います。ちょっと難しかったです。(文法・読解 B1) ・ Reading can be exhausting, but the liveliness of the teachers made it fun and exciting. (文法・読解 B1) ・ It was really predictable whom one of the teachers was going to ask a question. It was always in the same order. (文法・読解 B1) ・ One of the teachers was great. The other was difficult to follow and understand. (文法・読解 B1)
6. どのくらい出席したか 80%～100% (77人) 60%～80% (4人) 40%～60% (1人) 20%～40% (1人) 0%～20% (0人)	—	出席率が80%以下の学生6人の欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門の授業やゼミがあったから (4人) ・ アルバイトがあったから (0人) ・ 病気のため (0人) ・ その授業に興味がなかったから (0人) ・ その他 (1人) …漢字の宿題をするため ・ 無回答 (1人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (44人) すこしした (39人) ぜんぜんしなかった (0人)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大体忘れました。(聴解・会話 B1a) ・ It was just easy to do it directly in the class. (文法・読解 B1) ・ Some of the Kungo exercise were incredibly difficult. (文法・読解 B1)

その他

- ・ ディスカッションはとてもいい勉強の方法だと思います。(聴解・会話 B1a)
- ・ インタビュープロジェクトはもっと早く始めたほうがいいと思います。(聴解・会話 B1a)
- ・ インタビュープロジェクトはもっと早いほうがいい。(聴解・会話 B1a)
- ・ Interviews are good practice for specific skills, and I really liked the discussion part. (聴解・会話 B1a)
- ・ I felt the interview project a bit strange, but the class was good.(聴解・会話 B1a)
- ・ I would have liked to see more discussion styled classes. The interview assignment did not involve much speaking practice except for the presentation part.(聴解・会話 B1a)
- ・ Very good optional class. (文法 B1)
- ・ I think it is a good thing that this class is optional because then you only have students who want to talk/take part in. (文法 B1)
- ・ Sometimes I felt as if we “stole” the class from other students, since we were more active most of the time. (文法 B1)
- ・ I really wanted to attend more, but because of kanji, I ended up having not enough time. (文法 B1)
- ・ 授業をちょっと早い時間にしたいほうがいいと思います。(漢字 B1)
- ・ I thought I wouldn't pass the test because of the amount of learning material. But surprisingly a lot kept stuck in my brain. I thank the course for it! (漢字 B1)
- ・ Because I don't really like learning kanji, I felt this class was somewhat like a necessary evil.(漢字 B1)
- ・ 6時間は多すぎた。(文法・表現 B1)
- ・ この授業は必要じゃないと思います。(文法・表現 B1)
- ・ I felt the course was repetitive at times, but because of the teachers, it was very interesting, and I am glad and honored I could follow this course. (文法・表現 B1)
- ・ I think the biggest problem was that most grammar and words have already been taught at Leiden; the lessons went too slow for just review. I think reviewing and practicing its usage was a good thing, but the lessons went too slow so I often lost focus. That, in combination with J-Bridge, made this class not very enjoyable. (文法・表現 B1)
- ・ Very helpful to hear and practise daily conversation. (聴解・会話 B1b)
- ・ It has been a long time since we did listening practices like this at our university, so I was glad to practise like this again. Also, the different style of speaking was a good practice. (聴解・会話 B1b)
- ・ Definitely essential to learn to listen better. Sometimes this can be the hardest in Japanese. (聴解・会話 B1b)
- ・ It was good to experience the way everyday Japanese is spoken but I couldn't grasp a lot of words used or sentence ending parts because I had never learned or heard of them. (聴解・会話 B1b)
- ・ A lot of the course material, which could be felt overwhelming but it was important to learn. (文法・読解 B1)
- ・ J301 is not necessary. (文法・読解 B1)
- ・ The amount of words that appeared in a test was too much. It was impossible to learn them all, especially when they appeared on the test without using kanji. (文法・読解 B1)

表2 後期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者 21 人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（16人） よかった（3人） ふつう（2人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.7	・先生がきちんと準備していたので、いろいろ勉強になりました。（文法・表現 B2） ・教科書が古くて、残念だった。（文法・読解 B2） ・もっと練習したいです。（文法 B2） ・会話は本当におもしろかった。（聴解・会話 B2）
2. 授業のレベル ちょうどよかった（12人） よかった（7人） ふつう（2人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	・私は中国人ですが、日本語の単語や漢字を勉強する時、違うことがたくさんあって、ちょっと驚きました。この授業に参加して、本当によかったと思っています。（漢字 B2）
3. 授業の進度 ちょうどよかった（13人） よかった（6人） ふつう（1人） あまりよくなかった（1人） はやすぎた（1人） おそすぎた（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	
4. 教科書・プリント とてもよかった（10人） よかった（10人） ふつう（4人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.4	
5. 教え方 とてもよかった（19人） よかった（2人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.9	・先生の説明は分かりやすい。（聴解・会話 B2） ・ゆっくり正確に話してくれてよかった。（聴解・会話 B2）
6. どのくらい出席したか 80%～100%（13人） 60%～80%（5人） 40%～60%（1人） 20%～40%（0人） 0%～20%（2人）	-	出席率が80%以下の学生8人の欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから（6人） ・アルバイトがあったから（0人） ・病気のため（1人） ・その授業に興味がなかったから（1人） ・その他（0人）
7. 予習・復習をしたか かなりした（7人） すこしした（14人） ぜんぜんしなかった（0人）	-	・宿題として、自分が漢字をまとめていいと思います。（漢字 B2）

その他

- ・小さいクラスで多くの練習機会があって、よかったと思う。（文法・表現 B2）
- ・古い文法があって、少し難しかった。教科書だけ残念だった。（文法・読解 B2）
- ・先生、お疲れさまでした。（聴解・会話 B2）

表1の前期アンケート結果については、延べ人数の回答者83人のうち59人がライデン大学短期日本語研修プログラムの受講学生であり、また自由記述のコメントもライデン大学生が書いたものが多い。よって、これは、ライデン大学生が中級クラスの授業についてどう思ったかが強く反映されている結果とも言える。ライデン大学の学生にとっては、他の国からの留学生と一緒に授業で、使用教科書も自国で学習していたものと異なり、今まで学習してきたことを踏まえた上での授業内容ではなかつ

たので、そういったことが評価に影響している点も自由記述のコメントから見受けられる。また、日本語課外補講及び総合日本語コースの受講生にはアジアからの留学生が多く、ヨーロッパの学生とアジアの学生の授業評価に対する態度に違いがあることも推察される。以下の表3に、各質問項目の評点について、ライデン大学からの交換留学生のみの評点、日本語課外補講及び総合日本語コースの受講生のみの評点を示し、比較する。

表3 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（評点）の比較

	ライデン大学短期日本語研修プログラム (回答者 59 人)	日本語課外補講・総合日本語コース (回答者 24 人)
1. 授業内容	4.0	4.4
2. 授業のレベル	3.8	4.4
3. 授業の進度	3.4	4.3
4. 教科書・プリント	3.8	4.3
5. 教え方	4.4	4.6

上記の表3から分かるように、日本語課外補講及び総合日本語コース受講生のみ結果は、表2の後期の結果同様に、全ての項目において評点が4.0以上なのに対し、ライデン大学短期日本語研修プログラム受講生のみ結果には、評点が4.0に満たないものもある。ただ、「授業内容」、「教え方」については、ライデン大学からの留学生も高く評価しており、前年度と変わらない質の授業が提供できたと言える。難しい課題ではあるが、今後は、異なる学習環境で日本語を学んできた留学生が同じクラスで学習していく上で、どのようにすれば各授業に適応しやすくなるか考えていく必要があるだろう。

日本語プログラム授業アンケート 上級クラス (2017年度)

濱田 美和

上級クラスは、2017年度前期と後期にそれぞれ「読解C a」,「読解C b」,「文法C」,「作文C」,「聴解C」,「会話C」,「漢字C」,「表現技術C」,「日本文化C」の9科目を開講した。前期は34人(日本語課外補講11人,総合日本語コース23人),後期は39人(日本語課外補講16人,総合日本語コース23人)が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容,難易度,進度,教材,教え方について5段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由,予習復習の状況について問うた。

以下,表1に2017年度前期,表2に2017年度後期の集計結果をまとめた。1人の学生が複数の授業科目に答えているため,括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で,値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点,「よかった」を4点,「ふつう」を3点,「あまりよくなかった」を2点,「ぜんぜんよくなかった」を1点として,その平均点を出したものである。なお,自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表1 2017年度前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果(回答者100人)

質問項目(回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった(52人) よかった(43人) ふつう(4人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・後期も続けたいです。(読解C1a) ・単語をいっぱい覚えました。読解のスピードもアップした。(読解C1a) ・特に間違えた問題についてみんなと一緒に読んで分析し,とてもいいと思う。(読解C1a) ・ときどきあまりおもしろくないテーマがありました。(読解C1b) ・この半年間お世話になり,ありがとうございました。改善すべきところはないです。毎回の時間はぎりぎりですから,毎回の内容をちょっと削減したほうがいいのではないかと考えております。(読解C1b) ・この授業でグループの学生と一緒に話して互いに自分の考えを言うのはとてもいいです。いろいろなことを知って,大変勉強になりました。(読解C1b) ・今学期いつもお世話になり,誠にありがとうございました。先生の授業を通して,クラスメートと考えをよく交換して,いろいろ勉強になりました。意見を表すことを通して,意見をはっきり表す能力も上がりました。(読解C1b) ・いろいろなテーマで自分の考えをまとめてみんなに伝えるのはいいと思います。しかし,宿題がちょっと多かったと思います。今期の授業によって漢字や読解の能力がかなり向上したと思います。(読解C1b) ・文法は難しいところがたくさんあると思いました。(文法C1) ・とてもいいです。(文法C1) ・この授業は文章の諸要素の視点から毎週1つのテーマを勉強する予定でとてもよかったと思います。(作文C1) ・レポートの書き方について勉強しました。本当に実用的な内容だと思います。(作文C1) ・この授業で論文に使用できる表現を勉強したのは,本当によかったと思います。役に立ちました。(作文C1) ・講義はすごくすばらしいと思う。詳しく思ったと思う。(作文C1) ・映像の活用がおもしろかったです。(聴解C1) ・内容,難しさともにとってもよかったです。(聴解C1) ・今学期の授業を通じて,自分の聴解能力が上がりました。いつもお世話になり,誠にありがとうございました。(聴解C1) ・もう少し日本語能力試験のための練習を増やしたほうがいいと思います。(聴解C1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・番組, ドラマなどおもしろい。ビデオを通じていろいろな日本の伝統的な知識を学んだ。(聴解 C1) ・もっと多くのニュースや番組を聞いたほうが良いと思う。(聴解 C1) ・ドラマや番組を聴解してよかった。(聴解 C1) ・先生は授業の始まりにアンケートでみんなが学習したい内容を調査するので, とてもよかったと思います。(会話 C1) ・とても楽しかったです。(会話 C1) ・語彙や基本的表現を練習した上で, 1つの話題, 内容についてグループで考えて発表するのは楽しかったです。(会話 C1) ・会話についての実用的な知識が勉強になりました。(会話 C1) ・いろいろな話ができよかったと思います。(会話 C1) ・いろいろな本を使って, 漢字だけでなく表現の使い分けについても学びました。漢字の授業を受けてよかったと思います。(漢字 C1) ・中国語と日本語には同形異義語がたくさんあります。そして, 形が同じで発音は全然違う単語も多いです。これまで中国人の私にとってそれらを区別するのはとても難しかったです。漢字の授業を受けてから, ますます区別できるようになりました。とても助かります。(漢字 C1) ・敬語の表現を学ぶことはよかったと思います。(表現技術 C1) ・今学期ありがとうございます。自分で進歩したことを感じます。(表現技術 C1) ・楽しかったです。おもしろかったです。(表現技術 C1) ・とても役に立つと思います。(表現技術 C1) ・いろいろ勉強になりました。とても助かります。(表現技術 C1) ・番組と資料をもとに日本の文化をもっと詳しく知ることができた。(日本文化 C1) ・番組, テレビなどビデオを通じていろいろな日本文化の知識を学んだ。おもしろかった。(日本文化 C1) ・授業は興味深い内容だったし, 日本の文化について勉強になりました。(日本文化 C1)
2. 授業のレベル ちょうどよかった (39人) よかった (53人) ふつう (7人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと難しい。(読解 C1a) ・N1にふさわしいです。(文法 C1) ・とても楽しかったです。(作文 C1) ・とてもよかったと思います。(聴解 C1) ・試験についての内容が少し難しい。(聴解 C1) ・易しすぎた。(聴解 C1) ・とても楽しかったです。(会話 C1)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (42人) よかった (43人) ふつう (11人) あまりよくなかった (3人) ぜんぜんよくなかった (1人)	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・速かった。(文法 C1) ・教科書の質問の部分について説明のスピードがちょっと速すぎると思います。教科書に説明がないため。(文法 C1) ・速すぎた。(文法 C1) ・ちょうどよかったです。(文法 C1) ・速くなくて遅くないと思います。ちょうどよかったです。(作文 C1) ・授業の速さはよかったが, 早く終わった授業の残り時間の使い方はあまり役に立たなかったと思います。自分の論文を進めるほど集中できなく, 必要な資料も持ってなかったからです。(作文 C1) ・ちょうどよかったです。(聴解 C1) ・ちょっと遅いと思います。(聴解 C1) ・ときどき少しペースが遅いと感じました。(聴解 C1) ・遅すぎた。(聴解 C1) ・私にとって授業が速すぎる。ときどきわからないことがあったら調べる時間が足りない。(会話 C1) ・とても楽しかったです。(会話 C1) ・内容の教え方が速すぎると思います。ときどき内容がわかりません。(表現技術 C1)
4. 教科書・プリント とてもよかった (44人) よかった (51人) ふつう (5人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書はとても役立つと思います。(文法 C1) ・毎回プリントまたはパソコンのファイルで勉強することはとても良かったと思います。(作文 C1) ・先生はいつもプリントを用意して, 復習にとって便利です。(作文 C1) ・授業で渡されたプリントなどはわかりやすく, 後でも使えそうなものなので, よかったと思います。(作文 C1) ・わかりやすいと思う。(作文 C1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験の練習が1回よりもっとあったら、よりよかったと思います。(聴解 C1) ・インタビューもありますし、番組もありますし、ドラマもありますし、プリントもあります。(聴解 C1) ・ときどき何をすべきかわからないプリントがありました。(聴解 C1) ・もっと多くの日本の政治や文化に関するものを聞いたほうが良いと思う。(聴解 C1) ・プリントはよく整理されていてわかりやすいです。(会話 C1) ・とても役に立つと思います。(会話 C1) ・言葉の使い方のプリントがよかった。(漢字 C1) ・興味深い内容の授業とプリントでした。(日本文化 C1)
<p>5. 教え方 とてもよかった (54人) よかった (42人) ふつう (3人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)</p>	<p>4.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生はとてもやさしいです。(読解 C1a) ・文化の違いで理解が違うところがあるから、先生とみんなと一緒に検討して異文化の理解にもなります。とても楽しかったです。(読解 C1a) ・提出シートを討論する前、前回の授業で配って家で少し考えるほうが良いと思います。今回の授業は違う国の学生たちと一緒に討論することはよかったですと思います。(読解 C1b) ・みんなで話し合っ発表するという教え方はとてもおもしろくて良いと思います。続けてほしいです。(読解 C1b) ・授業で使われた文章はおもしろいです。しかし、ときどき文章の内容はちょっと難しいと思います。漢字を読む国の人にとってはそんなに難しくもないかもしれない。授業は主に内容の確認を中心とするが、もしよければ少し文法、単語の確認をしたほうが良いと思います。(読解 C1b) ・初めてこのような読解の授業を受けました。最初、対話がありませんでしたが、今はよかったですと感じます。(読解 C1b) ・授業のスピードは速かったですが、なんとなく勉強になっています。(文法 C1) ・とてもわかりやすいです。(文法 C1) ・完璧です。(作文 C1) ・今学期の授業でレポートの書き方についていろいろ勉強になりました。本当にありがとうございました。実用的な知識を学びました。(作文 C1) ・先生の教え方はとても素晴らしいと思うので、このままでいいと思う。(作文 C1) ・ゆっくり教えていただきました。(作文 C1) ・とてもわかりやすいと感じます。(聴解 C1) ・練習の時間が多くて良いと思います。先生との一对一の面接試験も役に立つと思います。(会話 C1) ・とてもわかりやすいです。(会話 C1) ・先生がゆっくり教えてくださってよかったですと思います。(会話 C1) ・ある単語を教えるとき、それと発音とか意味がとても似ている単語も紹介して下さったらうれしいと思います。(漢字 C1) ・ゆっくり教えていただきました。そのおかげで授業の内容は大体理解できました。(表現技術 C1) ・ありがとうございます。日本の歴史から現代日本の多様なところを見て、深く考える機会になりました。(日本文化 C1) ・少しでもわかりにくい部分があったら易しく説明してくれて勉強になりました。あと、いつもみんなで話し合うみたいな授業方法がとても良かったです。授業にも集中できるし、みんなの考えを聞けるし、日本語で意見を出すことができるし、いろんな面でよかったです。先生、ありがとうございました。(日本文化 C1)
<p>6. どのぐらい出席したか 80%～100% (85人) 60%～80% (11人) 40%～60% (2人) 20%～40% (0人) 0%～20% (1人) 無回答 (1人)</p>	<p>—</p>	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから (11人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (13人) ・その授業に興味なかったから (0人) ・その他 (4人): 研究があるから/旅行/パスポートの更新のため/用事があったから

<p>7. 予習・復習をしたか かなりした (37人) すこした (59人) ぜんぜんしなかった (2人) 無回答 (2人)</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいから。(読解 C1a) ・宿題の量が非常に多いと感じました。特に修了レポートで忙しくなったときは大変でした。(読解 C1b) ・ちょっとゆっくり考えられる時間が少ない。(文法 C1) ・ちゃんと復習していたから学習に役立つと思います。(文法 C1) ・この授業の内容は修了レポートの作成に非常に役立つと思います。(作文 C1) ・授業に集中することだけで十分でした。効率的な授業だと思います。(聴解 C1) ・毎回の感想を書くとき、とても勉強になると感じます。(聴解 C1) ・予習があまりなかった。(会話 C1) ・予習や復習をしたら気持ちがいい。(会話 C1)
--	----------	--

表2 2017年度後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果(回答者77人)

質問項目(回答者数)	評点	自由記述
<p>1. 授業内容 とてもよかった (36人) よかった (40人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	<p>4.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・N1試験向け、とてもよかったです。(読解 C2a) ・N1の読解内容で、自分にとって難しい内容がわかった。今後、特にその辺の内容に集中して練習すると思います。(読解 C2a) ・教科書が良かった。(読解 C2a) ・少しずつ私の読解の力が伸びていると思います。(読解 C2a) ・テキストのテーマがいろいろあって、筆者の考え方も意外なものだった。(読解 C2b) ・ときどきおもしろくない文章がある。ちょっと抽象的な内容。理解できない。(読解 C2b) ・この授業ではグループで学習するスキルを学んだり、自分の意見や考えを自由に述べたりしたので、おもしろくて、日本語能力も高められた。宿題が多いですが、友達と先生と一緒に自由に話せたので、つまらなさを全然感じたことがない。(読解 C2b) ・前もって文章を読んで、授業でグループで話し合っ、とてもいいと思います。(読解 C2b) ・どのユニットのテーマも興味深いです。国々のクラスメートたちと話し合ったり、意見をまとめたり、発表したりすることによって、日本語の能力だけでなく、対話力、意見を述べる能力も身につきました。(読解 C2b) ・授業の方法はよかったです。毎回授業の時間がぎりぎりなのはちょっと残念です。(読解 C2b) ・授業の中で学んだ文法は能力試験にとっても役に立つと思います。(文法 C2) ・授業内容がわかりやすく、とても役に立った。(作文 C2) ・言葉、文法、レポートの構成など詳しくわかりやすく説明があった。(作文 C2) ・作文の授業では先生にレポートの書き方を説明してもらって、レポートを書けるようになった。そして、文法も練習したので、日本語のレベルもさらによくなった。(作文 C2) ・自分の論文に非常に役立つと思います。(作文 C2) ・内容がおもしろくて勉強になった。(作文 C2) ・勉強しながら新しい情報を得ることができました。(聴解 C2) ・授業中におもしろい映像が見られてよかったです。(聴解 C2) ・いろいろな日本文化を勉強した。よかったと思います。(聴解 C2) ・ビデオやテレビ番組の内容はとてもおもしろいです。日本語の知識だけでなく、他の分野の知識にも興味を持つようになって、勉強になりました。(聴解 C2) ・ときどきDVDを見ながら聞き取ることが好きです。(聴解 C2) ・授業でみんなが交流したり、自分の意見をしゃべったりしてよかった。(会話 C2) ・留学生活に役立ったと思います。(漢字 C2) ・授業で各場面で使われる敬語を練習できます。これが一番よかったと思います。(表現技術 C2) ・日本の歴史、社会に関する知識などいろいろ勉強になりました。(日本文化 C2)

		<ul style="list-style-type: none"> ・内容は母国であまり考えたことがありませんでした。自分にそのことについての知識があまりないので、ちょっと難しいと思います。(日本文化 C2) ・最初は日本の文化を勉強していますが、ちょっと日本文化ではないかなと思いました。でも、授業は本当におもしろかったと思います。(日本文化 C2) ・内容が少し難しかったけど、様々なことを学ぶことができてよかった。(日本文化 C2) ・日本文化といっても社会問題や歴史などもあって、とても勉強になりました。(日本文化 C2) ・「失われた日本」, 「日本の教育問題」などの内容を勉強して、映像とともに印象深いと思います。(日本文化 C2)
<p>2. 授業のレベル ちょうどよかった (39人) よかった (32人) ふつう (5人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字のいい勉強になった。(読解 C2a) ・最初のテキストは易しかったが、だんだん難しくなった。(読解 C2b) ・いい勉強になりました。難しい単語を習いました。(読解 C2b) ・文章の内容はわかるけど、ときどき筆者の話したいことがとても深いので、わかりにくい。(読解 C2b) ・テキストの中で複雑な表現や知らない単語がときどき出てきたが、全体から見ると、そんなに難しくありません。1回目は意味がわからない部分がありますが、繰り返して読むと、だいたい理解することができます。(読解 C2b) ・もう半年ここに住んで勉強したいです。(読解 C2b) ・理解しやすい文章と理解しにくいのがあります。予習のとき、理解できないところはみんなの意見を聞いて理解できるようになった。(読解 C2b) ・N1のレベルなんですけど、そんなに難しくありません。いろいろ勉強になりました。(文法 C2) ・授業の内容はそんなに難しくありません。1回目は聞き取れなかった部分もありますが、意味はだいたいわかります。2回目のとき、ほとんどの問題を解決することができます。(聴解 C2) ・自分の日本語がそんなに上手ではないので、ときどきDVDやテープの内容がわかりませんでした。(聴解 C2) ・理解しやすいです。(会話 C2) ・ときどき難しい漢字の読み方があります。いい勉強になりました。(漢字 C2) ・最初はちょっと易しかったが、だんだん難しくなって、いろいろ勉強できた。(漢字 C2) ・学生生活と近いです。よかった。(表現技術 C2) ・授業の内容はそんなに難しくありません。ビデオを見たとき、1回目は聞き取れなかった部分がありますが、2回目のとき意味がだいたいわかります。(日本文化 C2) ・みんながテーマについて自由に話し合っていて、本当によかったと思います。ときどき番組を見て、全部は理解できないけど、だいたいわかりました。(日本文化 C2) ・ときどき難しい単語があります。ちょっと理解できない。(日本文化 C2)
<p>3. 授業の進度 ちょうどよかった (43人) よかった (24人) ふつう (9人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと速すぎた気がする。(読解 C2a) ・最初はちょっと大変ですが、今だんだん慣れてきました。(読解 C2a) ・グループで話し合う時間を多くもらって、ゆっくり相談できた。(読解 C2b) ・読み物がいろいろと考えさせて、とてもよかったと思いますが、対話の時間が長すぎたと思います。宿題が増えるかもしれないが、「次回のために」と「提出シート②」の1番以外はかなり時間がかかるから、事前に対話してきたほうがいい。(読解 C2b) ・授業の速さはちょうどよかったと思います。確認時間も話し合う時間も十分で、シートの中の問題をだいたい解決することができます。感想をまとめる時間はちょっと足りなかったです。(読解 C2b) ・他の学部の授業が少なかつたらいいと思う。速さはちょうどよかった。(読解 C2b) ・いろいろな考え方がありますので、毎回の時間はぎりぎりですけど、自分の考えをはっきり言えます。とてもよかったです。(読解 C2b) ・授業の速さはちょうどよかったと思います。確認時間も考える時間も十分だと思います。(文法 C2)

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の速さはちょうどよかったと思います。録音もテレビ番組も2回ぐらい繰り返して聞いたり、だいたい理解できます。また、字幕がある番組は速くても、ない場合より聞き取りやすかったです。(聴解 C2) ・聴解の授業は少し遅いので、もうちょっと速いといいと思います。(聴解 C2) ・授業の速さはちょうどよかったと思います。話し合う時間も考える時間も十分です。(日本文化 C2) ・速さはいいと思います。(日本文化 C2)
<p>4. 教科書・プリント とてもよかった (51人) よかった (24人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のテキストは作文とかに役に立つと思う。(読解 C2b) ・教科書は古いですが、現代と以前の文章と共に読めばいいと思います。プリントの問題がときどきわかりません。何を答えればいいのかわかりません。(読解 C2b) ・みんな一緒にプリントを読んで、分析して、もっとわかるようになりました。(読解 C2b) ・授業で読んだ文章はとてもおもしろいです。文章で指摘された争点に対して、みんなそれぞれの意見や見方があります。そして、話し合ってから、また新しいアイデアを生み出すことができます。わかりやすいとは言えないですが、とても興味深いです。(読解 C2b) ・教科書はとてもいいと思う。留学生との関係が強いので、いろいろ勉強になった。(読解 C2b) ・適当。(読解 C2b) ・いい文章を読んでよかったです。新しい文章を追加できたらしたほうがいいと思います。(読解 C2b) ・教科書の難しさもちょうどいいし、内容もとてもよかったと思います。(文法 C2) ・ユニットの文法を習う前に力試しテストをすることの意味がよくわかりませんでした。(文法 C2) ・発音を聞く練習かもできたし、本当の番組も聞かせてもらえました。いろいろな勉強ができました。(聴解 C2) ・先生が用意したプリントはとてもよかったです。字の大きさは見やすいし、メモのところに空けて、とても便利です。発音の原文も配布して、復習に役に立ったと思います。(聴解 C2) ・授業で聞いた内容を後でプリントで配るのがいいと思います。(聴解 C2) ・レベルが上がっていくのでよかったです。(会話 C2) ・教科書の内容はちょっとつまらないです。日常生活でよく使う漢字(単語)を知りたいです。(漢字 C2) ・授業で使用したプリントと見せてもらったビデオはとても興味深いです。(日本文化 C2) ・教材がないと困ります。(日本文化 C2) ・とても勉強になると思います。(日本文化 C2)
<p>5. 教え方 とてもよかった (54人) よかった (23人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	<p>4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で話し合いながら、問題を解くのはよいと思う。自分、他人が理解し間違っているところが分かり、日本語の文章の理解に役立つと思う。(読解 C2a) ・読解以外に言葉・漢字も多く身につけることができるような授業でした。(読解 C2a) ・先生の教え方はおもしろいと思う。普通の教え方と違う。学生に自由に意見を述べさせた。(読解 C2b) ・先生可愛いです。授業でちゃんと自分の意見を話せてうれしいです。ありがとうございました！(読解 C2b) ・先生はとてもやさしくてユーモアがあります。先生の話す速さはちょうどいいので、聞き取りやすかったです。ときどき自分の経験を私たちとシェアして、とてもおもしろくて、私たちに新しいアイデアを生み出させることができます。(読解 C2b) ・もっと先生と交流できたほうがいいと思う。先生が好きで、先生ともっと話したいけど、時間がない。残念。(読解 C2b) ・先生はカッコいい！やさしい！(読解 C2b) ・みんなが異議があるところと理解できないところを先生が解説してくれて、筆者の考えを理解できるようになって、とてもよかったです。(読解 C2b) ・先生はとてもやさしいです。いろいろお世話になりました。(作文 C2)

		<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや論文の書き方をいろいろ教えてくださって、本当にありがとうございました！（作文 C2） ・説明の後、練習問題を解いて、最後は実践、自分のレポートを書くという順はとてもよかったと思う。（作文 C2） ・先生はとてもやさしいです。録音に出てきた難しい表現を詳しく説明していただくだけでなく、聞いた内容を話題として、みんなと一緒に話し合うことによって、この問題に対するそれぞれの意見や国々の人の考えがわかります。とてもいい勉強だと思います。（聴解 C2） ・この授業はとてもいいと思います。自分の聞き取る能力を高めると同時に日本の文化も勉強しました。でも、ときどき内容がわかりません。聞いた内容をプリントで配った後、学生たちが確認した後、もう一度聞いたほうがいいのかと思います。（聴解 C2） ・先生はみんなの発表を聞いてまちがったところを直して、勉強になります。（会話 C2） ・言葉の説明が詳しいです。（漢字 C2） ・説明がわかりやすかったです。（漢字 C2） ・先生はとてもやさしくて熱心です。興味深いプリントを用意していただいて、日本社会の問題に関する知識をわかりやすく教えてくださいました。（日本文化 C2） ・グループで話し合うのが好きです。（日本文化 C2） ・クラスメートと相談しながら、自分の意見を発表する形式はよかったと思います。（日本文化 C2）
<p>6. どのぐらい出席したか 80%～100% (68人) 60%～80% (8人) 40%～60% (1人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)</p>	-	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから (3人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (6人) ・その授業に興味なかったから (0人) ・その他 (0人)
<p>7. 予習・復習をしたか かなりした (35人) すこした (41人) ぜんぜんしなかった (1人)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・全部の漢字や言葉などをぎりぎり暗記できた。時間が足りなかったところがある。（読解 C2a） ・毎週予習シートがあるので、授業の前にした。（読解 C2b） ・予習は時間が結構かかるんです。（読解 C2b） ・授業でグループで話し合うために、予習したほうがいいのかと思います。（読解 C2b） ・授業の前に文章を読んで、「予習のために」を書くことによって文章の内容はだいたい理解できます。文章から出てきた単語や表現なども授業の後でちゃんと復習しました。（読解 C2b） ・授業がおもしろい。（読解 C2b） ・この授業の宿題はちょっと多いですけど、しっかり予習して、次の授業でみんなと討論した。よかったです。（読解 C2b） ・文を作るなどの宿題によって先週の文法をちゃんと復習することができます。（文法 C2） ・文章の表現はものすごくよくなった。（作文 C2） ・録音やビデオに出てきた単語や表現など、授業の後でちゃんと復習しました。日本語の勉強に役に立ったと思います。（聴解 C2） ・予習する必要はないです。でも、先生が配った授業での聞き取る材料がとてもいいと思う。聞いたときわからなかったところを確認して勉強になりました。（聴解 C2） ・予習のためにいろいろ調べて、日本語能力が向上しました。（会話 C2） ・敬語はちょっと難しいと思います。テキストを勉強したら、よく役に立ちます。（表現技術 C2） ・プリントやビデオに出てきた単語や表現、専門用語など、授業の後でちゃんと復習しました。日本文化の理解に役に立ったと思います。（日本文化 C2） ・授業で話し合ったことがとても深く、難しいと思います。予習や復習をしなければなりません。（日本文化 C2） ・毎週1時間ぐらい復習している。（日本文化 C2） ・1つのテーマをめぐってインターネットで資料を探すことをよくしました。（日本文化 C2）

その他

- ・この授業の中でグループでの働き方を学んだ。宿題がたくさんあるが、そのおかげでテキストがもっと理解できた。

- しかし、一番難しいのは筆者と違う意見を述べることで、テキストへの感想だと思う。(読解 C2b)
- ・グループで討論することはいいと思いますが、予習のための答えは正しいかどうかわかりません。ときどき皆の答えが違いますから。そのとき、頭が混乱していました。先生の経験話はおもしろかったです。クラスメートと意見を交換して、発表して、これはいい経験でした。先生、ありがとうございました。(読解 C2b)
 - ・毎週宿題があるので、ちょっと大変と思います。でも、授業でグループで意見を交換するとき、その宿題が必要だと思います。グループで話し合うことがおもしろくて、勉強になりました。そして、先生が文章を配るとき、その提出シートも配ったほうがいいと思います。確かに配ったら授業で読むことになりましたが、配らないと授業ですごく時間がかかります。(読解 C2b)
 - ・先週配った文章を今週読むときに内容を忘れてしまった場合もあります。新しい文章に入る前にもう少し時間をもらいたいです。(読解 C2b)
 - ・この授業を受けてよかったです。宿題はちょっと多いが、自分の日本語能力の向上に役に立つ。古い文章を読むときは、その時代の日本人の考え方や社会を調べたら、その文章を理解しやすいと思います。(読解 C2b)
 - ・ありがとうございました！(作文 C2)
 - ・論文の流れは既にわかっていたが、日本語の表現のほうはまだ身につけていないから、この授業を受けた。そして、その効果は想像以上で自分の論文や報告に非常に役立つと思う。本当にありがとうございました。(作文 C2)
 - ・日本語の勉強に役に立ちました。よかったです。(会話 C2)
 - ・この半年で前より読める漢字が増えました。うれしかったです。この授業を取っているのはよかったです。ありがとうございました。(漢字 C2)
 - ・この授業では漢字について多くのことを学んだ。よく漢字を練習するチャンスがあるので、漢字のレベルがよくなった。先生と友達と一緒に自由に話せてうれしかった。(漢字 C2)
 - ・最初想像した日本文化とちょっと違いました。日本の祭りとか茶道とか知りたいです。この授業は日本の社会問題についていろいろな知識を勉強しました。いい勉強になりました。(日本文化 C2)

前期、後期ともにいずれの項目も4点以上となっており、概ね良い評価を得ていると言ってよいだろう。数は少なかったが、今後のコース改善に向けての検討材料とするために、「よくなかった」(「あまりよくなかった」と「ぜんぜんよくなかった」)という回答を詳しく見ておきたい。前期については授業の進捗で4人、授業内容、授業のレベルで各1人、後期については授業の進捗で1人が「よくなかった」と回答している。授業の進捗で「よくなかった」と回答した5人のうち3人は「速すぎた」ことを、2人は「遅すぎた」ことを理由に挙げていた。そして、授業の進捗が「遅すぎた」として「よくなかった」を選んだ1人が、授業の内容と授業のレベルについても「易しすぎた」として「よくなかった」を選んでいく。上級クラスの受講者はここ数年増加傾向にあるが、これに伴い、受講者間の日本語の習熟度の開きへの対応が課題となっている。今後も継続的に授業アンケートを実施して学生のニーズの把握に努めながら、より良いクラス運営のありかたを探っていきたい。

日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2017年4月～2018年3月)

濱田 美和

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」, <http://www3.u-toyama.ac.jp/raicho/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際交流センター(2018年4月に国際機構に改組)が運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。本稿では、RAICHO サイトの2017年度の整備状況について報告し、今後の課題を述べる。

2 2017年度 RAICHO サイト整備状況

RAICHO サイトは2013年12月より外部サーバでの運用を始めたが、本学総合情報基盤センターより利用していた会社についてセキュリティ面での不安要素が見られるとの連絡を受け、2016年度末に一旦 RAICHO サイトの運用を停止することにした。他会社のサーバ利用も検討したが、データをそのまま移行するのは難しく、プログラムを一から組み直す必要があるという結果であった。プログラムの再構築には多額の経費が必要となる。RAICHO サイトの外部サーバでの運用は、セキュリティ面、予算面から非常に厳しいことがわかった。

そこで、学内の外部公開用サーバの利用を試みることにした。外部公開用サーバでは MySQL (データベース) が利用できないため、これまで外部のホスティングサービスを利用していたが、RAICHO サイトの一部のコンテンツのみの運用であれば外部公開用サーバの利用で対応できる可能性もある。「日本語学習支援サイト RAICHO」の日本語自己学習コンテンツは解答履歴を参照できるようになっていたが、この機能を外して、クイズ・テスト作成ソフト「THiNQ Maker」(ロゴスウェア株式会社)を用いて、コンテンツを作り直すことにした。

2017年度は日本語自己学習コンテンツのうち、日本語入力に関するクイズを「THiNQ Maker」で作直し、2017年度末に学内の外部公開用サーバを利用して RAICHO サイトを再公開した。

3 今後の課題

2017年度末に RAICHO サイトの日本語自己学習コンテンツの一部を再公開できたが、2016年度までに公開していたコンテンツのごく一部である。コンテンツの作り直しはひとつひとつ手作業で行っており、時間を要する。効率的に作業を進めていくための体制作りが必要である。

3. 国際交流センター関連行事 (2017年4月～2018年3月)

2017年

- 4月 3日(月) 2017年度前期日本語プログラム講師ミーティング
- 4月 4日(火) 平成29年度4月入学新入留学生のためのオリエンテーション
- 4月 5日(水) 平成29年度学生生活オリエンテーション (各学部)
春期総合日本語コース オリエンテーション
- 4月 6日(木) 前期日本語課外補講 オリエンテーション
学部新入留学生のための時間制作成オリエンテーション
- 4月 7日(金) ライデン大学短期日本語研修プログラム オリエンテーション
- 4月10日(月) ライデン大学短期日本語研修プログラム 開講式
- 4月24日(月) 平成29年度第1回交換留学プログラムWG
- 4月25日(火) 第1回国際交流センター教員会議
- 4月26日(水) 非正規生オリエンテーション (遅れて来日した新入留学生を対象)
- 4月27日(木) 平成29年度 第1回短期派遣留学WG
- 5月 2日(火) スタディーエクスカッション (となみチューリップフェア)
- 5月 8日(月) 第1回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第1回同五福キャンパス部会
- 5月 9日(火) 第1回国際交流センター教員・協力教員合同会議
- 5月13日(土) スタディーエクスカッション (五百羅漢・富山市民族民芸村)
- 5月17日(水) 平成29年度チャールストンカレッジ英語研修プログラム参加者募集説明会
- 5月19日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第1回グローバル・カフェ
- 5月22日(月) 第2回国際交流センター教員会議
- 5月24日(水) 第1回富山大学国際交流センター運営委員会
- 5月25日(木) 第2回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 6月 7日(水) 平成29年度第1回TOEFL等対策検討WG
交換留学オリエンテーション
- 6月 8日(木) 平成29年度第2回短期派遣留学プログラムWG
- 6月12日(月) 第3回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 6月16日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第2回グローバル・カフェ
- 6月19日(月) 第3回国際交流センター教員会議
- 6月22日(木) 第1回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 6月23日(金) 2017年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会
- 6月26日(月) 臨時センター教員会議
平成29年度第1回富山大学国際交流センター運営委員会学生海外留学支援専門委員会
- 6月30日(金) ライデン大学短期日本語研修プログラム修了式
- 7月12日(水) 海外に渡航する富山大学生のための海外危機管理オリエンテーション
- 7月19日(水) 平成29年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会 (五福)
- 7月21日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第3回グローバル・カフェ
- 7月24日(月) 第4回国際交流センター教員会議

- 7月25日(火) 富山大学人間発達科学部「国際交流活動論」(センター教員担当)公開授業
- 7月27日(木) 第4回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第2回同五福キャンパス部会
- 7月31日(月) 第2回富山大学国際交流センター運営委員会
- 8月2日(水)～8月4日(金) 第1回国際交流センター運営委員会短期留学生修了論集編集専門委員会(メール会議)
- 8月2日(水) 平成29年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会(高岡)
- 8月7日(月) 平成29年度第2回TOEFL等対策検討WG
- 8月9日(水)～8月21日(月) 第3回富山大学国際交流センター運営委員会(メール会議)
- 9月3日(日) 2017年度日韓プログラム留学推進フェア(韓国)資料参加
- 9月7日(木)～14日(木) 第3回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会五福キャンパス部会(メール会議)
- 9月8日(金) 平成29年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会(杉谷)
- 9月25日(月) 第5回国際交流センター教員会議
- 9月28日(木) 平成29年度第3回短期派遣留学プログラムWG
五福キャンパス教養教育教員研修会(グッドプラクティス事例発表)センター教員発表
- 10月2日(月) 2017年度後期日本語プログラム日本語プログラム講師ミーティング
第5回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 10月3日(火) 後期日本語課外補講 オリエンテーション
- 10月4日(水) 秋期総合日本語コース オリエンテーション
- 10月5日(木) 第2回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 10月10日(火) 平成29年度第2回交換留学WG
- 10月16日(月)～10月20日(金) 平成29年度第4回短期派遣留学プログラムWG(メール会議)
- 10月18日(水) 平成29年度10月入学新入外国人留学生のためのオリエンテーション
- 10月23日(月) 第6回国際交流センター教員会議
- 10月24日(火)～10月27日(金) 平成29年度第5回短期派遣留学プログラムWG(メール審議)
- 10月24日(火) 第6回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 11月17日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第1回グローバル・カフェ
- 11月18日(土) スタディーエクスカッション(五百羅漢・富山市民族民芸村)
- 11月20日(月) 第7回国際交流センター教員会議
- 11月22日(水) 交換留学オリエンテーション
- 12月9日(土)～12月10日(日) 国際交流センター主催 国際シンポジウム「グローバル時代における外国語教育の未来を考える:動機づけと教師の役割」
- 12月15日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第2回グローバル・カフェ
- 12月18日(月) 第8回国際交流センター教員会議
- 12月20日(水) 第4回富山大学国際交流センター運営委員会

2018年

- 1月11日(木) 第7回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第4回同五福キャンパス部会
- 1月19日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第3回グローバル・カフェ
- 1月22日(月) 第9回国際交流センター教員会議
- 1月26日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第3回グローバル・カフェ

- 2月19日(月) 第10回国際交流センター教員会議
- 2月22日(木) 第8回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 2月23日(金) 平成29年度第2回富山大学国際交流センター運営委員会学生海外留学
支援専門委員会
- 3月13日(火) 第3回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 3月22日(木) 第9回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第5回同五福キャンパス部会
- 3月26日(月) 第5回富山大学国際交流センター運営委員会
第11回国際交流センター教員会議
- 3月30日(金) 国際交流センター主催 国際シンポジウム「グローバル時代における外国語教育の未来を考える：動機づけと教師の役割」報告書発行

平成 29 年度外国人留学生と地域との交流状況

No.	行 事 名	期 日	主 催 団 体 名	参加人数 (留学生)
1	立山バスツアー	5月20日(土)	Toyama International Junction	15
2	国際交流会「外国人留学生との交流の中で世界を身近に感じよう」	6月9日(金)	第一学院富山キャンパス	5
3	UFOのまち羽咋、漫画のまち氷見を歩こう!	6月11日(日)	富山市民国際交流協会	8
4	称名滝探勝ツアー&開通式	7月15日(土)	立山町役場商工観光課	25
5	ゆかた着付け教室	7月30日(日)	富山市民国際交流協会	4
6	廿日市平和ツアー in 広島 2017	8月4日(金) ～8日(火)	廿日市市国際交流協会	1
7	第30回記念 JAPAN TENT	8月17日(木) ～23日(水)	JAPAN TENT開催委員会 事務局	1
8	学園祭国際理解部催事	9月30日(土)	富山県立富山北部高等学校	1
9	お茶をおいしく入れよう!	10月29日(日)	富山市民国際交流協会	2
10	ワンコイン茶会イン富山	11月4日(土)	裏千家 インターナショナル アソシエーション	4
11	産業社会と人間「国際理解講座」	11月9日(木)	富山県立富山いずみ高等学校	2
12	国際交流フェスティバル (各国のブース担当、踊り、 ゲーム)	11月12日(日)	国際交流フェスティバル 2017実行委員会	40
13	水引体験	12月10日(日)	富山市民国際交流協会	2
14	料理交流会「お正月の料理」	12月26日(火)	富山市民国際交流協会	1

国際交流センター教員担当業務（2017年度）

富山大学国際交流センターでは、2017年度において、センター長以下、副センター長3人、専任教員5人の教員体制で、次のような業務を行った。

【国際交流センター教員】

センター長	篠原 寛明（工学部兼任）
副センター長	近藤 隆（学長補佐兼任）
副センター長	齊藤 大紀（人文学部兼任）
副センター長	田中 信之（国際交流センター専任教員）
専任教員	副島 健治
	バハウ サイモン ピーター
	濱田 美和
	田中 信之
	小木曾 左枝子

【コースコーディネーター】

日本語研修コース	田中 信之, バハウ サイモン ピーター
日本語課外補講	小木曾 左枝子
日韓共同理工系学部留学生プログラム	副島 健治
総合日本語コース	濱田 美和
ライデン大学短期日本語研修プログラム	小木曾 左枝子

【授業担当】

④: 日本語課外補講, ⑤: 総合日本語コース, ⑥: 教養教育, ⑦: ライデン大学短期日本語研修プログラム

	前期	後期
副島 健治	④⑤⑦中級「文法・読解 B」(木曜 1 限) ④⑤⑦中級「文法・読解 B」(木曜 2 限) ⑥外国語科目「日本語 A1」(金曜 2 限) ⑥コロキウム「留学のための教養講座」 (水曜 3 限) (人発)「国際交流活動論」(火曜 1 限) ⑦中級「特別指導 B1」(火曜 4 限)	④⑤中級「文法・読解 B」(木曜 1 限) ④⑤中級「文法・読解 B」(木曜 2 限) ⑥外国語科目「日本語 A2」(金曜 2 限) ⑥コロキウム「留学のための教養講座」 (水曜 3 限)
バハウ サイモン ピーター	④「生活日本語 A1 a」(水曜 2 限) ⑥教養科目「日本事情 II」(木曜 2 限) ⑥コロキウム「留学のための教養講座」 (水曜 3 限) (人発)「国際交流活動論」(火曜 1 限) ⑦中級「特別指導 B1」(火曜 4 限)	④「生活日本語 A2 a」(水曜 2 限) ⑥教養科目「異文化理解」(木曜 5 限) ⑥コロキウム「留学のための教養講座」 (水曜 3 限)

濱田 美和	⑧⑨中級「漢字B 1」(月曜4限) ⑩中級「プレゼンテーションB 1a」(水曜3限) ⑪中級「プレゼンテーションB 1b」(水曜4限) ⑫中級「特別指導B 1」(火曜4限) ⑬上級「表現技術C 1」(月曜2限) ⑭上級「文法C 1」(火曜1限) ⑮上級「漢字C 1」(月曜3限) 教外国語科目「日本語A 1」(火曜3限)	⑯中級「漢字B 2」(月曜4限) ⑰上級「表現技術C 2」(月曜2限) ⑱上級「文法C 2」(木曜2限) ⑲上級「漢字C 2」(月曜3限) 教総合科目「日本事情I」(火曜5限)
田中 信之	⑳初級「文法A 1」(木曜1限) ㉑初級「文法A 1」(木曜2限) ㉒中級「聴解・会話B 1b」(火曜3限) ㉓中級「特別指導B 1」(火曜4限) ㉔中級「作文B 1」(金曜3限) ㉕上級「読解C 1b」(木曜4限) 教外国語科目「日本語A 1」(金曜2限)	㉖初級「文法A 2」(火曜1限) ㉗初級「文法A 2」(火曜2限) ㉘初級「文法A 2」(木曜1限) ㉙初級「文法A 2」(木曜2限) ㉚上級「読解C 2b」(木曜4限) ㉛外国語科目「日本語A 2」(金曜2限)
小木曾 左枝子	㉜初級「生活日本語A 1b」(木曜2限) ㉝初級「漢字A 1」(木曜3限) ㉞中級「聴解・会話B 1a」(月曜2限) ㉟中級「文法B 1」(月曜3限) ㊱中級「ポートフォリオを活用した日本語・日本文化学習B 1」(木曜3限) ㊲中級「特別指導B 1」(火曜5限) 教外国語科目「日本語A 1」(火曜3限)	㊳初級「漢字A 2」(月曜4限) ㊴中級「聴解・会話B 2a」(月曜2限) ㊵中級「聴解・会話B 2b」(火曜3限) ㊶中級「文法B 2」(月曜3限) ㊷中級「文法B 2」(火曜4限) 教外国語科目「日本語B 4」(木曜3限)

【留学生指導および留学準備にかかるコンサルテーション等】

	前期	後期
バハウ サイモン ピーター	コンサルテーション (火曜2限)、(水曜4限)、(木曜3限)	コンサルテーション (火曜3限)、(水曜4限)、(木曜3限)

【学内委員等】

国際戦略本部会議
 大学改革推進本部国際交流部会
 国際交流センター運営委員会

篠原 寛明 (副本部長)
 篠原 寛明 (副部会長)
 近藤 隆
 篠原 寛明 (委員長)
 近藤 隆
 齊藤 大紀
 田中 信之
 副島 健治
 濱田 美和
 バハウ サイモン ピーター

五福キャンパス教養教育実施専門委員会	濱田 美和
五福キャンパス教養教育FD専門委員会	田中 信之
国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会	副島 健治 (委員長)
同 五福キャンパス部会	副島 健治 (委員長)
国際交流センター運営委員会海外留学支援専門委員会	バハウ サイモン ピーター
短期留学生修了論集編集専門委員会	濱田 美和
	田中 信之
新教養教育カリキュラム等検討WG	濱田 美和
教養教育総合科目「人生と職業」WG	濱田 美和
日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG	濱田 美和
日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討WG	副島 健治
	バハウ サイモン ピーター
環境安全推進員	小木曾 左枝子
TOEFL等対策検討WG	バハウ サイモン ピーター
	小木曾 左枝子
交換留学WG	副島 健治
	バハウ サイモン ピーター
	小木曾 左枝子
短期派遣留学プログラムWG	副島 健治
	バハウ サイモン ピーター
	小木曾 左枝子
富山大学生生活協同組合理事会	バハウ サイモン ピーター (理事)
【その他業務分担】	
国際交流センター紀要	田中 信之
国際交流センターニュース	バハウ サイモン ピーター
国際交流センターホームページ	副島 健治

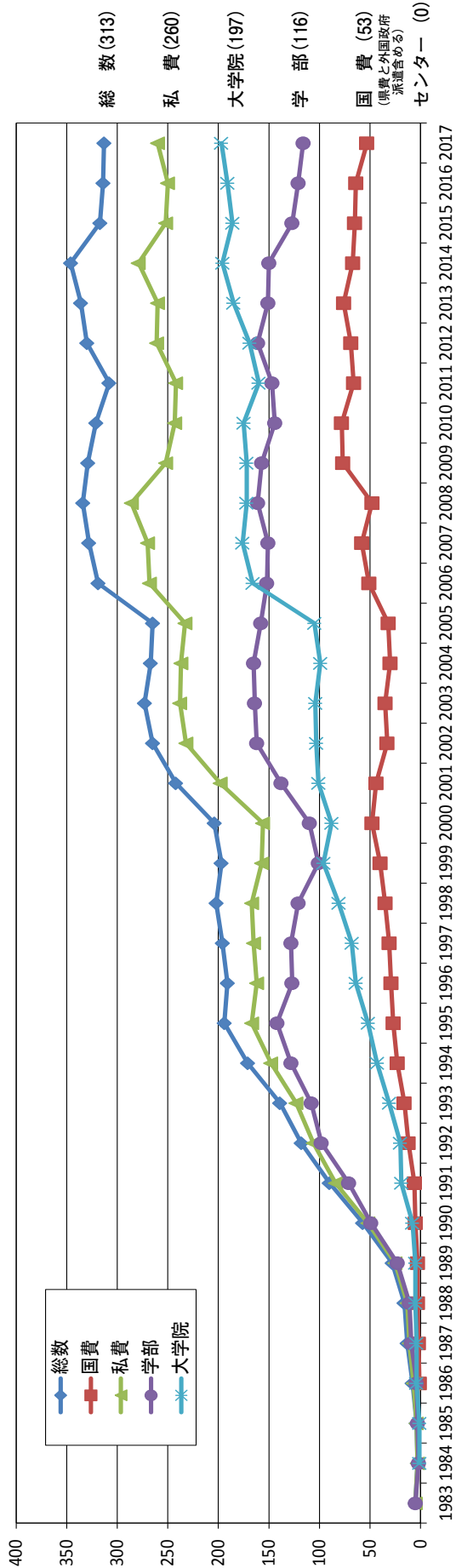


Ⅲ 資料

- 1 富山大学における年度別
外国人留学生数の推移
- 2 富山大学在籍外国人留学生数
- 3 富山大学国際機構規則
- 4 富山大学国際機構紀要投稿要項

富山大学における年度別外国人留学生数の推移

資料 1



	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
総数	2	5	3	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197	204	242	265	273	267	265	319	328	334	329	321	308	330	336	346	317	314	313
国費					1	2	3	3	5	6	12	16	23	27	29	31	35	40	48	44	33	35	30	32	51	58	48	77	78	66	69	76	67	65	64	53
私費	1	5	3	4	7	11	13	25	52	84	106	123	148	167	162	165	167	157	156	198	232	238	237	268	270	286	252	243	242	261	260	279	252	250	260	
学部	2	5	2	3	4	9	11	23	49	71	98	108	128	142	127	128	121	101	110	138	162	164	165	158	152	151	161	157	144	147	161	151	150	127	121	116
大学院			1	1	4	4	5	8	19	20	31	43	52	64	68	81	96	88	101	103	104	99	105	166	176	172	172	175	160	169	185	196	187	191	197	
センター																			6	3	5	3	2	1	1	1	1	1	2	1				3		

(毎年5月1日現在)

※2005年10月に旧富山大学(現五福キャンパス)、富山医科薬科大学(現杉谷キャンパス)、高岡短期大学(現高岡キャンパス)の3大学が統合して現在の富山大学となった。
 2005年度までは旧富山大学のデータである。

※外国政府派遣と県費は国費に含めた。センターは留学生センター(現国際機構)所属の予備教育生を示す。

資料2

富山大学在籍外国人留学生数（2017年度）

1. 部局

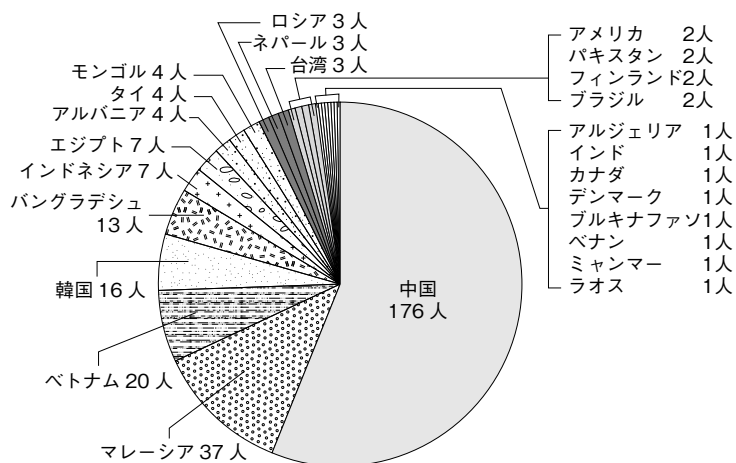
2017年5月1日現在

		正規生					非正規生				合計
		国費	県費	外国政府	私費	小計	国費	県費	私費	小計	計
学部	人文学部				10	10	2	1	14	17	27
	人間発達科学部			1	2	3			3	3	6
	経済学部			4	4	8		1	8	9	17
	理学部				6	6					6
	医学部								2	2	2
	薬学部										
	工学部			22	23	45			7	7	52
	芸術文化学部	1			4	5			1	1	6
	小計	1	0	27	49	77	2	2	35	39	116
大学院 (修士・博士前期)	人文科学研究科				7	7		1	2	3	10
	人間発達科学研究科				1	1			1	1	2
	経済学研究科	1			25	26			6	6	32
	医学薬学教育部	1	2		23	26					26
	理工学教育部（理学系）				8	8					8
	理工学教育部（工学系）		2		24	26			2	2	28
	芸術文化学研究科				2	2					2
	小計	2	4	0	90	96	0	1	11	12	108
大学院 (博士・博士後期)	医学薬学教育部	4			26	30			1	1	31
	生命融合科学教育部（五福）	3			3	6					6
	生命融合科学教育部（杉谷）	3			12	15					15
	理工学教育部（理学系）				3	3					3
	理工学教育部（工学系）	4			29	33			1	1	34
	小計	14			73	87			2	2	89
国際交流センター										0	
和漢医薬学総合研究所										0	
合計	17	4	27	212	260	2	3	48	53	313	

2. キャンパス別

五福キャンパス	231
杉谷キャンパス	74
高岡キャンパス	8
合計	313

3. 国・地域別（計25ヶ国・地域）



富山大学国際機構規則

平成 30 年 3 月 27 日制定

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人富山大学学則（以下「学則」という。）第 11 条の 2 第 2 項の規定に基づき、富山大学国際機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 機構は、学則第 3 条に規定する目的の実現に向け、富山大学（以下「本学」という。）における国際化に関する事業を統括し、本学の国際化を推進する。

(業務)

第 3 条 前条の目的を達成するため、機構は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 国際戦略（国際化の基本方針及び目標計画等を含む。）の策定及び国際交流の推進に関すること。
- (2) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
- (3) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
- (4) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
- (5) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
- (6) 外国人留学生のキャリア支援に関すること。
- (7) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化に関すること。
- (8) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
- (9) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
- (10) 国際交流に関する調査及び研究
- (11) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
- (12) その他機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。

第 2 章 組織

(グローバルフロント)

第 4 条 機構に、グローバルフロント（以下「フロント」という。）を置く。

2 フロントは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画，年度計画及び評価の立案に関すること。
 - (2) 機構事業推進に関わる部門間の連携に関すること。
 - (3) 部局等との連携・調整に関すること。
 - (4) 機構事業推進に関わる企画・立案，協定校等の開拓に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 前項に掲げるもののほか，フロントに関し必要な事項は，別に定める。

(部門)

第5条 機構に，交流部門及び教育部門を置く。

- 2 交流部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
 - (2) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
 - (3) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
 - (4) 外国人留学生の就学支援体制の構築に関すること。
 - (5) 国際意識の学内普及に関すること。
 - (6) 外国人留学生のキャリア支援及び本学学生の海外インターンシップ実施協力等に関すること。
 - (7) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
 - (8) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
 - (9) 国際交流に関する調査及び研究
 - (10) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 教育部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
 - (2) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化（教養教育院及び各学部が開設する英語関連の授業科目は除く）に関すること。
 - (3) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
 - (4) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 4 前各項に掲げるもののほか，部門に関し必要な事項は，別に定める。

第3章 職員

(職員)

第6条 機構に，次に掲げる職員を置く。

- (1) 機構長

- (2) 副機構長
 - (3) 部門長
 - (4) 専任教員
 - (5) 兼任教員
 - (6) フロントフェロー
 - (7) その他機構長が必要と認めた者
- 2 前項のほか、部門に、必要に応じて副部門長を置くことができる。

(機構長)

第7条 機構長は、機構の業務を統括する。

- 2 機構長は、学長が指名する理事をもって充てる。

(副機構長)

第8条 副機構長は、機構長を補佐する。

- 2 副機構長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 副機構長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合、後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロント長)

第9条 フロントに、フロント長を置く。

- 2 フロント長は、フロントの業務をつかさどる。
- 3 フロント長は、副機構長をもって充てる。

(部門長)

第10条 部門長は、担当する部門の業務をつかさどる。

- 2 部門長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 部門長に欠員が生じた場合、後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副部門長)

第11条 副部門長は、部門の運営に当たり部門長を補佐する。

- 2 副部門長は、部門を担当する専任教員又は兼任教員から機構長が指名する者をもって充てる。
- 3 副部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

4 副部門長に欠員が生じた場合、後任の副部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第12条 専任教員は、フロント又は部門の業務に従事する。

2 専任教員の選考については、別に定める。

(兼任教員)

第13条 兼任教員は、フロント又は部門の業務に従事する。

2 兼任教員は、機構長が推薦し、部局長等及び本人の承諾を得て、学長が命ずる。

3 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。

4 兼任教員に欠員が生じた場合、後任の兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロントフェロー)

第14条 フロントフェローは、各部門と協力して部局等と連携し、事業を推進する。

2 フロントフェローは、機構長が部局長等及び本人の承諾を得て指名する。

3 フロントフェローの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

第4章 会議

(機構運営会議)

第15条 機構に、富山大学国際機構運営会議（以下「機構運営会議」という。）を置き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画、年度計画及び評価に関すること。
 - (2) 専任教員の教育研究業績の審査（選考を含む。）に関すること。
 - (3) フロント及び部門の業務に関すること。
 - (4) 海外大学等との学術交流協定に関すること。
 - (5) 国際交流に係る地域連携に関すること。
 - (6) 外国人留学生の奨学金に関すること（受給者の選考を含む。）。
 - (7) 学生の海外派遣に係る奨学金に関すること（受給者の選考を含む。）。
 - (8) 国際交流会館の管理運営に関すること（入居者の選考を含む。）。
 - (9) その他機構の目的達成に必要な事項
- 2 機構運営会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
- 3 専門委員会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(構成員)

第 16 条 機構運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
 - (2) 副機構長
 - (3) 部門長
 - (4) 学部（理学部，医学部，薬学部，工学部及び都市デザイン学部を除く。），及び
研究部の各系から選出された教員 各 1 人
 - (5) 教養教育院から選出された教員 1 人
 - (6) 大学院生命融合科学教育部担当から選出された教員 1 人
 - (7) 和漢医薬学総合研究所から選出された教員 1 人
 - (8) 附属病院から選出された教員 1 人
 - (9) 国際部の部長及び課長
 - (10) その他機構長が必要と認めた者
- 2 前項第 4 号から第 8 号まで及び第 10 号の委員の任期は 2 年とし，再任を妨げない。
ただし，任期の途中で委員の交替があった場合の後任の委員の任期は，前任者の残任
期間とする。

（会議の招集及び議長）

第 17 条 機構長は，機構運営会議を招集し，その議長となる。

- 2 議長に事故があるときは，副機構長がその職務を代行する。

（議事）

第 18 条 機構運営会議は，委員の過半数の出席により成立し，議事は出席者の過半数を
もって決する。ただし，可否同数のときは，議長がこれを決する。

- 2 前項の規定にかかわらず，第 15 条第 1 項第 2 号の事項を審議する会議は，委員の 3 分
の 2 以上が出席しなければ開会できない。議事は，出席者の 3 分の 2 以上をもって決す
る。
- 3 第 16 条第 1 項第 2 号から第 8 号及び第 10 号の委員のうち教授を除く委員並びに同条
同項第 9 号の委員は，第 15 条第 1 項第 2 号の審議には加わらない。

（意見の聴取）

第 19 条 機構運営会議が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求めて意見を聴くこ
とができる。

第 5 章 雑則

（雑則）

第 20 条 この規則に定めるもののほか，機構の運営に関し必要な事項は，機構運営会議の

意見を聴いて、機構長が別に定める。

(事務)

第 21 条 機構の事務は、国際部において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初に選出される第 16 条第 1 項第 4 号から第 8 号までの委員のうち人文学部、経済学部、医学薬学研究部の医学系、理工学研究部の工学系、大学院生命融合科学教育部担当及び附属病院から選出された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、平成 31 年 3 月 31 日までとする。

富山大学国際機構紀要投稿要項

1 目的

富山大学国際機構（以下「機構」という。）は、日本語・日本事情教育，異文化教育，留学生教育，国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文，研究資料等を発表するため，富山大学国際機構紀要（以下「機構紀要」という。）を発行する。

2 執筆者の資格

- (1) 機構の専任教員及び非常勤講師とする。
- (2) 編集委員会が特に認めた者
- (3) (1)(2)の者が筆頭著者となっている共著者については，制限しない。

3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は，未発表のものとする。
- (2) 原稿の種目は，論文，研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言，史・資料の紹介及び考察，又は萌芽的研究を記したものを指す。），研究資料（実践記録・調査結果，既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。），実践・調査報告，書評のいずれかとする。

4 原稿の長さ

原稿の長さは，1篇につき，図・表・写真等を含め，原則として刷り上がり20ページ以内とする。

5 原稿の体裁

富山大学国際機構紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って，記述する。

6 編集委員会

機構紀要編集のため，国際機構長と機構の専任教員で構成される編集委員会を置く。編集委員長は国際機構長とする。

7 投稿手続き

- (1) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ，原稿とともに国際機構長に提出する。
後日，原稿受領書を受け取る。
- (2) 提出された年月日をもって，受付年月日とする。
- (3) 原稿提出締切日は，別途定める。

8 原稿の採否

論文等の採否は、本要項及び執筆要領に基づいて、編集委員会が決定する。

9 発行回数

原則として、年1回とする。

10 その他

掲載された論文等の二次利用は、編集委員会に委ねるものとする。ただし、著者は自由に利用できるものとする。

附則

本要項の実施は、2018年4月1日から適用する。

執筆者一覧

大西 吉之	富山大学経済学部 准教授
小木曾 左枝子	富山大学国際機構 准教授
副島 健治	富山大学国際機構 教授
田中 信之	富山大学国際機構 准教授
バハウ サイモン ピーター	富山大学国際機構 教授
濱田 美和	富山大学国際機構 教授

富山大学国際機構紀要 創刊号

発行年月 / 2018 年 12 月

編集・発行 / 国立大学法人 富山大学国際機構

〒 930-8555 富山県富山市五福 3190

印刷所 / 中央印刷(株)

Journal of the Organization for International Education and Exchange, University of Toyama

Vol.1
December
2018

Contents

I

Research Papers

- TANAKA Nobuyuki
Analysis of Teaching Records' Representations of
Elementary Japanese Grammar Class Contents 1
- BAHAU Simon Peter
SOEJIMA Kenji
Empowerment for Nurturing of Global Thinking in Japanese
University Students: A Practical and Provocative Approach in
Utilizing Courses for Study Abroad Preparation and International
Understanding and Exchange Activities 12
- HAMADA Miwa
Error Analysis of Intermediate and Advanced Learners of Japanese
—Answers to Kanji Reading Quiz Questions: A Preliminary Exploration— 19
- OGISO Saeko
ONISHI Yoshiyuki
The Implementation of Collaborative Learning between
International Students and Japanese Students:
An analysis of student questionnaires from a discussion class 34

II

Annual Reports (April 2017~March 2018年)

- 1.Report on International Student Intake & Advising
and Outgoing Study Abroad Support 45
- 2.Reports on Japanese Language Programs 51
- Report on Extracurricular Japanese Language Program 52
- Report on Short-term Japanese Language Program for Leiden University Students 59
- Report on General Japanese Language Course 66
- Student Class Questionnaire Results: Elementary Level Classes 73
- Student Class Questionnaire Results: Intermediate Level Classes 77
- Student Class Questionnaire Results: Advanced Level Classes 83
- Development and Maintenance of Japanese Language Support Website "RAICHO" 91
- 3.Calendar Year Events and Meetings 92
- 4.List of Staff and Their Responsibilities at the CIER 96

III

- Data 99

Journal of the Organization for International Education and Exchange,
University of Toyama



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。